

令和5年度

# 授業計画（シラバス）集



専門学校  
柳川リハビリテーション学院  
理学療法学科 1年

2023

## 目 次

### 理学療法学科

第1学年	【基礎分野】	頁
	心理学	1
	生物学	2
	バイオメカニクス	3
	保健医療統計学	4
	健康科学実践	5・6
	英語	7
	コミュニケーション論	8・9
【専門基礎分野】		
	解剖学 I	10・11
	解剖学 II	12
	人体構造機能学	13・14
	生理学 I	15・16
	生理学 II	17
	運動学	18・19
	人間発達学	20
	病理学	21
	臨床心理学概論	22
	公衆衛生学	23
	小児科学	24
	老年学	25
	リハビリテーション科学 I	26
	リハビリテーション概論	27
【専門分野】		
	理学療法概論	28
	理学療法基礎 I	29・30
	理学療法管理学 I	31
	評価学概論	32
	理学療法評価学 I	33
	理学療法評価学 II	34・35
	臨床実習 I (見学実習)	36

科目名	心理学					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	前 期	単位数	2 単位	時間数	30 時間
講師氏名	大坪 快					実務経験			
授業概要	人はどのようなことを考え、どのような行動をするのか、心理学の基礎的な理論を、教科書や資料を用いて解説する。								
到達目標	心理学の各領域の代表的な理論と知見を紹介し、また日常生活の身近な題材を活用して、人間行動の仕組みに関する認識を深め、心理学の基礎を習得する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	心理学の輪郭 心理学の定義と歴史、研究方法、研究領域を概説する。								講義 大坪 快
第2回	感覚と知覚 さまざまな知覚現象を紹介しつつ、人間が環境を認識するための知覚機能のメカニズムを説明する。								講義 大坪 快
第3回	学習 経験を通じて、人間が行動を獲得するための学習の原理について説明する。								講義 大坪 快
第4回	記憶と忘却 情報や知識に関する人間の記憶のメカニズムとその特徴について説明する。								講義 大坪 快
第5回	空間行動 生活空間や対人距離に関する人間の認識にみられる特徴と、空間に対する人間の働きかけについて説明する。								講義 大坪 快
第6回	発達 人間の発達に関して、身体・運動、認知能力、情動、社会性の側面からみた特徴を説明する。								講義 大坪 快
第7回	自分らしさのなりたち 性格の捉え方に関するいくつかの理論的立場と、性格の測定法について説明する。								講義 大坪 快
第8回	心の揺らぎと痛み こころの健康と適応、ストレスとその対処について説明する。								講義 大坪 快
第9回	対人関係(1) 自己および他者に対する認知のあり方に関する研究知見と理論について説明する。								講義 大坪 快
第10回	対人関係(2) 親密な対人関係の形成・発展・崩壊の過程について説明する。								講義 大坪 快
第11回	対人行動(1) 他者を助ける援助行動に関して、その生起過程や類型を取り上げて説明する。								講義 大坪 快
第12回	対人行動(2) 他者への依頼・説得という行動に焦点をあて、対人行動の特徴を説明する。								講義 大坪 快
第13回	集団 集団が個人の行動に及ぼす影響と、集団間で生じる葛藤とその解決について説明する。								講義 大坪 快
第14回	コミュニケーション コミュニケーションの基本原理を説明し、さらに対人コミュニケーションの過程に影響する諸要因について概説する。								講義 大坪 快
第15回	まとめ 基礎的理論について、講義内容を振り返りながらまとめをする。								講義 大坪 快
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 参加状況 )								)
成績評価基準	授業への参加状況(40%)と期末試験(60%)によって評価する。								
準備学習 学習への アドバイス	・講義内容は、周知した上で、シラバスの内容と変更することがある。 ・前回の講義で指示された教科書のページを読み、重要用語を中心に整理すること。 ・学習内容が日常生活にどのように結びついているか考えること。								
教科書	書籍名:生活にいかす心理学[ver.2] 古城和子(編著) 出版社:ナカニシヤ出版								
参考書									

科目名	生物学					学 科	理学療法学科					
年 次	1年次	分 野	基 础	学 期	前 期	単位数	2 单位	時 間 数	30 時間			
講師氏名	世波 貴子					実務経験						
授業概要	医療に関する専門教科、科目を理解する上で必要となる、基本的な生物学の知識を習得する。特に、疾患の理解に不可欠な細胞学、微生物学、生理学分野を中心的に学ぶ。また、現在の生物学の中心であるDNAと遺伝のしくみに関する理解を深めるための講義を行う。											
到達目標	1 タンパク質、脂質等の生体物質の構造と基本的な特徴を理解し、説明できる。 2 細胞の構造と、細胞小器官の役割を理解し、説明できる。 3 DNAの構造と複製、遺伝子発現のしくみ、タンパク質との関連を理解し、説明できる。 4 酵素と代謝について理解し、説明できる。 5 細菌、ウイルス等の生物学的特徴と、疾患との関係を理解し、説明できる。 6 ニューロンによる伝導、伝達の原理と、神経系の機能を理解し、説明できる。 7 体液の組成、循環と、自律神経系と内分泌系を中心とした恒常性維持のしくみを理解し、説明できる。 8 免疫系と生体防御のしくみを理解し、説明できる。 9 主に遺伝子から見た生物進化について理解し、説明できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	タイトル：生体を構成する物質 アミノ酸とタンパク質 脂質、炭水化物の基本構造と生体における役割								講義 世波 貴子			
第2回	タイトル：細胞の構造 生体膜の構造と浸透性の特徴 細胞小器官の役割								講義 世波 貴子			
第3回	タイトル：生物の分類 生物の系統分類 細菌、ウイルスの生物学的特徴と疾患との関係								講義 世波 貴子			
第4回	タイトル：DNAと遺伝のしくみ1 DNAの構造と複製 遺伝子発現とタンパク質の合成								講義 世波 貴子			
第5回	タイトル：DNAと遺伝のしくみ2 遺伝子と染色体、およびメンデル遺伝とその他の遺伝 突然変異と遺伝性疾患								講義 世波 貴子			
第6回	タイトル：代謝と酵素 代謝とATP、酵素の働き 呼吸の過程								講義 世波 貴子			
第7回	タイトル：ニューロンと神経系 ニューロンと静止電位の形成 興奮の伝導と伝達								講義 世波 貴子			
第8回	タイトル：神経系の構造 中枢神経系の構造 運動の制御								講義 世波 貴子			
第9回	タイトル：筋肉と運動 筋肉の分類 骨格筋の構造と収縮のしくみ								講義 世波 貴子			
第10回	タイトル：体液と循環 体液の種類と組成 心臓と循環系								講義 世波 貴子			
第11回	タイトル：体液恒常性の維持 自律神経系と内分泌系 血糖量、体温、体液浸透圧の調節								講義 世波 貴子			
第12回	タイトル：排出 腎臓の構造 尿生成と体液恒常性								講義 世波 貴子			
第13回	タイトル：免疫 白血球の種類と働き 液性免疫と細胞性免疫								講義 世波 貴子			
第14回	タイトル：生態系と生物進化 生態系の構造 遺伝子から見た生物進化								講義 世波 貴子			
第15回	タイトル：講義のまとめ まとめの問題と解説								講義 世波 貴子			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	出席(20%)、期末試験(80%)											
準備学習 学習への アドバイス	高校で基礎生物のみ履修している場合は、専門生物の内容を参考書等で予習しておくことが望ましい。											
教科書	使用しない											
参考書	エッセンシャル キャンベル生物学原書6版(池内昌彦 他監訳)丸善出版 アメリカ版 大学生物の教科書 第1巻～第3巻 講談社 改訂版 大学1,2年生のためのすぐわかる生物 大森茂著 東京図書											

科目名	バイオメカニクス					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間
講師氏名	蓮本 礼佳					実務経験	理学療法士として臨床経験5年、 リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	人の動きを理解するための力学の基礎を学ぶ。								
到達目標	理学療法士に必要な基礎的な力学について理解することができる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	重りの重さとバネの伸びについて学ぶ。 力の合成について学ぶ。								講義 蓮本 礼佳
第2回	テコの第1の法則・第2の法則・第3の法則について学ぶ。 力のモーメントについて学ぶ。								講義 蓮本 礼佳
第3回	生体の中のテコを見極める。 頭部、上肢等								講義 蓮本 礼佳
第4回	生体の中のテコを見極める。 下肢等								講義 蓮本 礼佳
第5回	輪じくの仕組みについて学ぶ。 滑車の仕組みについて学ぶ。								講義 蓮本 礼佳
第6回	ニュートンの第3法則(作用・反作用)について学ぶ。 力の分解について学ぶ。								講義 蓮本 礼佳
第7回	速度とベクトルについて学ぶ。 物体に加わる力と加速度について学ぶ。								講義 蓮本 礼佳
第8回	速度とベクトルについて学ぶ。 物体に加わる力と加速度について学ぶ。								講義 蓮本 礼佳
第9回	力学的仕事について学ぶ。 力学的エネルギーについて学ぶ。								講義 蓮本 礼佳
第10回	基本動作について学ぶ。 動作の観察について学ぶ。								演習 蓮本 礼佳
第11回	寝返りから起き上がりの介助方法について学ぶ。 端座位から立ち上がりの介助方法について学ぶ。								演習 蓮本 礼佳
第12回	寝返りから起き上がりの介助方法について学ぶ。 端座位から立ち上がりの介助方法について学ぶ。								演習 蓮本 礼佳
第13回	移乗動作(ベッドから車椅子)介助方法について学ぶ。 移乗動作(車椅子からベッド)介助方法について学ぶ。								演習 蓮本 礼佳
第14回	移乗動作(ベッドから車椅子)介助方法について学ぶ。 移乗動作(車椅子からベッド)介助方法について学ぶ。								演習 蓮本 礼佳
第15回	歩行動作介助について学ぶ。 車椅子介助・杖歩行について学ぶ。								演習 蓮本 礼佳
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	理学療法士には人間の動きを力学的にとらえる能力が必要である。その土台となる力学の基礎について学ぶ科目であるため、数学・物理が苦手な学生であっても理解できるように頑張ってほしい。講義終了後には、十分な復習を行ってほしい。								
教科書	身体運動の理解につなげる物理学(南江堂)								
参考書	VLC:HSPD-01 力学 及び HKD-01 バイオメカニクスの基礎								

科目名	保健医療統計学					学 科	理学療法学科					
年 次	1年次	分 野	基 础	学 期	前 期	単位数	2 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	井 稔					実務経験						
授業概要	統計学の基礎的、標準的な手法を理解し、保健医療統計学の常識的知識を学習する。 レポート作成や今後仕事でも使えるように、エクセルを使った分析を学習する。											
到達目標	統計学とはどのようなものか、数学が苦手な学生にも興味を持ってもらう。 期待値、標準偏差、正規分布、相関係数などの統計の基礎について説明ができる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	統計学とは:AIとの関係は?、主観と客観、記述統計と推測統計、標本の選び方								講義			
第2回	量的変量、質的変量、期待値、ヒストグラム、相関係数								講義			
第3回	平均値、中央値、箱ひげ図、分散/標準偏差								講義			
第4回	重要な確率分布①:正規分布、95%信頼区間								講義			
第5回	重要な確率分布②:正規分布、95%信頼区間								講義			
第6回	統計的検定の基礎①:対立仮設、帰無仮説、有意確率、t検定、カイニ乗検定								講義			
第7回	統計的検定の基礎②:対立仮設、帰無仮説、有意確率、t検定、カイニ乗検定								講義			
第8回	【Excelを使った統計処理】度数分布表、ヒストグラムの作成								講義			
第9回	【Excelを使った統計処理】平均値、分散/標準偏差、グラフ作成								講義			
第10回	【Excelを使った統計処理】散布図、相関係数、回帰直線								講義			
第11回	【Excelを使った統計処理】クロス集計表								講義			
第12回	【Excelを使った統計処理】確率分布、区間推定								講義			
第13回	【Excelを使った統計処理】仮設の検定①								講義			
第14回	【Excelを使った統計処理】仮設の検定②								講義			
第15回	【Excelを使った統計処理】重回帰分析								講義			
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	レポート100%											
準備学習 学習への アドバイス	授業後の復習を重点的に行いましょう。 後半からはパソコン(Excel)を使った授業を行う予定です。											
教科書	独習 統計学24講 医療データの見方・使い方 (ISBN:978-4-254-12193-3) よくわかる統計学 看護医療データ編 (ISBN:978-4-489-02351-4)											
参考書	統計検定 ( <a href="https://www.toukei-kentei.jp/">https://www.toukei-kentei.jp/</a> )											

科目名	健康科学実践					学 科	理学療法学科					
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	田中 利明					実務経験						
授業概要	健康と運動の関連性について学び、生涯にわたって日常的に健康づくりを実践するための演習と講義を行う。											
到達目標	・身体運動を通じた健康保持・増進について理解する。 ・健康づくりに適した運動について学び、ルールや特性について理解する。 ・安全に気を配り、実践者の体力や能力に応じた強度や内容の運動プログラムが作成できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	オリエンテーション、健康科学実践の概要理解 ・健康科学実践で学ぶ内容を理解し、生涯スポーツと健康について考える。 ・健康、体力、ストレスチェック等により自己分析を行い、自己の健康・体力に気づく。								講義 演習			
第2回	自己の体力を知る1 ・体を整えるウォーミングアップを実施する。 ・選択した新体力測定をグループで実施し、自己の体力分析を行う。								演習 グループ学習			
第3回	自己の体力を知る2 ・グループで協力してウォーミングアップを考え実施する。 ・選択した新体力測定をグループで実施し、自己の体力分析を行う。								演習 グループ学習			
第4回	体操の意義 ・ラジオ体操第1やみんなの体操について学習する。 ・アレンジの要素を理解し、高齢者や障がい者を想定したアレンジメントに取り組む。								演習 グループ学習 講義			
第5回	体つくり運動実践1 ・体ほぐし運動と用具を使った体力を高める運動を実施する。 ・用具を使った簡易ゲームに取り組む。								演習 グループ学習			
第6回	体つくり運動実践2 ・ストレッチングの種類を知り、自分に合った運動を選択できる。 ・アレンジメントしたストレッチングを表現できるように繰り返し練習する。								演習 グループ学習			
第7回	健康ウォーキング実践1 ・健康ウォーキングの基礎①姿勢②歩幅、速度③歩行スピードと歩数・心拍数。 ・運動強度に合わせた実践ができているかを確認する。								演習 講義			
第8回	ソフトバレーボール実践1 ・ルールや特性・運動強度を理解する。 ・ソフトバレーボールを通して簡易ゲームを体験する。								演習 グループ学習			
第9回	ソフトバレーボール実践2 ・個人、チームで練習メニューを組み立てる。 ・目標や作戦を立ててゲームに臨むことができる。								演習 グループ学習			
第10回	ソフトバレーボール実践3 ・チームで目標を決め、役割を確認してゲームに取り組む。 ・練習やゲームを通してチーム内のコミュニケーション能力を高める。								演習 グループ学習			
第11回	バレーボール実践1 ・パスを中心とした個人の技術を学び、効果的な練習方法を学ぶ。 ・ラリーが続く楽しいゲームに取り組む。								演習 グループ学習			
第12回	バレーボール実践2 ・相手を攻める技術を学び、戦術をたて工夫してゲームに取り組む。 ・自分たちでルールを決めたり、役割分担を決めてゲームを行う。								演習 グループ学習			
第13回	バレーボール実践3 ・コートの広さを考慮して戦術をたて、工夫してゲームに取り組む。 ・バレー ボールゲームを通して他とのコミュニケーション能力を高める。								演習 グループ学習			
第14回	軽スポーツ実践1 ・卓球、バトミントン等において個の目標を決めて、運動を実践する。 ・コートの広さを考慮した練習や簡易ゲームを行う。								演習 グループ学習			
第15回	軽スポーツ実践2 ・卓球、バトミントン等において個の目標を決めて、運動を実践する。 ・コートの広さを考慮した練習や簡易ゲームを行う。								演習 グループ学習			

第16回	健康ウォーキング実践2 ・健康ウォーキングの基礎①姿勢②歩幅、速度③歩行スピードと歩数・心拍数。 ・運動強度に合わせた実践ができるかを確認する。	演習 講義
第17回	ダンス創作1 ・ダンスビデオを元に体の動きを体感する。 ・チームでダンスを選び、動き作りを行う。	演習 講義 グループ学習
第18回	ダンス創作2 ・移動・方向・高さに変化を付けた動きづくりを心がける。 ・決められたダンスの要素や工夫した点を確認しながら練習に取り組む。	グループ学習
第19回	ダンス創作3 ・チームで協力して創作したダンスを習得する。 ・繰り返し練習を行い、完成度を高める。	グループ学習
第20回	ダンス創作4 ・自分たちで創作したダンスを発表する。 ・創作したダンスの鑑賞を行い、自分たちや他チームの作品を評価する。	グループ学習
第21回	バスケットボール実践1 ・シュートのスキルを身につけ、チームシュートの確立を高める。 ・バスケットボールを通してコミュニケーション能力を高める。	演習 グループ学習
第22回	バスケットボール実践2 ・チームのレベルに合わせて目標を設定する。 ・役割を分担して戦術を考え、実践する。	演習 グループ学習
第23回	バスケットボール実践3 ・勝つためのチーム目標を設定する。 ・戦術を考え実践し、個やチームの課題を見つける。	演習 グループ学習
第24回	ニュースポーツにふれよう1 ・ニュースポーツの種類を知り、運動実践する。 ・勝敗や得点の方法、内容やルールなどを決めて、簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第25回	ニュースポーツにふれよう2 ・ニュースポーツの種類を知り、運動実践する。 ・勝敗や得点の方法、内容やルールなどを決めて、簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第26回	ニュースポーツにふれよう3 ・ニュースポーツの種類を知り、運動実践する。 ・勝敗や得点の方法、内容やルールなどを決めて、簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第27回	ニュースポーツづくり ・共生社会を見据え、健常者や高齢者及び障がい者を対象としたアダプティックスポーツを考案する。 ・各チームで考案したニュースポーツを指導実践する。	演習 グループ学習
第28回	選択スポーツ実践1 ・実施可能なスポーツをチームで選択し、個やチームの目標を決めて、運動を実践する。 ・会場の広さを考慮した練習や簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第29回	選択スポーツ実践2 ・実施可能なスポーツをチームで選択し、個やチームの目標を決めて、運動を実践する。 ・会場の広さを考慮した練習や簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第30回	選択スポーツ実践3 ・実施可能なスポーツをチームで選択し、個やチームの目標を決めて、運動を実践する。 ・自分の運動やスポーツに対する姿勢について考える。	演習 講義
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 實習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 授業およびグループワークにおける主体的な取り組み )	)
成績評価基準	レポート内容(30%)、実技(30%)、授業への主体的参加状況および取り組みに対する態度(40%)	
準備学習 学習への アドバイス	・演習が多いので出席することが非常に重要である。運動のできる服装やシューズ、タオル、マスク等を忘れないこと。 ・各自が、健康安全に十分留意し、他者に気を配り協働してよりよい雰囲気を創り上げることに心がける。	
教科書	必要に応じプリントを配布	
参考書	なし	

科目名	英語					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	前 期	単位数	2 单位	時間数	30 時間
講師氏名	栗本 聰					実務経験			
授業概要	基礎レベルの英語を読む、書く、聞く、話すという演習を通じて、医療現場での英語コミュニケーション能力の土台を作る。第3回から第12回授業にかけて小テストを行い、語彙力を増強する。期末試験は自らトピックを選び、ドラフトを書き、それに基づく口頭発表を行うものとする。								
到達目標	医療従事者と患者間で発生するコミュニケーションの基礎力を養い、間違いを恐れずに英語を発話できるようになる。ペアワークを通じて相手の質問に答えたり、あるいは相手に対して適切な質問をすることができるようになる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	オリエンテーション、教科書構成の説明、予習方法、成績評価等を確認する。 自己紹介(英語で話してみる)								演習
第2回	Situation 1 Introducing Yourself 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習
第3回	Conversation 1 Jobs 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習
第4回	Integrated Dialog – Introduce Yourself 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking								演習
第5回	Conversation 8 Food you like 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習
第6回	Focus 1 Do you like celery? 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習
第7回	Integrated Dialog – Foods we like 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking								演習
第8回	Focus 2 What did you do in Europe? 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習
第9回	Conversation 2 Past Trips 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習
第10回	Integrated Dialog – Past Travel Experiences 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking								演習
第11回	Conversation 3 Around the City 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習
第12回	Focus 3 What's a nice place to see the fall leaves? 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習
第13回	Integrated Dialog – Sightseeing recommendations 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking								演習
第14回	実技試験(口頭発表)準備 実技試験(口頭発表)のためのドラフトを作成する Reading, Writing								演習
第15回	実技試験(口頭発表) ドラフトに基づいた実技試験(口頭発表)を行う Listening, Speaking								演習
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 拳手や発言、ペアワークへの積極的な参加を授業参加度として評価する )								
成績評価基準	小テスト(40%)、実技試験(30%)、授業参加度(30%)								
準備学習 学習への アドバイス	アプリを使って予習(次の単元の語彙を覚える、音声を聞き、発話する)を行い、次回の授業に臨んでください。								
教科書	『Challenger α 1』 ECC ¥3,960								
参考書									

科目名	コミュニケーション論					学 科	理学療法学科					
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	榎 英一・小ヶ倉 悠太					実務経験	榎：理学療法士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校等にて授業経験12年 小ヶ倉：理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校等にて授業経験1年					
授業概要	医療人としての資質・コミュニケーション能力とは何かを考えていきます。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ姿勢を養う</li> <li>・医療人としての資質を考える</li> <li>・医療人として必要なコミュニケーションスキルを高める</li> </ul>											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	<p>【医療者になるための準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人援助職としての理学療法士</li> <li>・理学療法学生に必要なコミュニケーション能力</li> </ul>								講義 榎 英一			
第2回	<p>【コミュニケーション力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みる」、「きく」、「伝える」力</li> </ul>								講義 榎 英一			
第3回	<p>【表現力】発表あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3分間スピーチの実践</li> </ul>								演習 榎 英一			
第4回	<p>【表現力】発表あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3分間スピーチの実践</li> </ul>								演習 榎 英一			
第5回	<p>【コミュニケーションとは】【意味とコンテクスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迷信だらけのコミュニケーション</li> <li>・人の中にある「意味」・私達をとりまく「コンテクスト」(第3章)</li> </ul>								講義 榎 英一			
第6回	<p>【同時に起きる「発信」と「受信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「発信者」と「受信者」の役割・認識のズレから生じる問題</li> <li>・刺激は「メッセージ」、反応は「フィードバック」・メッセージの通り道</li> </ul>								講義 榎 英一			
第7回	<p>【コミュニケーションにおける「くせ」・対立場面で生じる「感情のささくれ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの「くせ」</li> <li>・当事者間に対立が生じた時のコミュニケーション</li> </ul>								講義 榎 英一			
第8回	<p>【「トゲ抜き」で防げる感情のささくれ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「感情のささくれ」を防ぐ3つのルール</li> </ul>								講義 榎 英一			

第9回	【実習指導者とのコミュニケーション】 提出課題あり 自己管理 報告連絡相談	講義 小ヶ倉 悠太
第10回	【実習指導者とのコミュニケーション】 提出課題あり ・電話連絡 ・お礼状	講義 小ヶ倉 悠太
第11回	【コミュニケーションOSCE】 提出課題あり ・模擬患者に対するコミュニケーション(動画視聴)	講義 小ヶ倉 悠太
第12回	【コミュニケーションOSCE】 提出課題あり ・模擬患者の調べ学習	講義 小ヶ倉 悠太
第13回	【コミュニケーション論OSCE】 ・Objective Structured Clinical Examination(OSCE) ・模擬患者に対するコミュニケーション(実践)	講義 小ヶ倉 悠太
第14回	【臨床面接 実技】 医療面接の実技演習を実施する。	講義 小ヶ倉 悠太
第15回	【医療面接 実技試験】 実際の臨床場面を想定した医療面接の実技試験を実施する。	演習 小ヶ倉 悠太
第16回	【医療面接 実技試験】 実際の臨床場面を想定した医療面接の実技試験を実施する。	演習 小ヶ倉 悠太
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 課題ごとの発表点 )	)
成績評価基準	課題レポート(50%)、発表(50%) [後期]:レポート80% 実技試験20%	
準備学習 学習への アドバイス	講義や演習などを通して、医療人としての立ち振る舞いやコミュニケーションスキルなどについて学ぶ科目です。この科目を通して、自分自身を振り返り今後の実習などに向け改善点などを知り、日々の生活の中で実践して下さい。	
教科書	医療者のためのコミュニケーション入門、配布資料	
参考書		

科目名	解剖学 I					学 科	理学療法学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	大野 憲五・村田 祐造					実務経験						
授業概要	理学療法・作業療法を学ぶ上で必要な解剖学的事項について、教科書等を用いて説明する											
到達目標	人体の基本的構造と機能について、肉眼レベルで理解する											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	解剖学総論 ①解剖学とは? ②人体構造の概要 ③人体の位置・関節運動を表す解剖学用語								講義 大野 憲五			
第2回	骨格系 I ①骨の一般的形態・内部構築 ②骨の分類 ③関節構造の概要								講義 大野 憲五			
第3回	骨格系 II ①体幹骨の種類と構造 ②脊柱・胸郭の構築								講義 大野 憲五			
第4回	骨格系 III ①上肢帯骨の種類と構造 ②自由上肢骨の種類と構造								講義 大野 憲五			
第5回	骨格系 IV ①下肢帯骨の種類と構造 ②自由下肢骨の種類と構造 ③骨盤の構築								講義 大野 憲五			
第6回	骨格系 V ①頭蓋の構築 ②頭蓋を構成する骨の種類と構造 ③眼窩・鼻腔の構築								講義 大野 憲五			
第7回	骨格系 VI ①関節の種類 ②主要な関節(肩関節、肘関節、股関節、膝関節)の構築と特徴								講義 大野 憲五			
第8回	筋系 I ①筋の一般的形態・組織構造 ②筋の分類 ③筋の補助装置								講義 大野 憲五			
第9回	筋系 II ①頭部の筋(表情筋、咀嚼筋)の種類と構造 ②頸部の筋(頸筋群、舌骨筋群)の種類と構造 ③胸腹部の筋(胸筋群、横隔膜、腹筋群、骨盤の筋)の種類と構造 ④背部の筋(浅背筋群、固有背筋群)の種類と構造								講義 大野 憲五			
第10回	筋系 III ①上肢帯の筋の種類と構造 ②上腕屈筋群の種類と構造 ③上腕伸筋群の種類と構造								講義 大野 憲五			
第11回	筋系 IV ①前腕屈筋群の種類と構造 ②前腕伸筋群の種類と構造								講義 大野 憲五			
第12回	筋系 V ①母指球筋群の種類と構造 ②小指球筋群の種類と構造 ③中手筋群の種類と構造								講義 大野 憲五			
第13回	筋系 VI ①下肢帯の筋の種類と構造 ②大腿伸筋群の種類と構造								講義 大野 憲五			
第14回	筋系 VII ①大腿内転筋群の種類と構造 ②大腿屈筋群の種類と構造 ③下腿伸筋群の種類と構造								講義 大野 憲五			
第15回	筋系 VIII ①腓骨筋群の種類と構造 ②下腿屈筋群の種類と構造 ③足内筋の種類と構造								講義 大野 憲五			

第16回	神�系 I ①神�系の分類(中枢神�系, 末梢神�系) ②神�系の基本構造	講義 村田 祐造
第17回	神�系 II ①脊髓の外景 ②脊髓断面にみられる構造	講義 村田 祐造
第18回	神�系 III ①神�系の発生 ②脳幹の構築と機能 ③脳死と植物状態	講義 村田 祐造
第19回	神�系 IV ①小脳の構造と機能 ②間脳(視床, 視床下部)の構造と機能	講義 村田 祐造
第20回	神�系 V ①終脳の外景と区分け(葉) ②大脳皮質の分類, 構築, 機能局在	講義 村田 祐造
第21回	神�系 VI ①大脳辺縁系, 大脳髓質, 大脳基底核の構築と機能 ②脳室系の構築と脳脊髄液の循環経路	講義 村田 祐造
第22回	神�系 VII ①脳神經の種類と特徴 ②脳神經各論(嗅神經, 視神經, 動眼神經, 滑車神經, 三叉神經, 外転神經)	講義 村田 祐造
第23回	神�系 VIII ①脳神經各論(顔面神經, 内耳神經, 舌咽神經, 迷走神經, 副神經, 舌下神經) ②自律神經系の種類(交感神經, 副交感神經)と構造的特徴	講義 村田 祐造
第24回	神�系 IX ①脊髓神經の構築と分類 ②脊髓神經各論(頸神經, 胸神經, 腰神經, 仙骨神經) ③各神經叢の構造と機能	講義 村田 祐造
第25回	循環器系 I ①循環器系の概要(大循環と小循環) ②心臓の位置, 外景, 内部構築	講義 村田 祐造
第26回	循環器系 II ①血管系の種類 ②動脈系, 静脈系, リンパ系の特徴 ③リンパ性器官の種類と機能	講義 村田 祐造
第27回	呼吸器系 ①気道の概観 ②呼吸器系を構成する臓器・器官の構造と機能 ③発声のメカニズム	講義 村田 祐造
第28回	消化器系 ①消化器系(消化管, 消化腺)の構造と機能	講義 村田 祐造
第29回	泌尿生殖器系 ①泌尿器系(腎臓, 尿路)の構造と尿生成のメカニズム ②生殖器系の位置, 形態と構造機能	講義 村田 祐造
第30回	感覚器系 ①感覚器系の概要(五感) ②皮膚, 視覚器, 聴覚器, 嗅覚器, 味覚器の構造と刺激受容のメカニズム	講義 村田 祐造
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験における60%以上の得点をもって、合格とする。	
準備学習 学習への アドバイス	・解剖学では数多くの用語を記憶する必要があるが、それは医療従事者間のコミュニケーションに欠かせない公用語だからである。 ・用語を頭に定着させるコツは、ネット上の画像情報やアトラスを活用して、そのイメージ(位置や形態)をつかむことに尽きる。友人の名前と顔を簡単に忘れないのは、両者が頭の中でしっかりとリンクされているからである。	
教科書	・標準PT・OT学 専門基礎分野 解剖学第5版(医学書院) ・プロメテウス解剖学コアアトラス第3版(医学書院)	
参考書		

科目名	解剖学Ⅱ					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	村上 淳也					実務経験	理学療法士として臨床経験12年 リハビリテーション養成校にて授業経験2年		
授業概要	ヒトの運動に携わる上で重要な神経系の構造と機能を理解し、運動発現の神経機構に関して知識の定着を図る。								
到達目標	運動発現の神経制御機構を説明することができる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	神経系の概要、大脳皮質の機能局在 神経系の概要と分類、神経系の構成、 脳全体の構造、大脳の構造、大脳皮質の構造、Broadmanの脳地図								講義 村上 淳也
第2回	大脳辺縁系 大脳辺縁系の構造、情動表出システム、心を形成する神経回路網、記憶のメカニズム、視床下部、 ホメオスタシス								講義 村上 淳也
第3回	大脳基底核 大脳基底核の構造、皮質・基底核・視床ループ、行動プログラムの書き換え、意思決定と報酬系								講義 村上 淳也
第4回	間脳／脳幹 脳幹の構造、脳室、脈絡叢、髄液、ウィリス動脈輪								講義 村上 淳也
第5回	小脳 小脳の構造、小脳内部モデル、誤差学習システム、内部フィードバックと外部フィードバック								講義 村上 淳也
第6回	脳内血液循環 脳内血管における領域、脈絡叢、髄液、ウィリス動脈輪								講義 村上 淳也
第7回	中間テスト対策 神経系のまとめ								講義 村上 淳也
第8回	中間テスト 実施と解説								演習 村上 淳也
第9回	下行性伝導路 運動発現の神経機構、下行性伝導路、背外側下行路、腹内側下行路、神経系の画像所見								講義 村上 淳也
第10回	上行性伝導路 感覚の3過程、感覚情報の種類、伝導路、体性感覚の伝導路								講義 村上 淳也
第11回	自律神経系の概要 運動の冗長性と最適性								講義 村上 淳也
第12回	運動学習理論 学習と記憶、運動学習とフィードバック効果								講義 村上 淳也
第13回	運動学習理論(2) 運動学習戦略								講義 村上 淳也
第14回	自律神経系 自律神経系の概要、交感神経と副交感神経								講義 村上 淳也
第15回	脳神経 脳神経の構成、脳神経各論、国家試験頻出のポイント								講義 村上 淳也
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) )								
成績評価基準	中間試験(50%)、期末試験(50%)にて到達度を評価する								
準備学習 学習への アドバイス	映像教材の視聴(ビジュランクラウド)を指定された場合には、必ず予習して臨むこと。								
教科書	病気がみえる(脳・神経)、ヒント式トレーニング(南江堂)								
参考書									

科目名	人体構造機能学					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	2 単位	時 間 数	60 時 間
講師氏名	横尾 正博					実務経験	理学療法士として臨床経験10年 リハビリテーション養成校等にて授業経験23年		
授業概要	筋骨格系の構造と機能を理解し立体的にとらえる。また体表から観察、触察する。								
到達目標	理学療法評価および治療に必要な筋骨格系の構造と機能を理解し、触察できるようになる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	身体の動きの断面、方向と位置、関節の動き 骨の外観 体幹・胸郭の骨格・関節①								講義 横尾正博
第2回	体幹・胸郭の骨格・関節②								講義 横尾正博
第3回	上肢の骨格・関節①								講義 横尾正博
第4回	上肢の骨格・関節②								講義 横尾正博
第5回	上肢の骨格・関節③								講義 横尾正博
第6回	上肢の骨格・関節④								講義 横尾正博
第7回	上肢骨格・関節のまとめ								講義 横尾正博
第8回	骨盤の骨格・関節①								講義 横尾正博
第9回	下肢の骨格・関節①								講義 横尾正博
第10回	下肢の骨格・関節②								講義 横尾正博
第11回	下肢の骨格・関節③								講義 横尾正博
第12回	骨盤、下肢の骨格・関節のまとめ								講義 横尾正博
第13回	肩の筋								講義 横尾正博
第14回	胸部・体幹・頭部の筋								講義 横尾正博
第15回	胸部・体幹・頭部の筋								講義 横尾正博

第16回	上腕(前後面)・前腕(前面)の筋	講義 横尾正博			
第17回	上腕(前後面)・前腕(前面)の筋	講義 横尾正博			
第18回	上腕(前後面)・前腕(前面)の筋	講義 横尾正博			
第19回	前腕(後面)の筋①	講義 横尾正博			
第20回	前腕(後面)の筋②	講義 横尾正博			
第21回	頭部浅層、腹壁の筋	講義 横尾正博			
第22回	骨盤の筋	講義 横尾正博			
第23回	大腿内側の筋	講義 横尾正博			
第24回	大腿(前・後面)の筋	講義 横尾正博			
第25回	大腿(前・後面)の筋	講義 横尾正博			
第26回	下腿外側の筋	講義 横尾正博			
第27回	下腿外側面の筋	講義 横尾正博			
第28回	下腿後面の筋	講義 横尾正博			
第29回	下腿後面の筋	講義 横尾正博			
第30回	筋の総まとめ	講義 横尾正博			
成績評価方法	定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> )	小テスト <input type="checkbox"/>	レポート <input type="checkbox"/>	実技試験 <input checked="" type="checkbox"/>	実習評価 <input type="checkbox"/> )
成績評価基準	定期試験:50点 確認テスト:50点				
準備学習 学習への アドバイス	骨・筋の立体的な位置関係の理解には繰り返しの触診の練習が必要です。 ビジュランクラウド:目で見る解剖と生理、Vol.8運動系Ⅰ、Vol.9運動系Ⅱ				
教科書	1)標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、 2)プロメテウス解剖学 コアアトラス、 3)からだがみえる 人体の構造と機能				
参考書	運動療法のための機能解剖学 触診技術 上肢、下肢・体幹(メジカルビュー社)				

科目名	生理学 I					学 科	理学療法学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	森本 幸生					実務経験						
授業概要	生理学は解剖学とともに医学の体系の中では最も基礎となる領域である。解剖学では人体の構造を学ぶのに対して、生理学では人体の機能を学ぶ。病気の成り立ちを理解するためには、人体の正常な構造と機能に関する知識が必要であり、解剖学とともに生理学の正確な理解なしでは現代の医療は成り立たない。人体において営まれているさまざまな生命現象は、植物性機能と動物性機能の2つの群に大別される。本講義では、前期に血液・循環・消化吸收・代謝・排泄・内分泌といった生命を維持する基盤となる植物性機能を、後期に感覚・中枢神経・筋と骨・体温と代謝・生殖と発生・運動といった能動的生命活動の基盤となる動物性機能を後期に系統的に学ぶ。											
到達目標	1. 身体の階層性・ホメオスタシス・細胞の構造と機能を説明できる。 2. 神経の興奮伝導とシナプス興奮伝達のメカニズムを説明できる。 3. 自律神経を分類しの機能を説明できる。 4. 血液の組成・機能と血液凝固・線溶のメカニズムを説明できる。 5. リンパ球による免疫のメカニズムを説明できる。 6. 血液の循環とその調節メカニズムを説明できる。 7. 消化器による食物消化と栄養吸収のメカニズムを説明できる。 8. 呼吸のメカニズムと肺におけるガス交換・血液によるガス運搬のメカニズムを説明できる。 9. 尿の生成メカニズムと腎尿・排尿のメカニズムを説明できる。 10. 酸塩基平衡にもとづきアシドーシスとアルカリーシスのメカニズムと代償機序を説明できる。 11. ホルモンの役割・種類・作用発現メカニズム・分泌調節メカニズムを説明できる。 12. 各内分泌腺から分泌されるホルモンの機能を説明できる。 13. 末梢神経を分類し機能を説明できる。 14. 感覚の適刺激・閾値・ウェーバーの法則を説明できる。 15. 感覚神経を分類し特徴を説明できる。 16. 関連痛について説明できる。 17. 視覚の情報受容メカニズムと伝導路・遠近調節・明暗順応を説明できる。 18. 聴覚・平衡感覚・味覚・嗅覚の情報受容メカニズムと伝導路について説明できる。 19. 中枢神経(大脳・脊髄)の各部位の機能を説明できる。 20. 脳の高次機能を分類し説明できる。 21. 脳脊髄液・血液脳関門について説明できる。 22. 骨格筋の構造と神経支配を説明できる。 23. 骨格筋・心筋・平滑筋の収縮メカニズムと興奮収縮連関を説明できる。 24. 筋筋錐とゴルジ腱器官について説明できる。 25. 骨の構造・形成と吸收・成長と老化について説明できる。 26. エネルギー代謝・体温調節と発熱のメカニズムを説明できる。 27. 男性と女性の生殖機能を説明できる。 28. 受精・着床・胎児の発生を説明できる。 29. 分娩・授乳について説明できる。 30. 筋力・持久力・筋収縮のエネルギー源について説明できる。 31. 運動に伴う全身の変化を説明できる。 32. 筋力トレーニングと老化に伴う筋力の変化を説明できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	【生命現象と人体】 身体の階層性(細胞・組織・器官・器官系)、体内に含まれる水の役割とホメオスタシス(体内環境の維持メカニズム)について学ぶ。 【細胞の構造と機能】 細胞の構造と機能(細胞膜・核・細胞小器官)、静止電位・活動電位について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第2回	【神経とシナプス】 神経細胞の構造と興奮伝導、シナプスにおける興奮伝達について学ぶ。 【自律神経】 自律神経の構造と機能について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第3回	【血液】 血液の組成(血球成分・血漿)と機能(物質の運搬・生体防御・凝固溶解)について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第4回	【血液】 赤血球の形態・指標・役割・新生・破壊と貧血について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第5回	【血液】 白血球の分類と機能、身体の防御機構、血小板の形態と機能、血液凝固と線溶、血漿成分(電解質・グルコース・血漿タンパク質)について学ぶ								講義 森本 幸生			
第6回	【心臓と循環】 血液の循環(心臓の働き・全身の循環経路)、心臓の興奮(心筋細胞・活動電位・自動性・自律神経による調節・刺激伝導系)、心電図(導出法・電気的心軸・不整脈)について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第7回	【心臓と循環】 心臓による血液の拍出とそれによって生じる血圧・心周期(1回の心拍動)と心室の圧-容積関係、血圧の調節・微小循環(毛細血管)における物質交換、各臓器における循環、リンパ循環について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第8回	【呼吸とガスの運搬】 呼吸・気道(鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支)と肺胞(肺におけるガス交換の場)の構造と機能、呼吸運動(吸息・呼息・呼吸筋・補助呼吸筋)、呼吸気量(呼吸に伴って肺に入り出す空気の量)について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第9回	【呼吸とガスの運搬】 肺におけるガス交換と血液によるガスの運搬、呼吸の調節(呼吸中枢・化学受容器・肺の伸展受容器)について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第10回	【尿の生成と排泄】 腎臓の役割(尿の生成・内分泌機能)と構造(ネフロン・血流)、尿の生成(腎小体における血液の濾過・近位尿細管における再吸収と分泌・ヘンレーラー管における間質浸透圧勾配の形成・集合管における尿の濃縮)について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第11回	【尿の生成と排泄】 クリアランス(血液中を流れる物質が腎臓を通過することで除去される速度)・糸球体濾過量・腎血漿流量、排尿(排尿路・畜尿反射・排尿反射)、尿量・尿成分・排尿の異常について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第12回	【酸塩基平衡】 酸塩基平衡(血漿のpH調節・アシドーシスとアルカリーシス)について学ぶ。 【消化と吸収】 消化器の役割、咀嚼(歯の役割・口腔内消化)、嚥下、食道における食物輸送、胃の役割(貯蔵・消化・輸送・嘔吐)について学ぶ								講義 森本 幸生			
第13回	【消化と吸収】 十二指腸における消化(胰液・胆汁)、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸と肝臓の役割について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第14回	【内分泌】 ホルモンの役割(体内環境のレベル変化・物質の血中濃度の調節・適応力の増進・本能行動の発現)、ホルモンの種類(化学構造と作用機序による分類)、ホルモン分泌の調節(促進/抑制ホルモンによる調節・負のフィードバック・自律神経による調節・神経内分泌反射・物質の血中濃度による調節・正のフィードバック) について学ぶ。								講義 森本 幸生			
第15回	【内分泌】 主要な内分泌腺(下垂体・視床下部・甲状腺・副甲状腺・副腎皮質・副腎髓質・脾臓・性腺)とその他の内分泌腺・内分泌細胞(胎盤・松果体・心臓・消化管・肝臓・腎臓・脂肪細胞)から分泌されるホルモンについて学ぶ。 【授業全体のまとめ】 生理学 I で学んだ重要ポイントをおさらいする。								講義 森本 幸生			

第16回	【末梢神経系】 末梢神経の分類・脳神経と脊髄神経について学ぶ。 【感覚】 適刺激と閾値・ウェーバーの法則・順応と体性感覚(皮膚感覚・深部感覚)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第17回	【感覚】 内臓感覚(臓器感覚・内臓痛覚)と特殊感覚(視覚)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第18回	【感覚】 特殊感覚(聴覚・平衡感覚・味覚・嗅覚)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第19回	【中枢神経系】 中枢神経系の構造(脊髄と脳・灰白質と白質)・中枢神経系の機能・中枢神経系を保護するメカニズムと脊髄(脊髄の構造・上行路と下行路)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第20回	【中枢神経系】 脊髄(脊髄反射)と脳幹(脳幹の機能・自律神経中枢・脳幹反射と脳死判定)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第21回	【中枢神経系】 小脳(小脳の機能・小脳への入出力・運動学習)／間脳(視床・視床下部)／大脳皮質について学ぶ。	講義 森本 幸生
第22回	【中枢神経系】 脳の高次機能(学習・記憶・随意運動・脳波・覚醒と睡眠)／大脳基底核と脳梁／辺縁系／脳室と脳脊髄液・血液脳関門について学ぶ。	講義 森本 幸生
第23回	【筋と骨】 骨格筋線維の種類・肥大と委縮・筋紡錘とGolgi腱器官・筋電図および心筋の興奮収縮連関・不応期・長さ-張力関係・収縮性について学ぶ。	講義 森本 幸生
第24回	【筋と骨】 骨格筋線維の種類・肥大と委縮・筋紡錘とGolgi腱器官・筋電図および心筋の興奮収縮連関・不応期・長さ-張力関係・収縮性について学ぶ。	講義 森本 幸生
第25回	【筋と骨】 心臓の機械的性質(血液の拍出と血圧・心周期)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第26回	【筋と骨】 心臓の機械的性質(心室圧-容積関係)・平滑筋の機能と収縮メカニズムおよび骨の構造・形成と吸収・成長と老化について学ぶ。	講義 森本 幸生
第27回	【体温と代謝】 栄養素と物質代謝・エネルギー代謝・体温について学ぶ。	講義 森本 幸生
第28回	【生殖と発生】 男性生殖機能(生殖器・精巣・製糞の形成と成熟・勃起と射精)・女性生殖機能(視床下部-下垂体系と女性生殖器・卵巣周期)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第29回	【生殖と発生】 女性生殖機能(卵巣周期・子宮周期・卵の減数分裂)および受精・着床・胎児の発生について学ぶ。	講義 森本 幸生
第30回	【運動生理】 筋力と持久力・筋収縮のエネルギー源・運動に伴う全身の変化・トレーニング効果と筋力の加齢変化について学ぶ。 【授業全体のまとめ】 生理学Ⅰで学んだ重要ポイントをおさらいする。	講義 森本 幸生
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験100%	
準備学習 学習への アドバイス	生理学は暗記しようとするのではなくメカニズム(縦横に紡がれた論理的なつながり)を理解するように努めれば自然に身につく学問です。授業の前には教科書や参考書をよく読んで理解し、授業の後には必ず復習して習った内容を説明できるようにしてください。また、理解できないことがあれば、授業中や授業の後に質問して解決してください。	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 (岡田隆夫 鈴木敦子 長岡正範 医学書院)	
参考書	イラストでまなぶ生理学 第3版 (田中 越郎 (著) 医学書院)	

科目名	生理学Ⅱ					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	横尾 正博					実務経験	理学療法士として臨床経験10年 リハビリテーション養成校等にて授業経験23年		
授業概要	疾患別リハビリテーションに関連した循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系の解剖生理学の理解								
到達目標	身体運動に関与する器官系を対象とし、その構造と機能を理学療法士の視点から理解する								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	血液の役割・成分 心臓の構造、冠動脈、リンパ循環 血圧								講義 横尾正博
第2回	循環調節、運動時の血液配分 大動脈からの分岐、脳を栄養する動脈								講義 横尾正博
第3回	腹大動脈の分岐 胎児の血液循環 心臓の刺激伝導系、心筋の収縮過程								講義 横尾正博
第4回	基本的な心電図 循環器系のまとめ								講義 横尾正博
第5回	<b>確認テスト①(循環器)</b> 上気道、気管・気管支・肺の構造 呼吸運動								講義 横尾正博
第6回	呼吸調節 動脈血液ガス分析 酸素解離曲線								講義 横尾正博
第7回	酸塩基平衡 低酸素血症の原因								講義 横尾正博
第8回	スパイログラム フロー・ボリューム曲線 換気障害の分類								講義 横尾正博
第9回	<b>確認テスト②(呼吸器)</b> 口腔内消化 嚥下								講義 横尾正博
第10回	胃の構造と生理機能 小腸・大腸の構造と生理機能								講義 横尾正博
第11回	肝臓と胆嚢の構造と生理機能 膵臓の構造と生理機能								講義 横尾正博
第12回	<b>確認テスト③(消化器)</b> 腎臓の解剖と生理機能								講義 横尾正博
第13回	膀胱の構造 排尿のメカニズム								講義 横尾正博
第14回	内分泌腺の種類と生理機能								講義 横尾正博
第15回	<b>確認テスト④(泌尿器)</b> 循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系のまとめ								講義 横尾正博
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (課題提出)								
成績評価基準	期末試験(60点)、確認テスト4回(40点)								
準備学習 学習への アドバイス	特に復習が重要です。ビジュランクラウド: 目で見る解剖と生理第2版、Vol.3循環系 I 、4循環系 II 、6呼吸、7自律神経・内分泌、10消化系 I 、11消化系 II 、12腎・尿路を視聴すると理解が深まります。								
教科書	1)なるほどなっとう!解剖生理学(南山堂)    2)病気がみえる循環器(メディクメディア)    3)病気がみえる呼吸器(メディクメディア) 4)標準PT・OT学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)    5)標準PT・OT学 専門基礎分野 生理学(医学書院)								
参考書	PT・OT基礎固めヒント式トレーニング基礎医学編(南江堂)								

科目名	運動学					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	横尾 正博・小ヶ倉 悠太					実務経験	横尾：理学療法士として臨床経験10年 リハビリテーション養成校等にて授業経験23年 小ヶ倉：理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校等にて授業経験1年		
授業概要	解剖学を基盤として、上肢・下肢・体幹の各関節の構造、受動的に関節を制御している関節包や韌帯の役割、能動的に関節を制御している筋の役割および関節運動学を学ぶ。また、各関節の運動学と機能障害の関わりについて理解を深める。								
到達目標	・関節や筋の構造と機能を説明できる。 ・上肢、下肢、体幹の各関節における骨の構造・受動的制御・能動的制御を説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )							授業形態 講師氏名	
第1回	【上肢と体幹の触診①】 ・骨の触診(ランドマーク) ・腕神経叢と神経の走行							演習 講義 小ヶ倉悠太	
第2回	【上肢と体幹の触診②】 ・上肢筋群の触診 ・上肢筋の作用と神経支配の覚え方							演習 講義 小ヶ倉悠太	
第3回	【肩関節複合体の構造】 ・骨(胸骨、鎖骨、肩甲骨、上腕骨) ・関節(胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節)							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第4回	【肩関節複合体の運動学】 ・肩関節複合体の運動における役割							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第5回	【肩関節複合体の筋群】 肩甲胸郭関節の筋群、肩甲上腕関節の筋群							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第6回	【肩関節複合体の機能障害】 ・インピンジメント							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第7回	【肘・前腕の筋骨格系の働き①】 ・腕神経叢の走行 ・肘、前腕の筋と作用							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第8回	【肘・前腕の筋骨格系の働き②】 ・肘の韌帯と関節 ・肘と前腕の運動学に関する国家試験対策							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第9回	【手関節の筋骨格系の働き①】 ・手関節の関節包内運動 ・前腕の掌背屈筋の起始停止と作用の関係、手関節部の腱の走行							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第10回	【手関節の筋骨格系の働き②】 ・前腕での筋の触診 ・手関節の運動学に関する国家試験対策							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第11回	【手指の筋骨格系の働き①】 ・手のアーチ ・手指の運動方向、及び母指と手指の役割と機能							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第12回	【手指の筋骨格系の働き②】 ・手指韌帯の構造と役割 ・外在筋と内在筋、及び手掌と手背の触診							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第13回	【脊柱】 ・脊柱の彎曲 ・椎体(骨、椎間関節、椎間板、韌帯)							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第14回	【脊柱】 ・脊柱の運動学 ・領域ごとの脊柱の特徴(頸椎、胸椎、腰椎、仙骨)							講義 演習 小ヶ倉悠太	
第15回	【脊柱】 ・脊柱の筋群							講義 演習 小ヶ倉悠太	

第16回	【胸郭】 ・胸郭の概観 ・胸郭の各関節、横隔膜の構造・運動	講義 横尾正博
第17回	・内・外肋間筋の走行・作用、胸郭の運動学	講義 横尾正博
第18回	確認テスト①脊柱・胸郭 【骨盤・股関節】 ・骨盤の構造、股関節の構造、骨頭の血行、寛骨臼形成不全、股関節周囲の靭帯	講義 横尾正博
第19回	・股関節周囲の靭帯、骨盤の筋、大腿前面の筋、尻上がり現象、Thomasテスト	講義 横尾正博
第20回	・大腿前面の筋、大腿内側面の筋、	講義 横尾正博
第21回	・大腿外側面の筋、Oberテスト、大腿後面の筋、深層外旋6筋、跛行	講義 横尾正博
第22回	確認テスト②骨盤・股関節 【膝関節】 ・膝関節の構造、アライメント、脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節	講義 横尾正博
第23回	・半月、半月板損傷、半月の移動、MCL、LCL	講義 横尾正博
第24回	・ACL、PCL、膝関節の伸筋、膝関節の屈筋、	講義 横尾正博
第25回	・膝関節安定化機構	講義 横尾正博
第26回	確認テスト③膝関節 【足関節】 ・足の連結、骨の概観、距腿関節、アーチ	講義 横尾正博
第27回	・足部アーチ ・足関節周囲の靭帯 ・足部の関節構造、足関節・足部の運動の定義	講義 横尾正博
第28回	・脛骨前面の背屈筋、内がえし筋、外がえし筋、底屈筋	講義 横尾正博
第29回	・足根管を通る筋・神経・血管 ・アーチに関与する筋	講義 横尾正博
第30回	確認テスト④足関節と足部確認 まとめ	講義 横尾正博
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	確認テスト(50点) 定期試験(50点)	
準備学習 学習への アドバイス	各講義の予習復習が重要です。小テストで到達度を評価しながらすすめる。	
教科書	1)Andrew P.D(監) :筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版、医薬学出版、東京、2018. ,2)市橋則明:身体運動学 関節の制御機構と筋機能、MEDICAL VIEW、3)からだがみえる 人体の構造と機能	
参考書		

科目名	人間発達学					学科	理学療法学科		
年次	1年次	分野	専門基礎	学期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	上原 美智代 中満 篤子					実務経験	上原:作業療法士として臨床経験14年、リハビリテーション養成校にて授業経験10年 中満:作業療法士として臨床経験6年、リハビリテーション養成校にて授業経験21年		
授業概要	人間発達の基礎を理解するために、教科書や資料を利用し、説明を行う。								
到達目標	1. 医療に携わる専門職になるために、人間の生涯発達について理解する。 2. 人間を社会的存在として、また各発達領域（身体、運動、認知、社会性、情緒、パーソナリティなど）が統合された存在として理解する。 3. 誕生（胎児期）から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期の一連の流れを理解する。								
回数	授業計画（内容）								授業形態 講師氏名
第1回	人間発達学を学ぶことの意義について説明できる。 発達を生涯発達の視点から考えることの意義について説明できる。								講義 中満 篤子
第2回	発達にみられる原則を列挙し、説明できる。 発達の基底要因を理解する 発達の区分を列挙できる								講義 中満 篤子
第3回	それぞれの発達理論についてその概要と相違を説明できる。 発達理論について列挙できる								講義 上原 美智代
第4回	胎児期における発達過程とその阻害因子について説明することができる。 先天異常について説明できる 先天異常の疾患を列挙できる								講義 中満 篤子
第5回	原始反射について説明できる。 立ち直り反応について説明できる。 平衡反応について説明できる。								講義 中満 篤子
第6回	乳児期における発達過程とその阻害因子について説明することができる。 乳児期の身体的成長と生理的成熟について説明できる。								講義 中満 篤子
第7回	乳児期での生きしていく力の獲得過程を説明できる 乳児期の姿勢・移動能力の獲得について説明できる								講義 中満 篤子
第8回	乳児期のものの操作能力の獲得について説明できる 乳児期の感覚運動的知能の獲得と愛着関係の形成について説明できる								講義 中満 篤子
第9回	幼児期の発達課題とその過程について説明できる。 幼児期における移動能力の獲得過程とその意義を説明できる 幼児期の日常生活活動の自立の過程、意味を説明できる								講義 中満 篤子
第10回	幼児期における遊びと認知発達の概要と特徴を説明できる 幼児期における自我の芽生えと仲間の出現の意義を説明できる								講義 中満 篤子
第11回	様々な発達検査を列挙できる 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表において、正常発達の各項目の月齢を述べる。 日本版デンバー式発達スクリーニング検査において、正常発達の各項目での75%通過率と90%通過率時の月齢を述べる								講義 中満 篤子
第12回	児童期の発達課題とその過程について説明できる。 児童期における論理的思考の獲得と客観的世界の出現の意義を説明できる 児童期における仲間意識と自己認識の深まりを説明できる								講義 上原 美智代
第13回	青年期の発達課題とその過程について説明できる。 青年期における自我の確立の意義と過程、自我の確立と親子関係との関係を説明できる								講義 上原 美智代
第14回	成人期の発達課題とその過程について説明できる。 成人期の発達における現代的課題について考える								講義 上原 美智代
第15回	老年期の発達課題について説明できる。 老年期に喪失・低下・減少するさまざまな機能・能力をあげ、喪失がもたらす意味を説明できる								講義 上原 美智代
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	定期試験 90% 小テスト10%								
準備学習 学習への アドバイス	授業は教科書を中心に進みます。対応する箇所の教科書の内容を読み、予習しておくこと。								
教科書	奈良勲・鎌倉矩子(監修):標準PT・OT学 専門基礎分野 人間発達学 第2版 医学書院。								
参考書	イラストでわかる 人間発達学								

科目名	病理学					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	谷川 雅彦・筒井 佳奈					実務経験			
授業概要	解剖学や生理学で人体の正常の構造と機能を学んだ後で、ここでは、病気の場合に、どのようになるのか、について教科書と私自身が作った画像を用いてお話しする。その後、自分で勉強しないといけない。高校とは違うのだということを、早く、認識すること。								
到達目標	病気の理り(ことわり)を学ぶ。すなわち、病気の原因と機序を学ぶとともに、その原因によって、体の器官・組織・細胞に、どのような病変が起こるか、続くか、治るのか、それは予防できないか、などについて学ぶ。これらについて、優れた教科書によって自己学習を行う。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )							授業形態 講師氏名	
第1回	病理学の概要、病因を学習する。 ・ 病理学の概要、病気、病因、内因、外因、生活習慣病について、述べることができる。							講義 谷川 雅彦	
第2回	細胞・組織と障害、再生と修復を学習する。 ・ 細胞、基質、組織、増殖、分化、壊死、アポトーシス、萎縮、再生、肉芽組織、創傷治癒、線維芽細胞、肥大、過形成、化生について、述べることができる。							講義 谷川 雅彦	
第3回	循環障害を学習する。 ・ 充血、うつ血、出血、血液凝固、血栓、塞栓、梗塞、虚血、浮腫、ショック、高血圧、播種性血管内凝固症候群(DIC)について、述べることができる。							講義 谷川 雅彦	
第4回	炎症、免疫、アレルギーを学習する。 ・ 炎症、炎症徴候、滲出、炎症細胞、白血球、ケモカイン、サイトカイン、リンパ球、マクロファージ、急性炎症、慢性炎症、発熱、化膿、肉芽腫、免疫、B細胞、T細胞、NK細胞、抗体、アレルギーの型、自己免疫性疾患について、述べることができる。							講義 谷川 雅彦	
第5回	感染症、代謝障害を学習する。 ・ 病原体、細菌、真菌、ウイルス、原虫、エイズ、日和見感染、高脂血症、糖尿病、痛風、肥満、メタボリック症候群について、述べることができる。							講義 谷川 雅彦	
第6回	老化、新生児、先天異常を学習する。 ・ テロメア、正期産、早産、新生児肺、ダウン症候群、ターナー症候群について述べることができる。							講義 谷川 雅彦	
第7回	腫瘍の総論を学習する。 ・ 癌細胞、癌組織、自律性、分化度、増殖と浸潤、再発、転移、血行性、リンパ行性、扁平上皮癌、腺癌、未分化癌、肉腫、悪性腫瘍、良性腫瘍について、述べることができる。							講義 谷川 雅彦	
第8回	循環器系疾患を学習する。 ・ 粥状動脈硬化症、プラーク、狭心症、心筋梗塞、心不全、脳卒中について、述べることができる。							講義 筒井 佳奈	
第9回	呼吸器系疾患を学習する。 ・ 肺水腫、喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺気腫、肺炎、肺結核、肺癌、たばこ癌、塵肺、アスペスト症、中皮腫について、述べることができます。							講義 筒井 佳奈	
第10回	消化器系疾患を学習する。 ・ 齒歯、食道癌、胃炎、H.ピロリ菌、胃潰瘍、胃癌、潰瘍性大腸炎、大腸癌、肝炎、黄疸、肝硬変、肝癌について、述べることができます。							講義 筒井 佳奈	
第11回	内分泌系を学習する。 ・ ホルモン、サイトカイン、バセドウ病、橋本病、クッシング症候群について、述べることができます。							講義 筒井 佳奈	
第12回	造血、腎、生殖器疾患を学習する。 ・ 貧血、白血病、腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱癌、前立腺癌、子宮頸癌、内膜癌、筋腫、乳癌について、述べることができます。							講義 筒井 佳奈	
第13回	神経系疾患を学習する。 ・ 神経細胞、グリア組織、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、硬膜下出血、脳炎、脳腫瘍などについて、述べることができます。							講義 筒井 佳奈	
第14回	運動器系疾患を学習する。 ・ 骨、軟骨、関節、靭帯、筋肉、腱、骨折、仮骨、虚血壊死、大腿骨頭壊死、骨粗しょう症、変形性関節症、関節リウマチ、関節強直、関節拘縮、肉ばなれ、筋萎縮、筋ジストロフィー、椎間板ヘルニア、捻挫、骨肉腫、軟部組織腫瘍について、述べることができます。							講義 筒井 佳奈	
第15回	まとめ							講義 谷川 雅彦	
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	学期末に筆記試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	解剖学、組織学、生理学などを復習しておくこと。受講する人はしっかり勉強すること。								
教科書	渡辺照雄編、「カラーで学べる病理学」ヌーヴェヒロカワ社、第5版、令和元年								
参考書									

科目名	臨床心理学概論					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	稻吉 真美子					実務経験			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理学に関する基礎知識を学ぶ。</li> <li>・患者さんが抱える苦悩を理解し、コメディカルとしての支援のあり方を考える。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理アセスメントの意義・内容について説明できること。</li> <li>・各種心理療法を理解し、患者さんそれぞれに応じた対応姿勢を身に付けること。</li> </ul>								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	臨床心理学を学ぶ理由 臨床心理学とは何か								講義 稻吉真美子
第2回	心理アセスメントを行う理由 心理アセスメントの方法								講義 稻吉真美子
第3回	心理検査の注意点 代表的な心理検査①(特徴とその方法)								講義 稻吉真美子
第4回	代表的な心理検査②(特徴とその方法)								講義 稻吉真美子
第5回	心理療法(精神分析①)								講義 稻吉真美子
第6回	心理療法(精神分析②) 心理療法(行動療法・認知行動療法①)								講義 稻吉真美子
第7回	心理療法(行動療法・認知行動療法②) 心理療法(来談者中心療法①)								講義 稻吉真美子
第8回	心理療法(来談者中心療法②) 心理療法(家族療法)								講義 稻吉真美子
第9回	心理療法(森田療法) 心理療法(交流分析)								講義 稻吉真美子
第10回	発達理論(発達とこころの問題)								講義 稻吉真美子
第11回	発達障がいに対する支援方法								講義 稻吉真美子
第12回	認知機能とは何か 認知機能のアセスメントと支援①								講義 稻吉真美子
第13回	認知機能のアセスメントと支援②								講義 稻吉真美子
第14回	臨床心理学の歴史と今後の展望								講義 稻吉真美子
第15回	これまでの講義のまとめ								講義 稻吉真美子
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 学習意欲 )								)
成績評価基準	定期試験90% +学習意欲10% (講義中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は減点対象となります)								
準備学習 学習への アドバイス	事前にテキストを読み、予習しておく。 講義場面以外にも、医療・福祉関係の小説や映画・芸術活動に触れる機会を作り、当事者の方やご家族に対する理解を深める。								
教科書	「はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学」 牧瀬 英幹 著 南江堂								
参考書	「リハーベーシック 心理学・臨床心理学」 内山 靖・藤井 浩美・立石 雅子 著 医歯薬出版株式会社								

科目名	公衆衛生学					学 科	理学療法学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	朴 珍相					実務経験						
授業概要	公衆衛生学の概念とその目的について学習する。公衆衛生学の各領域の現状と課題について学習する。											
到達目標	地域社会の組織的努力を通じ、健康と活力の増進に関する科学的根拠と技術を提供する学問であることを理解する。所属する社会の健康増進に関与貢献できる医療人となるべく、公衆衛生学の基礎的知識を習得する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	公衆衛生の概念と内容について理解する。 1 公衆衛生の概念と基本的な内容を列挙することができる。 2 公衆衛生学の定義、領域、歴史を述べることができる。								講義			
第2回	健康維持の要因と、集団の健康状態を把握するための疫学的方法について理解する。(その1) 1 健康の成立条件・因子について述べることができる。 2 集団の健康被害や集団検診の方法について説明することができる。 3 疫学の理論と方法について説明することができる。								講義			
第3回	健康維持の要因と、集団の健康状態を把握するための疫学的方法について理解する。(その2) 1 健康の成立条件・因子について述べることができる。 2 集団の健康被害や集団検診の方法について説明することができる。 3 疫学の理論と方法について説明することができる。								講義			
第4回	健康の指標の意味と具体的な例について理解する。 1 集団の健康水準の測定方法の例を挙げることができる。 2 集団の健康水準を他の集団と比較する方法について説明することができる。								講義			
第5回	感染症とその予防対策について理解する。 1 感染症の成立要因と伝播様式について説明することができる。 2 感染症の予防や対策の例を挙げることができます。								講義			
第6回	食品保健の技術・知識およびその制度について理解する。 1 食品の安全を守るための方法と食中毒の例を挙げることができます。 2 健康を維持するための食生活のあり方について説明することができる。								講義			
第7回	生活環境の現状とその保全方法について理解する。 1 地球環境や生活環境を脅かしているものの例とその原因を挙げることができます。 2 環境問題を悪化させないための対策と方法について説明することができる。								講義			
第8回	社会保障制度の中枢をなす保健医療について理解する。 1 保健医療の内容と制度について説明することができる。 2 保健医療の現状と課題の例を挙げることができます。								講義			
第9回	地域保健活動の内容とそれを向上させる機能見ついて理解する。 1 地域保健法に関する組織と機能について説明することができる。 2 地域保健活動の現状と課題についてその例を挙げることができます。								講義			
第10回	母子保健の現状と課題について理解する。 1 母子保健における我が国の歴史的推移について説明することができる。 2 母子保健の現状、特に今後の母子保健のあり方について説明することができる。								講義			
第11回	学校保健の制度と組織および内容について理解する。 1 学校保健の制度と内容について説明することができる。 2 学校保健を構成する管理と教育の内容を挙げることができます。								講義			
第12回	生活習慣病および難病の現状と対策について理解する。 1 生活習慣病の例とその原因および対策のについて説明することができる。 2 難病克服のための努力と患者救済のための取り組みの例を挙げることができます。								講義			
第13回	健康教育とヘルスプロモーションの概念と取り組みについて理解する。 1 ヘルスプロモーションの進め方について説明することができる。 2 健康教育の現状と課題について、例を挙げて説明することができる。								講義			
第14回	精神保健福祉の現状と課題について理解する。 1 精神障害の現状と対策について説明することができる。 2 精神保健福祉に関する制度について説明することができる。								講義			
第15回	産業衛生の現状と課題、公衆衛生の今後について理解する。 1 労働による健康障害の内容について説明することができる。 2 労働者の健康維持のための予防と対策の具体例を挙げることができます。 3 公衆衛生の今後の課題についてその例を挙げることができます。								講義			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	定期試験(100%)											
準備学習 学習への アドバイス	教科書の内容をよく理解してください。											
教科書	清水忠彦・佐藤拓代編:わかりやすい公衆衛生学[第4版]. ヌーヴェルヒロカワ, 2015											
参考書												

科目名	小児科学					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	濱本 邦洋					実務経験			
授業概要	小児科学をりかいするために、発達や病気の写真、巢表を多く用いスライドで講義し、その資料や教科書を利用し説明する。								
到達目標	(1)小児の発育・発達を理解する。(2)成長に伴っておこる疾病全般を理解する。特にリハビリテーションの対象となりやすい脳性麻痺、神経筋疾患等の神経疾患に関しては、その病態、経過、転機を理解する。(3)障害をもった子どもと親の心情を理解し、その対応の仕方を取得する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )							授業形態 講師氏名	
第1回	小児の特徴と発育:成長・発達とその評価 1. 乳児および幼児の正常な発育/発達を理解し、key年齢(4ヶ月、1歳、1歳6ヶ月、3歳)での発育と発達について説明できる 2. 乳児の代表的な原始反射、姿勢反射について説明できる							講義	
第2回	細菌/ウイルス感染症(特に発疹性疾患) 1. 小児の主な感染症(発疹を伴う急性ウイルス/細菌感染症)について説明できる							講義	
第3回	小児保健:乳幼児健康診査の目的と方法、予防接種、学校検診 1.. 乳幼児健康診査の目的と評価法が説明でき、乳幼児の発育・発達の評価ができる 2 予防接種の種類と方法について説明できる 3. 学校検診(特に心臓検診等)について説明できる。学校伝染病の席停止期間の説明できる							講義	
第4回	新生児:胎児・新生児の生理と疾病 1. 胎児、新生児の生理(胎内環境、胎児循環)について説明できる 2. 成熟新生児の疾患、分娩の合併症について説明できる 3. 低出生体重時の定義と、それに伴う合併症について説明できる							講義	
第5回	先天異常:単一遺伝子病、染色体異常、先天性代謝異常、先奇形症候群 1. 単一遺伝子病と染色体異常の代表的疾患(ダウン症候群など)を説明できる 2. 主な奇形症候群について説明できる 3. 先天代謝異常スクリーニングについて説明できる							講義	
第6回	脳性麻痺:脳性麻痺の定義、分類、臨床症状、原因、合併症 1. 脳性麻痺の定義、分類、症状、原因、合併症について説明できる 2. 脳性麻痺の筋トーススの異常、姿勢の異常、歩行の異常について説明できる							講義	
第7回	けいれん性疾患:てんかんの定義と原因、熱性けいれん、 1. けいれんの定義と原因について説明できる。熱性けいれんの定義と治療について説明できる 2. てんかんの定義、分類について、特に代表的なてんかんについて説明できる 3. 熱性けいれんとてんかんの違いについて説明できる							講義	
第8回	神経筋疾患:フロッピーインファント、神経筋疾患 1. フロッピーインファントの定義と代表的疾患について説明できる 2. 脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、筋無力症、ニューロパチーについて説明できる							講義	
第9回	発達障害:精神遅滞、言語発達遅滞、広汎性発達障害等、ADHD、LD 1. 精神遅滞の定義、分類について説明できる 2. 言語発達遅滞、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)について説明できる							講義	
第10回	中枢神経感染症:意識障害の評価法と急性脳炎/脳症 1. 意識障害の評価法(Japan Coma Scale)について説明できる 2. 代表的な脳炎、脳症(日本脳炎、ヘルペス脳炎、亜急性硬化性全脳炎、Reye症候群)について説明できる。ウイルス/細菌性髄膜炎の原因、症状、治療について説明できる							講義	
第11回	小児のこころとからだ:小児心身症、小児の虐待 1. 心身症の分類、症状について説明できる 2. チック、神経性食思不振症、過敏性大腸炎、過換気症候群について説明できる 3. 小児の虐待の分類、対応の仕方について説明できる							講義	
第12回	その他の小児疾患1(呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患など) 1. 小児の代表的な呼吸器疾患、気管支喘息、アルルギー疾患、循環器疾患、について説明できる:肺炎、気管支炎、クループ症候群、気管支喘息、免疫異常、アレルギー疾患、先天性心臓病、消化器感染症							講義	
第13回	その他の小児疾患2(内分泌疾患、腎疾患、血液疾患など) 1. 小児の代表的な内分泌疾患、代謝疾患、腎疾患、血液疾患について説明できる:下垂体性小人症、甲状腺機能低下/亢進症、先天性副腎過形成、糖尿病、急性系球体腎炎、ネフローゼ症候群、貧血、白血病、出血性疾患							講義	
第14回	障害児とその親への対応:重症心身障害児レスパイトケア 1. 重症心身障害児の重症度/合併症を説明できる 2. 障害児の親の心理的反応、子どもと親への対応の仕方、コミュニケーションの大切さが理解できる							講義	
第15回	まとめ							講義	
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	1.講義当日、必ず復習すること(ポストテスト、プレテスト等の復習) 2.レポート等の提出を欠かさない								
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学(第5版)、富田 豊、医学書院								
参考書									

科目名	老年学					学 科	理学療法学科								
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間						
講師氏名	各担当講師					実務経験									
授業概要	教科書と配付資料を基にすすめる。内容に応じて、より理解を深めるために視聴覚教材を活用する。														
到達目標	わが国は世界に例のない少子化、超高齢化、人口減少社会へ突入している。このような時代に対応できるコメディカルスタッフの育成が重要である。この授業では、加齢に伴う変化、高齢者に特有な疾患、高齢者を取りまく環境を理解し、高齢者に対するリハビリテーションについて学ぶ。														
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名						
第1回	老年学1 ・高齢者の定義、人口動態 ・老化のメカニズムと生理機能の変化								講義						
第2回	老年学2 ・高齢者の身体的・臨床的特徴と医療アプローチ ・加齢に伴う生理機能(形態学的变化も含めて) ・高齢者に特徴的な症候群と疾患								講義						
第3回	老年学3 ・循環器疾患								講義						
第4回	老年学4 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患								講義						
第5回	老年学5 ・内分泌代謝疾患 ・血液・免疫疾患								講義						
第6回	老年学6 ・腎・泌尿器疾患 ・皮膚・口腔疾患								講義						
第7回	加齢と年齢変化 3 ・加齢に伴う運動機能		教科書③P24～ 加齢に伴う変化：運動機能						講義						
第8回	高齢者に特徴的な症候と疾患 ・骨・運動器疾患(老化に伴う骨折、骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチなど)		教科書⑭P152～ 骨・運動器疾患						講義						
第9回	高齢者に特徴的な症候群と疾患 ・認知症とは(精神症状と問題行動) ・認知症患者への対応								講義						
第10回	高齢者に特徴的な症候群と疾患 ・老年期うつ病とは ・老年期うつ病の特徴								講義						
第11回	高齢者をとりまく環境1 ・高齢者をとりまく制度								講義						
第12回	高齢者をとりまく環境2 ・高齢者をとりまく制度								講義						
第13回	高齢者をとりまく環境3 ・高齢者の在宅リハビリテーション								講義						
第14回	高齢者をとりまく環境4 ・高齢者の在宅リハビリテーション								講義						
第15回	まとめ								講義						
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験		<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト		<input type="checkbox"/> レポート		<input type="checkbox"/> 実技試験		<input type="checkbox"/> 実習評価 )						
成績評価基準	期末試験100%														
準備学習 学習への アドバイス															
教科書	奈良 勲 監修 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版 医学書院														
参考書															

科目名	リハビリテーション科学 I					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	平田 大勝					実務経験	理学療法士として臨床経験9年 リハビリテーション養成校にて教育経験5年		
授業概要	健常者が運動を行った際の生理反応を学びます。 1次救命、運動負荷試験の実践								
到達目標	筋、換気、ガス交換、循環、栄養、内分泌、身体組成、トレーニングの効果の運動生理学について理解する。 1次救命に関する演習を通して、AEDの操作を含めた1次救命の知識および技術を習得する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	【オリエンテーション】 授業構造の理解、学習方法の習得 【1次救命】1次救命についての概論								講義 平田 大勝
第2回	【1次救命】シミュレーションセンター 1次救命に関する演習 AEDの操作を含めた1次救命の技術を習得する。								演習 グループ学習 平田 大勝
第3回	【1次救命】シミュレーションセンター 1次救命に関する演習 AEDの操作を含めた1次救命の技術を習得する。実技試験(科目点10点分)演習レポート課題(科目点10点分)								演習 グループ学習 平田 大勝
第4回	【換気の運動生理学】 呼吸器系の構造、換気メカニクス、呼吸筋疲労、呼吸中枢と呼吸調節 予習:[医学]目で見る解剖と生理 Vol.6 呼吸 , [医学]目で見る臨床検査 Vol.10 生理機能検査 II 最初～肺気量分画まで								講義 平田 大勝
第5回	【ガス交換の運動生理学】ガス交換、呼吸代謝とその指標、運動時の呼吸循環応答 予習:[医学]目で見る医学の基礎 Vol.4 呼吸器系 ～呼吸機能検査 [医学]目で見る臨床検査 Vol.10 生理機能検査 II ガス交換～動脈血ガス分析								講義 平田 大勝
第6回	【循環の運動生理学①】 循環系の構造、心周期、一回拍出量、心拍数、心拍出量、心血管の機能的特性、心血管の自律神経系の調節、血圧 予習:[医学]目で見る解剖と生理 Vol.3 循環系 I , [医学]目で見る医学の基礎 Vol.3 循環器系								講義 平田 大勝
第7回	【循環の運動生理学②】 重力に対する循環反応、運動による循環反応、最大酸素摂取量を規定する因子 予習:[医学]目で見る解剖と生理 Vol.4 循環系 I , [健康・保健]目で見る運動生理学 Vol.2 呼吸・循環器系の科学								講義 平田 大勝
第8回	【まとめ】 第1回～第7回までのまとめ								平田 大勝
第9回	【栄養の運動生理学】 栄養とは、栄養素とその働き、食物の摂取と消化 予習:[医学]目で見る解剖と生理 Vol.10 消化系 I , [健康・保健]目で見る運動生理学 Vol.4 栄養・エネルギーの科学								講義 平田 大勝
第10回	【内分泌の運動生理学】 ホルモン、運動時のホルモン調節 予習:[医学]目で見る解剖と生理 Vol.7 自律神経・内分泌								講義 平田 大勝
第11回	【筋の運動生理学】 筋収縮とエネルギー供給、筋線維の種類とその特徴、筋収縮における神経の役割、筋の収縮様式と筋力 予習:[医学]目で見る解剖と生理 Vol.8 運動系 I , [健康・保健]目で見る運動生理学 Vol.1 神経・骨格筋系の科学								講義 平田 大勝
第12回	【身体組成とトレーニングの効果】 身体組成モデル、身体組成指標、身体組成の異常、体力の概念、トレーニングの実際、体力トレーニング 予習:[健康・保健]目で見る運動生理学 Vol.5 トレーニングの科学、生活習慣病の運動指導 Vol.1 運動指導の基礎知識								講義 平田 大勝
第13回	【まとめ】 第9～第12回までのまとめ								講義 平田 大勝
第14回	【運動生理学演習】 姿勢変化や運動前後の血圧の変化 演習レポート課題								演習 グループ学習 平田 大勝
第15回	【運動生理学演習】 姿勢変化や運動前後の血圧の変化 演習レポート課題(科目点10点分)								演習 グループ学習 平田 大勝
成績評価方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	【前期】中間試験30点 定期試験30点【後期】実技テスト(1次救命)10点 演習レポート10点×3回								
準備学習 学習への アドバイス	予習と復習が大切です。予習復習はビジュランクラウド視聴や教科書、配布資料で行ってください。 この教科は理解することが重要です。理解できているかは他の人に分かりやすく説明できるかで確認してください。								
教科書	リハビリテーション運動生理学(メジカルビュー)								
参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版(医学書院), 基礎固めヒント式トレーニング 第2版 基礎医学編(南江堂)								

科目名	リハビリテーション概論					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	2 単位	時間数	30 時間
講師氏名	柳英一・伊賀信也・石原浩二・蓮本礼佳・福永陽平・村上淳也					実務経験	柳：理学療法士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校等にて授業経験12年		
授業概要	配布資料をもとにリハビリテーション医療、自立支援、就労支援、地域包括ケアシステムについて学ぶ								
到達目標	・リハビリテーション医療の基礎を理解する。・障害の諸相とリハビリテーションの理念、ならびに理学療法・作業療法・言語聴覚療法について理解する。・チーム医療に携わるための基礎を修得する。・自立支援、就労支援、地域包括ケアシステムについて理解する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	・リハビリテーションの歴史および変遷、その領域や職域 ・リハビリテーションの意味 ・リハビリテーションにおける世界と日本の歴史 ・リハビリテーションの定義の変遷								講義 柳 英一
第2回	・リハビリテーション医療における障害 ・病気や疾病と障害の関連 ・国際障害分類ICIDH、国際生活機能分類ICF ・日常生活の構成要素と関連								講義 伊賀 信也
第3回	・リハビリテーション医療の心理的援助 ・心理的援助に必要な基本知識 ・障害の告知の時期・方法 ・障害受容の過程								講義 石原 浩二
第4回	・リハビリテーション医療のすすめかた ・リハビリテーション医療にかかる職種の役割 ・チーム医療の重要性 ・リハビリテーション分野とリハビリテーションにかかる専門職								講義 蓮本 礼佳
第5回	・理学療法の概要								講義 村上 淳也
第6回	・理学療法の概要②								講義 村上 淳也
第7回	・作業療法の概要								講義 伊賀 信也
第8回	・作業療法の概要②								講義 伊賀 信也
第9回	・言語聴覚療法の概要								講義 福永 陽平
第10回	・言語聴覚療法の概要								講義 福永 陽平
第11回	・社会保障制度の概要 ・社会保障の機能、分類、原理 ・社会保険と民間保険の違い ・現金給付と現物支給の理由								講義 村上 淳也
第12回	・自立支援について								講義 石原 浩二
第13回	・就労支援について								講義 石原 浩二
第14回	・地域包括ケアについて								講義 蓮本 礼佳
第15回	リハビリテーション医療のこれから ・地域リハビリテーション支援体制 ・医学的リハビリテーションも今後の方向性								講義 伊賀 信也
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験、レポート								
準備学習 学習への アドバイス	質問があれば、各担当講師まで遠慮なく申し出ること								
教科書	なし								
参考書									

科目名	理学療法概論					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	村上 淳也・小ヶ倉悠太					実務経験	村上:理学療法士として臨床経験12年 リハビリテーション養成校等にて授業経験2年 小ヶ倉: 理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校等にて授業経験1年		
授業概要	理学療法士の業務の内容、社会的役割、多職種との関わりを教科書や資料および施設見学を通して理解する。								
到達目標	理学療法(士)の概要を理解する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )							授業形態 講師氏名	
第1回	・理学療法の定義を説明できる。歴史について、その概要を説明できる。 ・理学療法を構成する各技術の概要を説明できる ・理学療法とリハビリテーションとの関連について説明できる。・理学療法と障害との関連について説明できる。							講義	村上 淳也
第2回	・文献の検索方法を理解し実践できる。 ・レポート作成の基礎、引用文献の書き方について学ぶ。							演習	小ヶ倉悠太
第3回	・理学療法の処方箋が出される診療科を抽出できる。 ・理学療法評価とその具体的なプロセスについて説明できる。 ・クリニックパスについて説明できる。							講義	村上 淳也
第4回	・理学療法士の使命を、理学療法の対象、目的、手段から説明できる。 ・理学療法士の倫理を、患者・利用者とのラポールの構築から説明できる。 ・臨床推論の定義について説明できる。							講義	村上 淳也
第5回	・法規の概要について説明できる。・「理学療法士及び作業療法士法」について説明できる。 ・理学療法卒前教育の到達目標について説明できる。 ・理学療法の臨床実習教育の到達目標について説明できる。							講義	村上 淳也
第6回	・研究の必要性・重要性について説明できる。 ・研究に用いる用語を説明できる。 ・EBPTについて説明できる。							講義	村上 淳也
第7回	・疑似体験スツ用い、片麻痺について考えることができる。 ・バリアフリーの概念と現状についてグループ討議ができる。							演習	村上淳也・小ヶ倉悠太
第8回	・疑似体験スツ用い、片麻痺について考えることができる。 ・バリアフリーの概念と現状についてグループ討議ができる。							演習	村上淳也・小ヶ倉悠太
第9回	・疑似体験スツでの高齢者、片麻痺の体験をまとめることができる。							グループ学習	村上淳也・小ヶ倉悠太
第10回	・疑似体験スツでの経験をプレゼンテーションすることができる。							講義	村上淳也・小ヶ倉悠太
第11回	スポーツ分野で働く理学療法士の仕事を知る							講義	外部講師
第12回	管理分野で働く理学療法士の仕事を知る							講義	外部講師
第13回	小児分野で働く理学療法士の仕事を知る							講義	外部講師
第14回	ウィメンズヘルス分野で働く理学療法士の仕事を知る							講義	外部講師
第15回	理学療法概論のまとめ							講義	村上淳也
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	定期試験50%、レポート40%(施設見学)、課題10%(疑似体験スツ)								
準備学習 学習への アドバイス	施設見学、発表があるので計画的に準備をすすめること。 疑似体験スツを使用する際は、動きやすい格好で参加すること。								
教科書	中島喜代彦・他(編):理学療法概論テキスト, 南江堂								
参考書									

科目名	理学療法基礎 I					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	平田大勝 横尾正博 村上淳也 小ヶ倉悠太 蓮本礼佳					実務経験	平田:理学療法士として臨床経験9年 リハビリテーション養成校にて教育経験5年		
授業概要	解剖学・生理学・運動学の授業の振り返りおよび国家試験問題の分析								
到達目標	国家試験に必要な解剖学・生理学・運動学の知識の定着								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	入学時の学力の確認および国家試験に向けた学習方法の獲得、目標設定								グループ学習 平田大勝
第2回	骨格系の概要 関節の種類								グループ学習 横尾正博
第3回	細胞の構造と機能 神経とシナプス								グループ学習 平田大勝
第4回	肩と上腕の骨・筋								グループ学習 横尾正博
第5回	血液								グループ学習 平田大勝
第6回	前腕と手の骨・筋								グループ学習 横尾正博
第7回	心臓と循環								グループ学習 平田大勝
第8回	脊柱と胸郭の骨・筋								グループ学習 横尾正博
第9回	呼吸とガス運搬								グループ学習 平田大勝
第10回	骨盤帯と大腿の骨・筋								グループ学習 横尾正博
第11回	尿の生成と排泄								グループ学習 平田大勝
第12回	骨盤帯と大腿の骨・筋								グループ学習 横尾正博
第13回	酸塩基平衡 消化吸収								グループ学習 平田大勝
第14回	膝・下腿部と足の骨・筋								グループ学習 横尾正博
第15回	内分泌								グループ学習 平田大勝

第16回	【神経】 中枢神経系の構成 大脑	グループ学習 村上淳也
第17回	【神経】 神経路	グループ学習 村上淳也
第18回	【神経】 間脳と終脳	グループ学習 村上淳也
第19回	【神経】 中枢神経と末梢神経 感覚	グループ学習 村上淳也
第20回	【筋と骨】 骨格筋・心筋	グループ学習 小ヶ倉悠太
第21回	【上肢の運動学】 ・肩関節、肘関節、前腕	グループ学習 小ヶ倉悠太
第22回	【上肢の運動学】 ・肩関節、肘関節、前腕	グループ学習 小ヶ倉悠太
第23回	【中間試験】 ・第16～22回の範囲での中間試験 ・終了後グループワークで復習	平田大勝
第24回	【下肢の運動学】 ・骨盤、股関節、膝関節	グループ学習 小ヶ倉悠太
第25回	【下肢の運動学】 ・足関節、足部	グループ学習 小ヶ倉悠太
第26回	【顔面と体幹】 ・表情筋、眼の動き、咀嚼筋 ・脊柱、腹部筋群、脊柱起立筋群	グループ学習 小ヶ倉悠太
第27回	【姿勢】 ・座位および立位姿勢、安定条件、重心線、姿勢の異常、姿勢調節	グループ学習 小ヶ倉悠太
第28回	【歩行】 ・歩行周期、歩行中の関節可動域および筋活動、歩行時の重心移動および床反力、小児および高齢者の歩行の特徴、異常歩行	グループ学習 小ヶ倉悠太
第29回	【歩行】 ・歩行周期、歩行中の関節可動域および筋活動、歩行時の重心移動および床反力、小児および高齢者の歩行の特徴、異常歩行	グループ学習 小ヶ倉悠太
第30回	【運動学習およびバイオメカニクス】 ・テコの種類、仕事と力学的エネルギー ・運動学習の理論、練習効果、記憶	グループ学習 蓮本礼佳
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 中間試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	中間試験50%定期試験50%	
準備学習 学習への アドバイス	解剖学、人体機能構造学、生理学、運動学の授業をよく復習し、課題および国家試験問題演習(基礎固めヒント式トレーニング)に取り組んでください。理解できていない問題は、分かる人や教員に質問するようにしてください。	
教科書	基礎固めヒント式トレーニング 第2版 基礎医学編(南江堂)	
参考書		

科目名	理学療法管理学 I					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
講師氏名	小ヶ倉 悠太					実務経験	理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校にて授業経験1年		
授業概要	理学療法士として勤務する場合、対象者の持っているリスクを把握することは当然ながら危機を防ぐマネジメント能力が不可欠である。本授業では、様々な場面でのマネジメントについて学ぶ。								
到達目標	病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。 自己管理を含めた様々なマネジメントについて理解し、実践できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回 9/20 3限	【理学療法管理学とは】 【理学療法士の職場管理】								講義
第2回 9/22 1限	【実習前学習】※レポート課題あり 2年生 理学療法プロセスに参加								講義
第3回 9/22 2限	【実習前学習】※レポート課題あり 2年生 理学療法プロセスに参加								講義
第4回 日程調整中	【デイケアのマネジメント】※レポート課題あり								講義 外来講師
第5回	【学会参加】								演習
第6回	【学会参加】								演習 全教員
第7回 12/24	【OSCE課題】								演習 全教員
第8回 12/24	【OSCE課題】								演習 全教員
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( OSCE、口頭試問 )								
成績評価基準	レポート課題30点、口頭試問35点、実習前OSCE35点								
準備学習 学習への アドバイス	教科書を予習してください。学習は見学実習を見据えて行ってください。								
教科書	理学療法管理学(医歯薬出版株式会社)								
参考書	なし								

科目名	評価学概論					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時 間 数	30 時 間
講師氏名	村上 淳也					実務経験	理学療法士として臨床経験12年 リハビリテーション養成校にて授業経験2年		
授業概要	理学療法における評価は「理学療法の柱」である。ある障害を持つ方の全体像をとらえるためには、特別な理学療法仕立ての定規が必要で、それを修得することを目的とし、また、いくつかの計測技術について講義・演習を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法における評価の目的・対象</li> <li>・評価の時期について理解する。</li> <li>・バイタルサインと形態測定の計測技術を修得する。</li> </ul>								
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	理学療法における評価の重要性について説明できる。 情報と障害の繋がりを説明できる。 理学療法評価の定義と目的を説明できる。								講義 村上 淳也
第2回	ICIDH、ICFの特徴を理解し、説明できる ICFの構造を理解し、説明できる								演習 村上 淳也
第3回	症例を通し、ICFを理解し、説明できる グループワークでICFを作成できる								グループ学習 村上 淳也
第4回	理学療法における感染対策の重要性について説明できる。 スタンダードプロセスについて説明できる。 手指消毒、手指衛生について説明できる。								講義 村上 淳也
第5回	面接・問診の目的と意義を説明できる。 医療面接における注意点について説明できる。 問診の項目を列挙できる。								講義 村上 淳也
第6回	中間試験対策								講義 村上 淳也
第7回	中間での振り返り 実施と解説								演習 村上 淳也
第8回	バイタルサインの意義の説明、および測定項目を列挙できる。 人体の体温調節、および検温について説明できる。 正常な呼吸運動についての説明、および呼吸運動の観察・測定ができる。								演習 村上 淳也
第9回	体表の触知可能な動脈を列挙し、その部位を触知することができる。 脈拍の異常を列挙できる。 人体の各部位で正確に脈拍測定が出来る。								演習 村上 淳也
第10回	血圧の意味を説明、および血圧の変動要因を列挙できる。 マンシェットを正しく巻くことができ、血圧計の正しい取り扱い方法を説明できる。 目盛を正しく読むことができ、結果を記録する事が出来る。								演習 村上 淳也
第11回	形態測定の意義と目的、および測定上の注意点を説明できる。 四肢長計測の項目・測定肢位・測定点を列挙できる。 正確にランドマークを触診し、四肢長の計測ができる、記録する事が出来る。								演習 村上 淳也
第12回	周径測定の意義と目的、および測定上の注意点を説明できる。 周径測の項目・測定肢位・測定点を列挙できる。 正確にランドマークを触診し、周径の計測ができ、記録する事が出来る。								演習 村上 淳也
第13回	正確にランドマークを触診し、四肢長の計測ができる、記録する事が出来る。 正確にランドマークを触診し、周径の計測ができ、記録する事が出来る。 得られた数値について検討できる。								グループ学習 村上 淳也
第14回	検査・測定の実技演習								演習 村上 淳也
第15回	検査・測定の実技演習								演習 村上 淳也
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	・中間試験(40%)、定期試験(50%) 実技試験(10%)								
準備学習 学習への アドバイス	初回から第6回目の授業までは主に講義形式で行う。第7回目からは主に演習を行うため動きやすい服装で参加すること。								
教科書	リハビリテーション基礎評価学(羊土社)、その他配布資料								
参考書									

科目名	理学療法評価学 I					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	榊 英一					実務経験	理学療法士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校等にて授業経験12年		
授業概要	関節可動域とは、個々の関節がどの方向にどれだけ動いているのか、自動的・他動的に動く範囲を表わすものであり、その意義・方法・結果の解釈について学び、関節可動域測定の演習を行う。								
到達目標	①関節可動域測定の意義、方法について理解し、得られた測定結果についての解釈が出来る。 ②関節可動域測定技術を習得する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	【関節可動域測定の意義・方法・解釈の仕方①】 ・関節可動域測定の対象となる関節の構造・分類 ・関節可動域測定の意義・目的、および測定値の表示方法								講義 演習 榊英一
第2回	【関節可動域測定の意義・方法・解釈の仕方②】 ・関節可動域測定における自動・他動運動による違い ・関節拘縮と強直、関節可動域制限の原因								講義 演習 榊英一
第3回	【肩甲骨の関節可動域測定】 ・肩甲骨の運動方向、参考可動域、制限因子 ・肩甲骨の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第4回	【肩関節の関節可動域測定】 ・肩関節の運動方向、参考可動域、制限因子 ・肩関節の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第5回	【肘関節の関節可動域測定】 ・肘関節の運動方向、参考可動域、制限因子 ・肘関節の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第6回	【手関節・手指の関節可動域測定】 ・手関節、手指の運動方向、参考可動域、制限因子 ・手関節、手指の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第7回	【上肢範囲の振り返り】								講義 演習 榊英一
第8回	【股関節の関節可動域測定】 ・股関節の運動方向、参考可動域、制限因子 ・股関節の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第9回	【膝関節の関節可動域測定】 ・膝関節の運動方向、参考可動域、制限因子 ・膝関節の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第10回	【足関節の関節可動域測定】 ・足関節の運動方向、参考可動域、制限因子 ・足関節の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第11回	【足部・足趾の関節可動域測定】 ・足部、足趾の運動方向、参考可動域、制限因子 ・足部、足趾の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第12回	【頸部の関節可動域測定】 ・頸部の運動方向、参考可動域、制限因子 ・頸部の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第13回	【胸腰部の関節可動域測定】 ・胸腰部の運動方向、参考可動域、制限因子 ・胸腰部の自動・他動関節可動域測定、測定時の注意点と代償動作								講義 演習 榊英一
第14回	【下肢・頸部・胸腰部の振り返り】 ・実技試験								講義 演習 榊英一
第15回	【下肢・頸部・胸腰部の振り返り】 ・実技試験								講義 演習 榊英一
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	期末試験(90%)、実技試験(20%)								
準備学習 学習への アドバイス	・関節可動域測定の演習を多く行うため、動きやすい服装で参加し、次回演習予定分の予習をして授業に臨んで下さい。 ・実技試験に向けて学生間で繰り返し練習をして下さい。								
教科書	①リハビリテーション基礎評価学 第2版 ②標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第3版 ③運動療法のための 機能解剖学的触診技術(上肢)(下肢・体幹)								
参考書									

科目名	理学療法評価学Ⅱ					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	専門	学 期	後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	蓮本礼佳 小ヶ倉悠太					実務経験	蓮本:理学療法士として臨床経験5年、 リハビリテーション養成校にて授業経験3年 小ヶ倉: 理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校等にて授業経験1年		
授業概要	機能解剖(筋の起始・停止や運動学の基礎)の確認を交え、新・徒手筋力検査法、疼痛検査の実技を実施する。								
到達目標	1. 新・徒手筋力検査法(MMT)、疼痛検査の目的・特徴・臨床的意義を理解し、その方法を修得し、実際に評価することができる。 2. 筋力・痛みの概念を理解し、検査結果を解釈(段階付け)することができる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	イントロダクション(実技授業の受け方について) 下肢筋 小テスト 筋と筋力(絶対筋力・筋持久力・筋power)の概念について学ぶ。								講義 蓮本礼佳
第2回	下肢筋の解剖(筋の走行・起始・停止・神経支配)及び運動学的意義について学ぶ。 新・徒手筋力検査法の目的・特徴(抑止テスト・段階付け)について学ぶ。 新・徒手筋力検査法 下肢筋① 股関節屈曲・伸展の検査法								演習 蓮本礼佳
第3回	新・徒手筋力検査法 下肢筋① 股関節屈曲・伸展の検査法								演習 蓮本礼佳
第4回	新・徒手筋力検査法 下肢筋② 股関節屈曲・外転・外旋・屈曲位からの外転の検査法								演習 蓮本礼佳
第5回	新・徒手筋力検査法 下肢筋③ 股関節伸展 別法の検査法								演習 蓮本礼佳
第6回	新・徒手筋力検査法 下肢筋④ 股関節外転・内転の検査法								演習 蓮本礼佳
第7回	新・徒手筋力検査法 下肢筋⑤ 股関節外旋・内旋の検査法								演習 蓮本礼佳
第8回	新・徒手筋力検査法 下肢筋⑥ 膝関節屈曲・伸展の検査法								演習 蓮本礼佳
第9回	新・徒手筋力検査法 下肢筋⑦ 膝関節屈曲 内側・外側ハムの検査法								演習 蓮本礼佳
第10回	新・徒手筋力検査法 下肢筋⑧ 足関節底屈・背屈の検査法								演習 蓮本礼佳
第11回	新・徒手筋力検査法 下肢筋⑨足関節内がえし・外がえし・足趾の検査法								演習 蓮本礼佳
第12回	実技練習								演習 蓮本礼佳
第13回	実技テスト①(下肢筋)								演習 蓮本礼佳
第14回	実技テスト①(下肢筋)								演習 蓮本礼佳
第15回	新・徒手筋力検査法 頸部・体幹① 体幹屈曲・伸展・回旋の検査法								演習 蓮本礼佳

第16回	上肢・体幹筋 小テスト 新・徒手筋力検査法 頸部・体幹②骨盤拳上の検査法	演習 蓮本礼佳
第17回	新・徒手筋力検査法 肩甲帯① 肩甲帯外転・拳上、上方回旋の検査法	演習 蓮本礼佳
第18回	新・徒手筋力検査法 肩甲帯② 肩甲帯内転・下制下方回旋の検査法	演習 蓮本礼佳
第19回	新・徒手筋力検査法 肩甲帯③ 肩関節屈曲・伸展・外転の検査法	演習 蓮本礼佳
第20回	新・徒手筋力検査法 上肢① 肩関節屈曲・伸展・外転の検査法	演習 蓮本礼佳
第21回	新・徒手筋力検査法 上肢② 肩関節外・内旋、水平内・外転の検査法	演習 蓮本礼佳
第22回	新・徒手筋力検査法 上肢③ 肘関節屈曲・伸展、前腕回内・外の検査法	演習 蓮本礼佳
第23回	新・徒手筋力検査法 上肢④ 前腕回内・回外の検査法	演習 蓮本礼佳
第24回	新・徒手筋力検査法 上肢④ 手関節屈曲・伸展の検査法	演習 蓮本礼佳
第25回	実技練習	演習 蓮本礼佳
第26回	実技練習	演習 蓮本礼佳
第27回	実技テスト②(肩甲帯・上肢筋)	演習 蓮本礼佳
第28回	実技テスト②(肩甲帯・上肢筋)	演習 蓮本礼佳
第29回	疼痛の概念について学ぶ。 疼痛の評価法(記録方法)について学ぶ。	講義 蓮本礼佳
第30回	新・徒手筋力検査法 脳神経支配筋・顔面の検査法	講義 蓮本礼佳
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 )	
成績評価基準	実技テスト(20% × 2)、小テスト(20%)、定期テスト(40%)	
準備学習 学習への アドバイス	筋の起始・停止、神経支配を復習しておくこと。学んだ検査技術を常に練習し、習熟していくこと。	
教科書	毎回使用:新・徒手筋力検査法 原著第10版	
参考書	VLC:KMD-01 痛みってなに?	

科目名	臨床実習Ⅰ(見学実習)					学 科	理学療法学科		
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	45 時間
講師氏名	小ヶ倉悠太・他					実務経験	理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校等にて授業経験1年		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法士に求められている社会的ニーズを学ぶ。</li> <li>介護保険制度の仕組みやサービスを理解し、介護保険領域の理学療法士や関連職種の業務の実際を理解する。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設見学実習を通して、臨床現場の実際を体験する。</li> </ul>								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回									
第2回									
第3回									
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場の規則を守り、円滑な運営の準備を理解する。</li> <li>傾聴に心がけ、話の真意を捉える努力をする。</li> <li>利用者の身体状況に合わせた姿勢、話し方を工夫できる。</li> </ul>								臨床経験
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>行われていた治療、レクリエーションについて説明できる。</li> <li>物的環境、サービスシステムなどの工夫点を挙げることができる。</li> <li>自主的に課題を見つけ、予習・復習ができる。</li> </ul>								
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険領域の業務(通所介護)について説明できる。</li> </ul>								
第7回									
第8回									
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 提出物、実習後発表 )								
成績評価基準	実習成績は、実習中の実習指導者の評価などから総合的に実習成績を判断する。								
準備学習 学習への アドバイス	介護保険制度の仕組みやサービス内容を学習しておく。実習へ向けた準備をしっかり行っておくこと。								
教科書	なし								
参考書	なし								

令和5年度

# 授業計画（シラバス）集



専門学校

柳川リハビリテーション学院

理学療法学科 2年

2023

## 目 次

### 理学療法学科

第2学年 【専門基礎分野】	頁
運動学演習	1
内科学	2
整形外科学	3・4
神経内科学	5・6
精神医学	7・8
【専門分野】	
スポーツ傷害学	9
理学療法プロセス	10
理学療法基礎Ⅱ	11
理学療法基礎Ⅲ	12
理学療法管理学Ⅱ	13
理学療法評価学Ⅲ	14・15
理学療法評価学Ⅳ	16
理学療法実践	17
運動療法学	18・19
物理療法学	20・21
生活技術学	22
義肢・装具学	23・24
神経系理学療法学Ⅰ	25・26
神経系理学療法学Ⅱ	27
運動系理学療法学Ⅰ	28・29
運動系理学療法学Ⅱ	30・31
循環器系理学療法学	32
呼吸器系理学療法学	33
小児理学療法学	34
生活環境学	35
地域理学療法学	36
福祉援助工学概論	37
臨床実習Ⅱ(評価実習)	38

科目名	運動学演習					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	小ヶ倉 悠太					実務経験	理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校にて授業経験1年		
授業概要	歩行の身体運動学(正常、および異常)								
到達目標	歩行の身体運動学を学び、観察による歩行分析ができるようになる								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	1. 歩行の空間的・時間的指標 歩行周期								講義 小ヶ倉 悠太
第2回	立脚期と遊脚期								講義 小ヶ倉 悠太
第3回	2. 関節の運動学 矢状面の運動学								講義 小ヶ倉 悠太
第4回	前額面の運動学								講義 小ヶ倉 悠太
第5回	水平面の運動学 体幹と上肢の運動学								講義 小ヶ倉 悠太
第6回	3. 重心の移動と制御 重心の移動 運動エネルギーとい位置エネルギーから見た歩行								講義 小ヶ倉 悠太
第7回	4. 運動力学 床反力 床中心の軌跡 関節トルクと関節パワー								講義 小ヶ倉 悠太
第8回	5. 筋活動 確認テスト① 股関節								講義 小ヶ倉 悠太
第9回	5. 筋活動 膝関節、足関節と足部								講義 小ヶ倉 悠太
第10回	5. 筋活動 相ごとの筋活動まとめ								講義 小ヶ倉 悠太
第11回	6. 異常歩行 確認テスト②								講義 小ヶ倉 悠太
第12回	〃								講義 小ヶ倉 悠太
第13回	歩行観察・分析演習 確認テスト③								講義 小ヶ倉 悠太
第14回	歩行観察・分析演習								講義 小ヶ倉 悠太
第15回	まとめ								講義 小ヶ倉 悠太
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	定期試験:60点、確認テスト3回:30点(各10点×3)、レポート:10点(歩行分析)								
準備学習 学習への アドバイス	・下肢の運動学を理解しておくことが望ましい。 ・毎回講義開始時に前回講義の復習、終了時に確認問題を行い、理解度の確認を行う。								
教科書	1)筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版株式会社) 2)観察による歩行分析(医学書院)								
参考書	動作分析臨床活用講座 一バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践ー(メジカルビュー)								

科目名	内科学					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	福泉 寛					実務経験			
授業概要	人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患について、その成因、症状、診断、治療について概説する。								
到達目標	各疾患の病因・病態・身体所見・検査所見・治療法を説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	内科学総論 病態・疾患の総論、症状と徵候、身体診察、臨床検査、臨床診断の基礎知識について解説する。								講義
第2回	循環器疾患① 心臓の整理、検査法、高血圧、虚血性心疾患病因・病態を解説する。								講義
第3回	循環器疾患② 心不全、先天性心臓病、心筋症等の病因・病態を解説する。								講義
第4回	呼吸器疾患 気道・肺の炎症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺がん等の病態を解説する。								講義
第5回	消化器疾患 食道がん、胃食道逆流症(GERD)、胃潰瘍、胃がん、潰瘍性大腸炎、クローン病等の病態を解説する。								講義
第6回	肝臓疾患 ウイルス性肝炎、肝硬変、肝がん等の病態を解説する。								講義
第7回	胆嚢疾患・脾臓疾患 胆石症、胆嚢炎、急性脾炎・慢性脾炎の病態を解説する。								講義
第8回	腎臓疾患 急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、慢性腎臓病(CKD)等の病態を解説する。								講義
第9回	内分泌疾患 下垂体の疾患、甲状腺機能亢進症、クッシング病、褐色細胞腫等の内分泌疾患の病態を解説する。								講義
第10回	糖尿病 糖尿病の病態、合併症、治療について解説する。								講義
第11回	代謝性疾患 肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症、ビタミン欠乏症の病態を解説する。								講義
第12回	自己免疫疾患・アレルギー疾患 全身性エリテマトーデス、関節リウマチなどの自己免疫疾患、花粉症などのアレルギー疾患、AIDSなどの免疫不全症の病態を解説する。								講義
第13回	血液疾患 貧血、造血器腫瘍、血小板減少症、血液凝固異常等の病態を解説する								講義
第14回	神経疾患 脳卒中、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病、脳腫瘍等の病態を解説する。								講義
第15回	感染症 種々の病原微生物(細菌、ウイルス、真菌など)とそれによる感染症の病態について解説する								講義
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	毎回の授業について、予習を行い、質問事項をまとめておくこと。								
教科書	「はじめの一歩の病態・疾患学」:林 洋(編集)、羊土社								
参考書									

科目名	整形外科学					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	各担当講師					実務経験			
授業概要									
到達目標	1)整形外科が対象とする運動器を構成する各組織の基礎を学ぶ 2)診察法、必要とする検査法を学ぶ 3)起こりうる疾患の種類を学ぶ 4)治療手段を学ぶ 5)治療における理学療法・作業療法の意義を学ぶ								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	整形外科基礎知識(1) 骨、関節、骨格筋の基本構造								講義
第2回	整形外科基礎知識(2) 神経系の基本構造、運動器の病態生理								講義
第3回	運動器の評価および検査法								講義
第4回	整形外科的治療法								講義
第5回	炎症性疾患(1) 感染性疾患								講義
第6回	炎症性疾患(2) リウマチ性疾患、非感染性炎症疾患								講義
第7回	代謝・内分泌性疾患 骨粗鬆症、くる病、痛風、偽痛風								講義
第8回	退行性疾患 変形性関節症、特殊な関節症								講義
第9回	先天性骨・関節疾患(1)								講義
第10回	先天性骨・関節疾患(2)								講義
第11回	循環障害と壊死性疾患								講義
第12回	骨軟部腫瘍(1)								講義
第13回	骨軟部腫瘍(2)								講義
第14回	神経・筋疾患								講義
第15回	人工関節(膝、股関節その他)								講義

第16回	脊髄損傷(1)	講義
第17回	脊髄損傷(2)	講義
第18回	脊髄損傷(3)	講義
第19回	脊椎の疾患(1) ①脊椎のいろいろの疾患、加齢による変化	講義
第20回	脊椎の疾患(2) ②靭帯骨化症、脊柱の変形、奇形	講義
第21回	末梢神経損傷(1)	講義
第22回	末梢神経損傷(2)	講義
第23回	骨折外傷総論	講義
第24回	骨折各論(1) ①体幹、上肢の骨折	講義
第25回	骨折各論(2) ②下肢の骨折	講義
第26回	関節の外傷	講義
第27回	腱・靭帯の外傷	講義
第28回	スポーツ外傷	講義
第29回	熱傷及び切断、離断	講義
第30回	リスクマネージメント	講義
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
成績評価基準	試験 100%	
準備学習 学習への アドバイス		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 医学書院	
参考書		

科目名	神経内科学					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	緒方 勝也					実務経験						
授業概要	臨床神経学の臨床および脳神経疾患、高次脳機能障害の原因や治療を学習する。											
到達目標	<p>前期:①神経系の区分を説明できる。 ②神経の組織を説明できる。 ③神経系の発生を説明できる。 ④中枢神経の基本的な構造と機能を説明できる。 ⑤脳の血管と支配領域を説明できる。 ⑥中枢神経系疾患の病態、診断、治療について説明できる。          ⑦末梢神経の基本的な構造と機能を説明できる。 ⑧基本的な神経学的検査について説明できる。</p> <p>後期:前期の知識を基に神経学の基礎および脳神経疾患、特に神経内科学や脳神経外科学的疾患、高次脳機能障害の原因や症候学的特徴とその基本的治療方針を学び、STとしての関わり方を修得できるようにする。</p>											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )											
第1回	中枢神経とは											
第2回	大脑の構成、大脑皮質、間脳について											
第3回	大脑基底核、大脑辺縁系、小脳について											
第4回	脳幹、脳神経について①											
第5回	脳神経について②											
第6回	脳神経障害①											
第7回	脳神経障害②											
第8回	脊髄、脳循環(脳の血管と支配領域)、脳脊髄液について											
第9回	運動麻痺について											
第10回	感覺障害											
第11回	意識障害、脳ヘルニア											
第12回	錐体外路障害											
第13回	小脳の障害											
第14回	中枢神経疾患の病態について①											
第15回	中枢神経疾患の病態について②											

第16回	痙攣とてんかん: 全身性、部分性、複雑部分発作、二次性全般化	講義 緒方 勝也
第17回	脳卒中・脳血管障害: くも膜下出血、脳出血、 脳梗塞(TIA, ラクナ梗塞, アテローム血栓性梗塞, 心原性塞栓)	講義 緒方 勝也
第18回	脳血管障害のリハビリテーション: 急性期リハビリテーション、亜急性期リハビリテーション、慢性期リハビリテーション	講義 緒方 勝也
第19回	脳腫瘍、外傷、脊髄損傷	講義 緒方 勝也
第20回	脱髓疾患、脊髄疾患 多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎など	講義 緒方 勝也
第21回	変性疾患: パーキンソン病、パーキンソン症候群、運動ニューロン疾患、脊髄小脳変性症	講義 緒方 勝也
第22回	末梢神経障害 手根管症候群、ベル麻痺、神経痛	講義 緒方 勝也
第23回	小児神経疾患の概要 脳性麻痺、脊髄破裂、水頭症、Chiari奇形	講義 緒方 勝也
第24回	筋疾患: 筋ジストロフィー、筋炎、ミトコンドリア脳筋症	講義 緒方 勝也
第25回	代謝・中毒疾患 アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常、ビタミン欠乏など	講義 緒方 勝也
第26回	感染症 各種髄膜炎・脳炎、脳症、プリオン病、細菌性、ウイルス性	講義 緒方 勝也
第27回	記憶の障害 健忘、Papetz回路 認知症 認知症症の診断、脳血管性、Alzheimer病、前頭側頭側病、レビー小体型など	講義 緒方 勝也
第28回	失語症 失語症の分類、運動性失語、感覺性失語、超皮質性失語、伝導失語、健忘失語	講義 緒方 勝也
第29回	失行 肢節運動失行、観念失行、観念運動失行、口部顔面失行、構成失行、着衣失行、脳梁離断症候群	講義 緒方 勝也
第30回	失認 視覚失認、聴覚失認、身体失認、半側空間失認の病態とりハビリテーション	講義 緒方 勝也
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験 70%, ミニテスト30%	
準備学習 学習への アドバイス	・臨床神経学はSTでの神経リハビリテーションを理解するための基本臨床科目です。暗記でなく論理的に理解することが必要です。中枢神経機能学で学習した内容も再度確認してください。 ・毎回の予習、復習を必ず行い、疑問があれば必ず質問するようにしてください。	
教科書	病気がみえる〈vol.7〉脳・神経 - 医療情報科学研究所	
参考書	脳神経疾患ビジュアルブック(落合慈之(監修)) 学研	

科目名	精神医学					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	水木 慧・兵頭 佑規					実務経験			
授業概要	精神医学を理解するために、教科書や資料を利用し、説明を行う。								
到達目標	精神疾患についての理解を深めるとともに、国家試験に対応できる知識を習得する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	精神医学 概論 精神医学の歴史と現状を理解する ・ 精神医学の歴史を述べることができる。 ・ 精神医学の歴史が現在の精神医学にもたらしている影響を説明できる。								講義 水木 慧
第2回	精神医学 概論 精神現象としての、こころのとらえ方を理解する ・ 現在の精神医療について理解し、精神現象について、精神医学的なアプローチを説明できる。 ・ こころの生物学的な理解を述べることができる。								講義 兵頭 佑規
第3回	精神医学 概論 精神現象の生物学的基礎を理解する ・ 神経系の構成について説明できる。								講義 水木 慧
第4回	精神医学 概論 精神現象としての、こころのとらえ方を理解する ・ 現在の精神医療について理解し、精神現象について、精神医学的なアプローチを説明できる。 ・ こころの生物学的な理解を述べることができる。								講義 兵頭 佑規
第5回	精神医学 概論 精神現象の生物学的基礎を理解する ・ 中枢神経系について説明できる。 ・ 末梢神経系について説明できる。								講義 水木 慧
第6回	精神疾患の症状 精神疾患の症状について理解する ・ 精神症状と状態像を説明できる。								講義 兵頭 佑規
第7回	代表的な精神疾患 器質性精神障害について理解する ・ 認知症を説明できる。								講義 水木 慧
第8回	代表的な精神疾患 器質性精神障害について理解する ・ 症状性精神障害を説明できる。 ・ てんかんを説明できる。								講義 水木 慧
第9回	代表的な精神疾患 統合失調症について理解する ・ 統合失調症をめぐる社会的課題を説明できる。 ・ 統合失調症の成因および病態の仮説を説明できる。 ・ 統合失調症の症状を説明できる。 ・ 統合失調症の病型および予後を区別して説明できる。								講義 兵頭 佑規
第10回	代表的な精神疾患 気分障害について理解する ・ 気分障害について説明できる。								講義 水木 慧
第11回	代表的な精神疾患 統合失調症について理解する ・ 統合失調症をめぐる社会的課題を説明できる。 ・ 統合失調症の成因および病態の仮説を説明できる。 ・ 統合失調症の症状を説明できる。 ・ 統合失調症の病型および予後を区別して説明できる。								講義 兵頭 佑規
第12回	代表的な精神疾患 うつ病について理解する ・ うつ病の症状と診断について説明できる。 ・ うつ病の治療について説明できる。								講義 水木 慧
第13回	代表的な精神疾患 神経症性障害について理解する ・ 神経症性障害の病態についての各仮説を説明できる。 ・ 神経症性障害の病態、症状を説明できる。 ・ 神経症性障害の治療を説明できる。								講義 兵頭 佑規
第14回	代表的な精神疾患 躁うつ病について理解する ・ 躍うつ病の症状と診断について説明できる。 ・ 躍うつ病の治療について説明できる。								講義 水木 慧
第15回	代表的な精神疾患 精神作用物質による精神および行動の障害について理解する ・ 精神作用物質の依存と乱用を説明できる。 ・ 精神作用物質の種類やその影響を説明できる。 ・ アルコールによる精神および行動の障害を説明できる。 ・ アルコール以外の精神作用物質による精神および行動の障害を説明できる。								講義 兵頭 佑規

第16回	代表的な精神疾患 ・摂食障害、睡眠覚醒リズム障害の各病態について症状、治療を説明できる。 ・特に青年期に生じやすい課題としての摂食障害、睡眠覚醒リズム障害への対策を述べることができる。	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群について理解する 講義 水木 慧
第17回	代表的な精神疾患 ・ストレス関連障害の病態、症状を説明できる。 ・ストレス関連障害の治療を説明できる。 ・成人のパーソナリティー障害について症状、治療を説明できる。 ・成人のパーソナリティー障害をめぐる臨床的課題を説明できる。	ストレス関連障害、成人のパーソナリティー障害について理解する 講義 兵頭 佑規
第18回	代表的な精神疾患 ・精神遅滞について説明できる。 ・心理的発達の障害について説明できる。	精神遅滞、心理的発達の障害について理解する 講義 水木 慧
第19回	代表的な精神疾患 ・ストレス関連障害の病態、症状を説明できる。 ・ストレス関連障害の治療を説明できる。 ・成人のパーソナリティー障害について症状、治療を説明できる。 ・成人のパーソナリティー障害をめぐる臨床的課題を説明できる。	ストレス関連障害、成人のパーソナリティー障害について理解する 講義 兵頭 佑規
第20回	精神疾患の治療 ・代表的な精神療法とその適応について説明できる。 ・精神療法の実際について説明できる。	精神療法および精神科リハビリテーションについて理解する 講義 水木 慧
第21回	代表的な精神疾患 ・多動性障害について説明できる。 ・素行(行為)障害について説明できる。 ・情緒障害について説明できる。	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害について理解する 講義 兵頭 佑規
第22回	外来診療 ・外来診療の流れ、精神科外来における診察、治療について説明できる。	外来診療について理解する 講義 水木 慧
第23回	精神疾患の治療、精神保健福祉法 ・抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠導入剤、抗てんかん薬について、各種薬剤の作用、副作用を説明できる。 ・電気けいれん療法その他の身体療法について、その特徴や適応を説明できる。 ・精神科治療と入院形態、行動制限、隔離、拘束について説明できる。	精神科薬物療法および精神保健福祉法について理解する 講義 兵頭 佑規
第24回	症例検討 1 ・代表的な症例の診断と治療について説明できる。	講義 水木 慧
第25回	精神疾患の治療、精神保健福祉法 ・抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠導入剤、抗てんかん薬について、各種薬剤の作用、副作用を説明できる。 ・電気けいれん療法その他の身体療法について、その特徴や適応を説明できる。 ・精神科治療と入院形態、行動制限、隔離、拘束について説明できる。	精神科薬物療法および精神保健福祉法について理解する 講義 兵頭 佑規
第26回	精神科リエゾン、緩和ケア ・精神科リエゾンや緩和ケアにおける、精神科の役割について説明できる。	講義 兵頭 佑規
第27回	症例検討 2 ・代表的な症例の診断と治療について説明できる。	講義 水木 慧
第28回	精神科リエゾン、緩和ケア ・精神科リエゾンや緩和ケアにおける、精神科の役割について説明できる。	講義 兵頭 佑規
第29回	まとめ 1 ・精神医学全般について理解し、説明できる。	講義 兵頭 佑規
第30回	まとめ 2 ・精神医学全般について理解し、説明できる。	講義 水木 慧
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
成績評価基準	筆記試験100%	
準備学習 学習への アドバイス	授業スライドを主軸とし学習すること。 スライドで分からぬ点を教科書の該当ページを読んで理解すること。	
教科書	専門医がやさしく語るはじめての精神医学 改定第2版 中山書店 渡辺雅幸	
参考書		

科目名	スポーツ傷害学					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 単位	時 間 数	30 時 間
講師氏名	村上 淳也 ・ 他					実務経験	理学療法士として臨床経験12年 リハビリテーション養成校にて授業経験2年		
授業概要	スポーツ外傷の発症機転、病態、症状を理解し、そこから理学療法の方向性をリスク管理も含め考える。また、スポーツ選手の復帰までの支援方法についても学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ外傷、スポーツ障害、アスレチックリハビリテーションの概要を説明できる。</li> <li>・疾患に関わる解剖学を想起し、各関節の正常な運動を説明できる。</li> <li>・理学療法実施時のリスク管理を説明できる。</li> </ul>								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	<p>【スポーツ選手やスポーツ愛好者の外傷からスポーツ復帰までの流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツでおこりやすい障害・外傷</li> <li>・スポーツ復帰までの流れ</li> </ul>								講義 村上 淳也
第2回	<p>【下肢外傷・障害に対する医療機関での理学療法①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・靭帯損傷の定義、一般的修復過程</li> <li>・膝靭帯損傷の疫学、発生機序、症状、評価、外科的手術、理学療法、リスク管理</li> </ul>								講義 演習 佐藤 貴宣
第3回	<p>【下肢外傷・障害に対する医療機関での理学療法②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半月板損傷の疫学、発生機序、症状</li> <li>・半月板損傷に対する評価、外科的手術、理学療法、リスク管理</li> </ul>								講義 演習 佐藤 貴宣
第4回	<p>【下肢外傷・障害に対する医療機関での理学療法③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足部捻挫・靭帯損傷の疫学、発生機序、症状</li> <li>・足部捻挫・靭帯損傷における評価、理学療法、リスク管理</li> </ul>								講義 演習 佐藤 貴宣
第5回	<p>【下肢外傷・障害に対する医療機関での理学療法④】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アキレス腱断裂の疫学、発生機序、症状</li> <li>・アキレス腱断裂に対する評価、外科的手術、理学療法、リスク管理</li> </ul>								講義 演習 佐藤 貴宣
第6回	<p>【下肢外傷・障害後、スポーツ復帰に向けての理学療法(予防を含む)①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ分野の理学療法領域</li> <li>・下肢スポーツ外傷後、スポーツ復帰までの支援</li> </ul>								講義 演習 長岡 健太
第7回	<p>【下肢外傷・障害後、スポーツ復帰に向けての理学療法(予防を含む)②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー競技などで生じやすい障害</li> </ul>								講義 演習 長岡 健太
第8回	<p>【下肢外傷・障害後、スポーツ復帰に向けての理学療法(予防を含む)③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ復帰のための具体的支援方法</li> </ul>								講義 演習 長岡 健太
第9回	<p>【下肢外傷・障害後、スポーツ復帰に向けての理学療法(予防を含む)④】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下肢スポーツ外傷の予防方法</li> </ul>								講義 演習 長岡 健太
第10回	<p>【スポーツの動作分析①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ分野の理学療法領域</li> <li>・投球動作と投球動作などで生じる肩関節障害</li> </ul>								講義 演習 久保田 正一
第11回	<p>【スポーツの動作分析②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツに伴う脊椎疾患</li> <li>・脊椎疾患に対する運動療法</li> </ul>								講義 演習 久保田 正一
第12回	<p>【スポーツの動作分析③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツに伴う膝関節外傷</li> <li>・膝関節疾患に対する運動療法</li> </ul>								講義 演習 久保田 正一
第13回	<p>【スポーツの動作分析④】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツに伴う足関節外傷</li> <li>・足関節疾患に対する運動療法</li> </ul>								講義 演習 久保田 正一
第14回	<p>【足底挿板①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足底挿板と足底挿板作成に伴う足部の解剖学・運動学</li> </ul>								講義 演習 村上 淳也
第15回	<p>【足底挿板②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足底挿板の作成方法</li> <li>・足底挿板の効果判定</li> </ul>								講義 演習 村上 淳也
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( ) )								
成績評価基準	期末試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	疾患の理解のために解剖学・運動学などを理解しておいた方が望ましい。また、座学のみでなく演習も行うため動きやすい服装で参加すること。								
教科書	1)標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 2)配布資料								
参考書									

科目名	理学療法プロセス					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	平田 大勝 ・ 学科教員					実務経験	理学療法士として臨床経験9年 リハビリテーション養成校にて教育経験5年		
授業概要	1. 理学療法プロセスの一連の流れについて学ぶ。 2. クリニカル・リーズニングについて学ぶ。 3. 上級生(teaching assistant)から評価技術について指導を受ける。								
到達目標	模擬患者を通してクリニカル・リーズニングを実践し、評価計画・治療プログラムを立案することができる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	理学療法プロセスの一連の流れについて学ぶ。 クリニカルリーズニング(臨床推論)について学ぶ。 ケースノート(SOAP形式)、ICF、レジュメの記載方法について学ぶ。								講義 平田 大勝
第2回	初期評価計画立案練習① 課題1: 仮説の設定と検証に必要な評価項目 仮説を立てるための知識、グループディスカッション、デモンストレーション								グループ学習 平田 大勝
第3回	初期評価計画立案練習① 課題1: 仮説の設定と検証に必要な評価項目 仮説を立てるための知識、グループディスカッション、デモンストレーション								グループ学習 平田 大勝
第4回	初期評価計画立案練習② 課題1: 仮説の設定と検証に必要な評価項目 仮説を立てるための知識、グループディスカッション、デモンストレーション								グループ学習 平田 大勝
第5回	初期評価計画立案練習② 課題1: 仮説の設定と検証に必要な評価項目 仮説を立てるための知識、グループディスカッション、デモンストレーション								グループ学習 平田 大勝
第6回	「評価演習(TA方式)」 運動器疾患に対する評価のデモンストレーションを実施する。 運動器疾患に対するTAのデモンストレーションを見学・模倣する。								グループ学習 学科教員
第7回	「評価演習(TA方式)」 運動器疾患に対する評価のデモンストレーションを実施する。 運動器疾患に対するTAのデモンストレーションを見学・模倣する。								グループ学習 学科教員
第8回	「評価演習(TA方式)」 脳血管疾患に対する評価のデモンストレーションを実施する。 脳血管疾患に対するTAのデモンストレーションを見学・模倣する。								グループ学習 学科教員
第9回	「評価演習(TA方式)」 脳血管疾患に対する評価のデモンストレーションを実施する。 脳血管疾患に対するTAのデモンストレーションを見学・模倣する。								グループ学習 学科教員
第10回	症例検討①情報収集 担当症例の医学的情報の集約と理解								グループ学習 学科教員
第11回	症例検討①情報収集 担当症例の医学的情報の集約と理解								グループ学習 学科教員
第12回	症例検討①リスク管理と評価項目立案 担当症例のリスク管理の理解と実践 担当症例の評価項目立案と実践								グループ学習 学科教員
第13回	症例検討①リスク管理と評価項目立案 担当症例のリスク管理の理解と実践 担当症例の評価項目立案と実践								グループ学習 学科教員
第14回	症例検討①問題点の整理と考察 ICFを用いた問題点の整理 各評価結果に対する考察								グループ学習 学科教員
第15回	症例検討①問題点の整理と考察 ICFを用いた問題点の整理 各評価結果に対する考察								グループ学習 学科教員
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	レポート×7回(12+13+15×5=100%)								
準備学習 学習への アドバイス	・解剖学・生理学・運動学などの基礎知識を十分に復習しておくこと。 ・グループ学習およびTAの指導では症例を提示する。疾患に合わせた文献を準備しておくこと。 ・パソコンの使用方法を各自で学習しておくこと。								
教科書	なし								
参考書	なし								

科目名	理学療法基礎Ⅱ					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	平田 大勝					実務経験	理学療法士として臨床経験9年 リハビリテーション養成校にて教育経験5年					
授業概要	臨床医学の振り返りおよび国家試験問題の分析											
到達目標	国家試験に必要な臨床医学の知識の定着											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	国家試験に向けた学習方法の獲得、目標設定 脳幹梗塞 wallenberg症候群								グループ学習 平田 大勝			
第2回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 くも膜下出血 正常圧水頭症								グループ学習 平田 大勝			
第3回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 パーキンソン病 ALS								グループ学習 平田 大勝			
第4回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。ギランバレー症候群 多発性硬化症 重症筋無力症								グループ学習 平田 大勝			
第5回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。筋ジストロフィー 脳性麻痺 筋ジストロフィー								グループ学習 平田 大勝			
第6回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 糖尿病								グループ学習 平田 大勝			
第7回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 腎不全								グループ学習 平田 大勝			
第8回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 COPD 間質性肺炎								グループ学習 平田 大勝			
第9回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。骨折 心筋梗塞 狭心症								グループ学習 平田 大勝			
第10回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 フレイル サルコペニア、ロコモティブシンドローム								グループ学習 平田 大勝			
第11回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 橈骨遠位端骨折 大腿骨頸部骨折								グループ学習 平田 大勝			
第12回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。骨折 関節リウマチ 半月板損傷								グループ学習 平田 大勝			
第13回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 ACL損傷 PCL損傷								グループ学習 平田 大勝			
第14回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 股OA 膝OA								グループ学習 平田 大勝			
第15回	以下の疾患について国家試験に必要な知識をまとめる。 腱板断裂 脊柱管狭窄症								グループ学習 平田 大勝			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	定期試験100点											
準備学習 学習への アドバイス	国家試験に必要な知識を調べ学習してもらいますので、国家試験過去問などで知識を習得できているか確認しておいてください。理解できていない部分は、分かる人や教員に質問するようにしてください。											
教科書	国試の達人 2023臨床医学編 第24版											
参考書												

科目名	理学療法基礎Ⅲ					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	榎 英一					実務経験	理学療法士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校等にて授業経験12年		
授業概要	国家試験対策(専門)								
到達目標	専門分野(主に疾患別理学療法分野)の国家試験について理解を深める。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	オリエンテーション 【基礎理学療法学】								講義 グループ学習 榎 英一
第2回	【運動療法】 ROM、筋力強化、その他								講義 グループ学習 榎 英一
第3回	【ADL】 ADL、車椅子と補装具、指導								講義 グループ学習 榎 英一
第4回	【物理療法】 電気、マイクロ、温冷、超音波、水治療法、牽引、その他								講義 グループ学習 榎 英一
第5回	【脳血管障害】 症状と評価								講義 グループ学習 榎 英一
第6回	【脳血管障害】 理学療法								講義 グループ学習 榎 英一
第7回	【義肢】 義足、歩行、PT								講義 グループ学習 榎 英一
第8回	【装具】 上肢装具、下肢装具、靴型装具、体幹、その他								講義 グループ学習 榎 英一
第9回	【呼吸】								講義 グループ学習 榎 英一
第10回	【循環】								講義 グループ学習 榎 英一
第11回	【脊損PT】								講義 グループ学習 榎 英一
第12回	【神経・筋】 パーキンソン病、失調								講義 グループ学習 榎 英一
第13回	【神経・筋】 ALS、ギランバレー多発性硬化症、多発性筋炎、その他								講義 グループ学習 榎 英一
第14回	【小児PT】 発達、CP、筋ジストロフィー、二分脊椎、その他								講義 グループ学習 榎 英一
第15回	【整形外科PT】 RA、関節、骨折と脱臼、靭帯と筋、上肢、下肢、体幹、スポーツ								講義 グループ学習 榎 英一
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	期末試験(90%)、小テスト(10%) ※小テストは評価法から出題								
準備学習 学習への アドバイス	2年次から始まる疾患別理学療法で学習したことを活用して国家試験問題の理解を深めてください。学習した内容を臨床実習や次年度の国家試験対策に活用できることが目標である。								
教科書	・クエスチョン・バンク 理学療法士 国家試験問題解説2024 専門問題 第15版(後期までに購入予定) ・その他、2年次の疾患別理学療法で使用した教科書 ・解剖学、生理学、運動学の授業で使用した教科書								
参考書									

科目名	理学療法管理学Ⅱ					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
講師氏名	村上 淳也					実務経験	理学療法士として臨床経験12年 リハビリテーション養成校にて教育経験2年		
授業概要	理学療法士として病院に勤務する場合、対象者の持っているリスクを把握することは当然ながら危機を防ぐマネジメント力が不可欠である。本授業では、病院実習に向け、マネジメントについて学ぶ。また、臨床へ向けた下記目標を達成し、臨床技術の向上を図る。								
到達目標	病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。 ①医療現場におけるリスク管理を把握する。 ②医療現場におけるリスク管理に必要な運動スキルを習得する。 ③症例を通して、様々な状況に応じたリスク管理の考え方について学ぶ。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回 9/15 1限	【文献検索、情報管理】 文献検索方法と情報管理について学ぶ								講義
第2回 9/22 3限	【症例検討会見学】※レポート提出 長期実習後の症例検討会を見学し、実習に向けた理学療法管理を学ぶ								小ヶ倉 悠太 講義
第3回 9/22 4限	【症例検討会見学】※レポート提出 長期実習後の症例検討会を見学し、実習に向けた理学療法管理を学ぶ								蓮本 礼佳 講義
第4回 10/12 3限	【リスク管理演習】 転倒、転落の防止を演習を通して学ぶ								蓮本 礼佳 講義
第5回 10/12 4限	【リスク管理演習】 転倒、転落の防止を演習を通して学ぶ								蓮本 礼佳 講義
第6回 12月中	【リスク管理の実際】※レポート提出 病院におけるリスク管理の実際について								佐藤貴宜 講義
第7回 12月中	【病院における理学療法管理の実際】※レポート提出 病院における理学療法管理の実際について 現場管理職による様々な管理について								外来講師 講義
第8回 実習前	【評価実習前オリエンテーション】 評価実習に向けた心構えなどの準備								演習 グループ学習 蓮本 礼佳
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	レポート課題100点								
準備学習 学習への アドバイス	学習は評価実習を見据えて行ってください。								
教科書	理学療法管理学(医歯薬出版株式会社)								
参考書	なし								

科目名	理学療法評価学Ⅲ					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	2 単位	時 間 数	60 時 間			
講師氏名	平田 大勝					実務経験	理学療法士として臨床経験9年 リハビリテーション養成校にて教育経験5年					
授業概要	解剖学、生理学、運動学の知識を基に、実際の臨床現場で理学療法士が行っている検査技術について説明し、実際に実技演習を行う。											
到達目標	1. 理学療法を施行するために行う検査・測定(感覚検査、腱反射、病的反射、筋緊張検査、協調性検査、脳神経検査、片麻痺機能検査、高次脳機能検査、意識検査、認知機能検査、バランス評価)の方法を習得する。 2. 検査結果を記録し、考察する。統合と解釈の練習をする。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	検査、測定の意義、目的について【教科書】評p2~14 検査、測定の模倣、修得について 検査、測定結果の記録、考察について								講義 平田 大勝			
第2回	表在感覚の種類及び受容器と伝導路について【予習1】[医学]目で見る解剖と生理 第2版 Vol.2 神経系Ⅱ 表在感覚検査の意義、目的および方法、記録について【教科書】評p138~144、病p218~226 模擬患者情報から検査結果をSOAP方式で記録、考察する。【レポート課題1】								講義 平田 大勝			
第3回	表在感覚検査の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。								演習 平田 大勝			
第4回	深部感覚の種類及び受容器と伝導路について【予習2】[医学]目で見る解剖と生理 第2版 Vol.1 神経系Ⅰ 深部感覚検査の意義、目的および方法、記録について【教科書】評p144~149 模擬患者情報から検査結果をSOAP方式で記録、考察する。								講義 平田 大勝			
第5回	深部感覚検査の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。								演習 平田 大勝			
第6回	腱反射・病的反射の種類及びメカニズムについて【予習3】[医学]目で見る医学の基礎 第2版 Vol.2 神経系 腱反射・病的反射の意義、目的および方法、記録について【教科書】別紙配布 模擬患者情報から検査結果をSOAP方式で記録、考察する。								講義 平田 大勝			
第7回	腱反射の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。								演習 平田 大勝			
第8回	病的反射の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。								演習 平田 大勝			
第9回	筋緊張のメカニズム及び筋緊張検査の種類について【予習4】[健康・保健]生命の科学 第2版 Vol.3 ヒトとは 隨意運動のしくみ 筋緊張検査の意義、目的および方法、記録について【教科書】別紙配布 模擬患者情報から検査結果をSOAP方式で記録、考察する。								講義 平田 大勝			
第10回	筋緊張検査の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。								演習 平田 大勝			
第11回	協調性障害の分類及び協調性が保たれるメカニズムについて【予習5】[医学]目で見る病気 第2版 Vol.4 脳血管障害 協調性検査の意義、目的および方法、記録について【教科書】評164~176 模擬患者情報から検査結果をSOAP方式で記録、考察する。								講義 平田 大勝			
第12回	協調性検査の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。								演習 平田 大勝			
第13回	脳神経系の障害による主要な症状や徵候について(I ~ VI) 脳神経検査の意義、目的および方法、記録について(I ~ VI) 【予習6】[医学]リハビリテーション医学 第2版 Vol.1 脳卒中(急性期)のリハビリテーション								講義 平田 大勝			
第14回	脳神経系の障害による主要な症状や徵候について(VII ~ XII) 脳神経検査の意義、目的および方法、記録について(VII ~ XII)								講義 平田 大勝			
第15回	脳神経検査の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。(I ~ XII)								演習 平田 大勝			

第16回	片麻痺の運動障害の特徴と異常運動パターンについて【予習7】[医学]リハビリテーション医学 第2版 Vol.11 脳卒中の回復期 Brunnstrom stage testの意義、目的および方法、記録について【教科書】評p125～133、別紙配布 模擬患者情報から検査結果をSOAP方式で記録、考察する。【レポート課題2】	講義 平田 大勝
第17回	Brunnstrom stage testの方法を模倣し、グループに分かれて練習する。	演習 平田 大勝
第18回	中枢神経麻痺の総合的評価方法について【教科書】評p133～137 Fugl-Meyer assessment, stroke impairment assessment setについて National Institutes of Health stroke scale, Japan stroke scaleについて	講義 平田 大勝
第19回	高次脳機能の概略について【予習8】[医学]リハビリテーション医学 第2版 Vol.14 高次脳機能障害 高次脳機能障害とその評価について【教科書】評p205～222 模擬患者情報から検査結果をSOAP方式で記録、考察する。	講義 平田 大勝
第20回	高次脳機能検査の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。	演習 平田 大勝
第21回	意識、覚醒状態について【予習9】[看護]看護のための病態生理とアセスメント Vol.9 意識障害 意識障害の検査の意義、目的および方法、記録について【教科書】評p31～33 意識障害の検査の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。	講義 演習 平田 大勝
第22回	認知機能について【予習10】[看護]認知症高齢者の看護 急性期病院編 Vol.1 コミュニケーションはとれていますか？ 認知機能障害の検査の意義、目的および方法、記録について 認知機能障害の検査の方法を模倣し、グループに分かれて練習する。	講義 演習 平田 大勝
第23回	バランス能力について【教科書】評p150～163 Functional Balance Scale Time Up and Go, 10m歩行テストの意義、目的および方法、記録について 模擬患者情報から検査結果をSOAP方式で記録、考察する。【レポート課題3】	講義 平田 大勝
第24回	Functional Balance Scaleの方法を模倣し、グループに分かれて練習する。	演習 平田 大勝
第25回	Time Up and Go, 10m歩行テストの方法を模倣し、グループに分かれて練習する。	演習 平田 大勝
第26回	これまで学習した検査、測定を用いた模擬患者の検査結果をICFを用いて、統合と解釈を行う。 グループに分かれて、考察を話し合い、発表する。【レポート課題4】	PBL グループ学習 平田 大勝
第27回	【実技試験】 これまでに学習した検査、測定を確認し、指定された課題について実施することができる。 各種検査の指示ができ、異常所見が判断できる。	演習 平田 大勝
第28回		
第29回		
第30回		
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
成績評価基準	【前期】定期試験30点、レポート(6点×5回)30点【後期】実技試験40点	
準備学習 学習への アドバイス	ビジュランクラウドや教科書を予習して授業に臨んでください。また、実技に関しては、授業後に繰り返し練習して修得するようにしてください。レポートは、引用文献を紹介しながら考察まで行ってください。分からることはその都度質問に来るようにしてください。	
教科書	リハビリテーション基礎評価学(羊土社) 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版	
参考書		

科目名	理学療法評価学IV					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間
講師氏名	小ヶ倉 悠太					実務経験	理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校にて授業経験1年		
授業概要	動作遂行に必要な機能を学び、動作観察及び分析を理解するために資料を用いて説明を行う。								
到達目標	健常者の基本動作を観察し、その特徴を理解する。 運動力学の基礎知識を学び、運動・動作遂行に影響を及ぼす要因を理解する。 异常な動作となっている現象を捉えることができる。								
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	動作観察・分析の目的・意義 運動学・運動力学とは(重心・床反力・関節モーメント)								演習 小ヶ倉 悠太
第2回	寝返り動作を遂行するのに必要な機能・メカニズム								演習 小ヶ倉 悠太
第3回	起き上がり動作を遂行するのに必要な機能・メカニズム								講義 小ヶ倉 悠太
第4回	起き上がり動作を遂行するのに必要な機能・メカニズム								講義 小ヶ倉 悠太
第5回	座位姿勢の観察・分析								講義 小ヶ倉 悠太
第6回	起立動作を遂行するのに必要な機能・メカニズム								講義 小ヶ倉 悠太
第7回	起立動作を遂行するのに必要な機能・メカニズム								講義 小ヶ倉 悠太
第8回	症例の起立動作観察・分析を実践する。								講義 小ヶ倉 悠太
第9回	症例の起立動作観察・分析を実践する。								講義 小ヶ倉 悠太
第10回	立位姿勢の観察・分析								講義 小ヶ倉 悠太
第11回	歩行観察・分析の方法を理解する。								講義 小ヶ倉 悠太
第12回	症例の歩行観察・分析の実践								講義 小ヶ倉 悠太
第13回	症例の歩行観察・分析の実践								講義 小ヶ倉 悠太
第14回	症例の歩行観察・分析の実践								講義 小ヶ倉 悠太
第15回	症例の歩行観察・分析の実践								講義 小ヶ倉 悠太
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験(50%)、レポート(50%)								
準備学習 学習への アドバイス	前回の授業で指示された部分の予習をしておくこと。								
教科書	配布資料、動作分析臨床活用講座(MEDICAL VIEW)、歩行のところは、「観察による歩行分析」(医学書院)を用いる								
参考書	症例動作分析(HUMAN PRESS)、症例動画から学ぶ臨床姿勢分析 姿勢・運動連鎖・形態の評価法(HUMAN PRESS)								

科目名	理学療法実践					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	平田 大勝・学科教員					実務経験	理学療法士として臨床経験9年 リハビリテーション養成校にて教育経験5年		
授業概要	1. 講義, OSCE, 病院での検査・測定実習を通して、理学療法評価過程を学ぶ。 2. 症例に対する思考過程を経験する。 3. 一連の過程を通して、これまで学習した知識を整理する。								
到達目標	1. 理学療法評価に必要な知識・技術を再確認し、円滑に実践できる。 2. 医療従事者として適切な態度、言葉遣いを身につける。 3. 評価結果から問題点を抽出して、理学療法プログラムを立案できる。 4. 自己の思考過程を明文化して他者に伝え、ディスカッションを通して視野を拡大することができる。								
回 数	授業計画(内容)							授業形態 講師氏名	
第1回	OSCEと病院実習の概要説明 オリエンテーションの実施							講義	平田 大勝
第2回	症例検討①目標設定 目標設定と目標達成を阻害する因子に対する考察							グループ学習	
第3回								全学科教員	
第4回	【症例検討実習の心構えと準備】 病院での演習に向けたオリエンテーションと実技練習							グループ学習	
第5回								平田 大勝	
第6回	【第1回 症例検討実習】 担当症例の理学療法を見学する。 症例の情報を収集し、担当症例について理解を深める。								
第7回	基本動作能力を把握し、理学療法評価に必要な情報収集する。 評価計画を立案し、ケースノートを作成する。								
第8回	【第2回 症例検討実習】 検査測定を実施する。							グループ学習	
第9回	リスク管理に配慮し、計画に沿った理学療法評価を実施する。 評価結果についてディスカッションを行い、情報を整理する。 次回の評価計画を立案し、ケースノートを作成する。								
第10回	【第3回 症例検討実習】 検査測定を実施する。								
第11回	リスク管理に配慮し、計画に沿った理学療法評価を実施する。 評価結果についてディスカッションを行い、情報を整理する。 ケースノートを作成する。							全学科教員	
第12回	【レジュメ作成】 報告会用のレジュメを作成する。							グループ学習	
第13回	症例情報をICFを用いて整理し、評価結果やその関係についてディスカッションする。 評価結果から問題点を抽出し、理学療法プログラムを立案する。 引用文献や参考文献の記載を含めて、症例情報の統合と解釈を行い、レジュメを作成する。							全学科教員	
第14回	【症例報告会】 担当症例について報告する。 各グループの症例情報を全員で共有し、説明する。								
第15回	症例の動作の特徴を模倣で示しながら、レジュメに沿って報告する。 他グループの発表内容を理解し、疑問点を質問する。 実習に向けて、必要な学習項目を列挙する。							全学科教員	
成績評価方 法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	課題提出(レポート)15% × 5=75%, 発表25%								
準備学習 学習への アドバイス	症例検討実習での検査・測定実習の準備として、グループでの実習練習を行っておくこと。 グループ単位の活動では、リーダーシップや協調性を発揮して、活発な意見交換すること。								
教科書	なし								
参考書	学内講義で使用した教科書および配布資料								

科目名	運動療法学					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専 門	学 期	前 期	単位数	2 单位	時間数	60 時間
講師氏名	小ヶ倉 悠太・榎 英一・蓮本 礼佳・他					実務経験	小ヶ倉:理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校にて授業経験1年		
授業概要	・運動療法の目的・方法・リスク管理を理解する ・運動療法の基本的手技を修得する								
到達目標	・運動療法の目的・方法・リスク管理を説明することができる ・運動療法の基本的手技を実施することができる								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )							授業形態 講師氏名	
第1回	運動療法総論 ・運動療法の定義と特徴、分類、適応・禁忌を理解する。 ・運動療法の手順を理解する。							講義	
								小ヶ倉 悠太	
第2回	関節可動域制限に対する運動療法① ・関節の種類と特徴を理解する　・関節可動域制限の原因を理解する　・凹凸の法則(構成運動)を理解する ・副運動を理解する　・CCPとLPPを理解する　・関節運動を実践する							講義	
								榎 英一	
第3回	関節可動域制限に対する運動療法② ・関節の種類と特徴を理解する　・関節可動域制限の原因を理解する　・凹凸の法則(構成運動)を理解する ・副運動を理解する　・CCPとLPPを理解する　・関節運動を実践する							講義	
								榎 英一	
第4回	関節可動域制限に対する運動療法③ ・エンドフィールについて理解する　・関節モビライゼーションについて理解する ・ストレッチについて理解する　・関節モビライゼーション及びストレッチを実践する							講義	
								榎 英一	
第5回	関節可動域制限に対する運動療法④ ・エンドフィールについて理解する　・関節モビライゼーションについて理解する ・ストレッチングについて理解する　・関節モビライゼーション及びストレッチを実践する							講義	
								榎 英一	
第6回	関節可動域制限に対する運動療法⑤ ・各関節可動域制限(脊柱・肩・手・股・膝・足・足部)に対する運動療法について理解する ・各関節可動域運動を実践する							講義	
								榎 英一	
第7回	関節可動域制限に対する運動療法⑥ ・各関節可動域制限(脊柱・肩・手・股・膝・足・足部)に対する運動療法について理解する ・各関節可動域運動を実践する							講義	
								榎 英一	
第8回	筋機能障害に対する運動療法① ・トレーニングの原理・原則について理解する　・筋収縮様式について理解する ・CKCとOKCを理解する　・構成抵抗運動を理解する　・筋力増強運動を理解する							講義	
								蓮本 礼佳	
第9回	筋機能障害に対する運動療法② ・トレーニングの原理・原則について理解する　・筋収縮様式について理解する ・CKCとOKCを理解する　・構成抵抗運動を理解する　・筋力増強運動を理解する							講義	
								蓮本 礼佳	
第10回	筋機能障害に対する運動療法③ ・各関節(股・膝・足)周囲筋に対する筋力増強運動を実践する							講義	
								蓮本 礼佳	
第11回	筋機能障害に対する運動療法④ ・各関節(股・膝・足)周囲筋に対する筋力増強運動を実践する							講義	
								蓮本 礼佳	
第12回	片麻痺患者の基本動作に対する運動療法① ・基本動作練習を実践する(寝返り)							講義	
								小ヶ倉 悠太	
第13回	片麻痺患者の基本動作に対する運動療法② ・基本動作練習を実践する(起き上がり)							講義	
								小ヶ倉 悠太	
第14回	片麻痺患者の基本動作に対する運動療法③ ・基本動作練習を実践する(起立)							講義	
								小ヶ倉 悠太	
第15回	片麻痺患者の基本動作に対する運動療法④ ・基本動作練習を実践する(歩行)							講義	
								小ヶ倉 悠太	

第16回	基本動作に対する運動療法⑤ ・基本動作練習実践のまとめ	講義 小ヶ倉 悠太
第17回	全身持久力増強の運動療法① ・運動と呼吸・循環・代謝について理解する ・全身持久力増強運動(運動処方)について理解する	講義 横尾 正博
第18回	全身持久力増強の運動療法② ・全身持久力増強運動(運動処方)を実践する	講義 横尾 正博
第19回	全身持久力増強の運動療法③ ・全身持久力増強運動(運動処方)を実践する	講義 横尾 正博
第20回	全身持久力増強の運動療法④ ・全身持久力増強運動(運動処方)を実践する	講義 横尾 正博
第21回	感覚障害(めまい)に対する運動療法① ・前庭性めまいについて理解する ・前庭性めまいに対する運動療法について理解する	講義 平田 大勝
第22回	感覚障害(めまい)に対する運動療法① ・前庭性めまいについて理解する ・前庭性めまいに対する運動療法について理解する	講義 平田 大勝
第23回	協調性運動(運動失調)の運動療法 ・協調性運動について理解する ・協調性運動障害に対する運動療法を理解する	講義 村上 淳也
第24回	女性(産前・産後)の身体的变化(尿失禁及び腰痛)及びその運動療法を理解する	講義 漆川 沙弥香
第25回	がんの病態と治療及びその運動療法について理解する	講義 木原 理恵
第26回	バランス機能障害に対する運動療法① ・バランス機能について理解する ・バランス機能障害に対する運動療法を理解する	講義 平田 大勝
第27回	バランス機能障害に対する運動療法② ・バランス機能について理解する ・バランス機能障害に対する運動療法を理解する	講義 平田 大勝
第28回	・PNFについて理解する。 ・運動療法の中でPNFを活用する。	講義 堤 聖
第29回	実技試験(ROM・筋力増強・基本動作・全身持久力・協調性・バランス練習)	演習 小ヶ倉 悠太
第30回	実技試験(ROM・筋力増強・基本動作・全身持久力・協調性・バランス練習)	演習 小ヶ倉 悠太
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 )	
成績評価基準	実技テスト(50%)・定期試験(50%)	
準備学習 学習への アドバイス	解剖学・運動学・生理学について復習しておくこと。運動療法をすすめるうえで、これらの知識が基盤となる。	
教科書	クロスリンク理学療法学テキスト 運動療法学 メジカルビュー社	
参考書	VLC:RRD-07 身体運動のしくみ1 及び WLD-05 トレーニングの科学 ならびに HUD-01 運動指導の基礎知識	

科目名	物理療法学					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専門	学 期	前 期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	榊 英一					実務経験	理学療法士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校等にて授業経験12年		
授業概要	理学療法の治療手段の一つである物理療法を理解するために、教科書や資料を利用し説明を行う。 演習を行い、治療手技などの理解を深める。								
到達目標	物理療法を適切に行うために、各治療法について、目的、生理学的効果、適応・禁忌、治療手技、リスク管理などを理解する。 演習を通して、治療法などを習得する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	【物理療法とは】 ・オリエンテーション ・ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波などの物理療法機器								講義 演習 榊 英一
第2回	【物理療法の体系】 ・物理療法の定義、分類、治療目的 ・物理療法の適応と禁忌								講義 榊 英一
第3回	【温熱療法の定義、生理学的効果】 ・温熱療法の定義 ・温熱療法時の全身反応と局所反応								講義 榊 英一
第4回	【温熱療法の生理学的効果】 ・温熱療法の生理学的効果 ・局所反応(神経・筋・結合組織・痛み等)								講義 榊 英一
第5回	【温熱療法の適用と禁忌】 ・温熱療法の適応と禁忌								講義 榊 英一
第6回	【表在性温熱療法①】 ・ホットパックの特性と生理学的効果 ・ホットパックの適応と禁忌								講義 榊 英一
第7回	【表在性温熱療法②】 ・パラフィンの特性と生理学的効果 ・パラフィンの適応と禁忌								講義 榊 英一
第8回	【表在性温熱療法演習】 ・ホットパック ・パラフィン								演習 榊 英一
第9回	【深部温熱療法①】 ・極超短波の特性と生理学的効果 ・極超短波の適応と禁忌								講義 榊 英一
第10回	【深部温熱療法②】 ・超音波の特性と生理学的効果 ・超音波の適応と禁忌								講義 榊 英一
第11回	【深部温熱療法演習①】 ・極超短波、超音波を用いる場合の評価 ・極超短波、超音波の治療手順								演習 榊 英一
第12回	【深部温熱療法演習②】 ・極超短波、超音波の生理学的効果の検討								演習 榊 英一
第13回	【温熱療法まとめ】 ・表在性温熱療法と深部温熱療法の特性や生理学的効果の違い ・極超短波と超音波の適応と禁忌事項の相違点								講義 榊 英一
第14回	【寒冷療法①】 ・寒冷療法の特性と生理学的効果 ・寒冷療法の適応と禁忌								講義 榊 英一
第15回	【寒冷療法②】 ・寒冷を用いる場合の評価 ・寒冷の治療手順								演習 榊 英一

第16回	【温熱療法と寒冷療法のまとめ】 ・物理療法総論、ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波、寒冷療法 ・前半の内容に関する国家試験問題の解説	講義 榎 英一
第17回	【水治療法①】 ・水の特性 ・水治療法の生理学的效果、及び適応と禁忌	講義 榎 英一
第18回	【水治療法②】 ・渦流浴、気泡浴、ハーバードタンクの特性 ・渦流浴・気泡浴・ハーバードタンクの生理学的效果、及び適応と禁忌	講義 榎 英一
第19回	【水治療法③】 ・治療用プールの特性 ・治療用プールの生理学的效果、及び適応と禁忌	講義 榎 英一
第20回	【光線療法①】 ・光線療法の種類 ・赤外線・紫外線の生理学的效果、及び適応と禁忌	講義 榎 英一
第21回	【光線療法②】 ・レーザーの種類 ・レーザーの生理学的效果、及び適応と禁忌	講義 榎 英一
第22回	【電気刺激療法①】 ・電気に関する基本的用語 ・電気刺激療法の種類と生理学的效果	講義 榎 英一
第23回	【電気刺激療法②】 ・電気刺激の特性 ・電気診断の理論	講義 榎 英一
第24回	【電気刺激療法③】 ・電気刺激療法を用いる場合の評価 ・電気刺激療法の治療手順	演習 榎 英一
第25回	【牽引療法①】 ・牽引療法の種類 ・牽引療法の生理学的效果、及び適応と禁忌	講義 榎 英一
第26回	【牽引療法②】 ・頸椎牽引の特性 ・頸椎牽引の生理学的效果、及び適応と禁忌	講義 榎 英一
第27回	【牽引療法③】 ・腰椎牽引の特性 ・腰椎牽引の生理学的效果、及び適応と禁忌	講義 榎 英一
第28回	【光線療法・水治療法・牽引療法演習①】 ・光線療法、水治療法、牽引療法を用いる場合の評価 ・光線療法、水治療法、牽引療法の治療手順	演習 榎 英一
第29回	【光線療法・水治療法・牽引療法演習②】 ・光線療法、水治療法、牽引療法を用いる場合の評価 ・光線療法、水治療法、牽引療法の治療手順	演習 榎 英一
第30回	【光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法のまとめ】 ・後半の内容に関する国家試験問題の解説	講義 榎 英一
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	中間テスト(40%) 期末テスト(40%)、小テストおよびレポート(20%)	
準備学習 学習への アドバイス	生理学(循環、呼吸、筋、神経、感覚、代謝)の復習も行いながら講義を実施する。 毎回、小テストを実施する。 演習時には運動着を着用すること(ジーパン等は不可)。	
教科書	Crosslink 理学療法テキスト物理療法学	
参考書	【ビジュランクラウド視聴】 健康・保健シリーズ、人体を学ぶための理科 物理、力学・電気・波	

科目名	生活技術学					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	基礎	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	蓮本 礼佳					実務経験	理学療法士として臨床経験5年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	日常生活活動(ADL)を専門的な視点でとらえ、各疾患の典型的な障害像に対する日常生活活動の指導について学習する。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法におけるADLの位置づけを理解する。</li> <li>・ADL評価(量的・質的)を修得する。</li> <li>・疾患別の典型的な障害像に対するADL指導・練習方法を修得する。</li> </ul>											
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名			
第1回	ADLの概念と範囲 生活機能からみたADLの位置づけ ADL評価ポイント								講義 蓮本 礼佳			
第2回	ADL評価表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Barthel Index</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第3回	ADL評価表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・FIM</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第4回	ADL評価表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・FIM</li> <li>・手段的ADL評価</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第5回	確認テスト セルフケアの観察と分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフケアに影響する内的因子・外的因子</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第6回	セルフケアの観察と分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健常者のセルフケアの観察</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第7回	脳卒中片麻痺 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、機能障害の概要</li> <li>・介助方法と練習指導</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第8回	脳卒中片麻痺 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、機能障害の概要</li> <li>・介助方法と練習指導</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第9回	脳卒中片麻痺 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、機能障害の概要</li> <li>・介助方法と練習指導</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第10回	脳卒中片麻痺 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、機能障害の概要</li> <li>・介助方法と練習指導</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第11回	噫下障害 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、機能障害の概要</li> <li>・介助方法と練習指導</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第12回	排泄障害 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、機能障害の概要</li> <li>・介助方法と練習指導</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第13回	パーキンソン病 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、機能障害の概要</li> <li>・介助方法と練習指導</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第14回	人工関節全置換術 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、機能障害の概要</li> <li>・介助方法と練習指導</li> </ul>								講義 蓮本 礼佳			
第15回	まとめ 試験対策								講義 蓮本 礼佳			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 提出物 )								)			
成績評価基準	定期試験80%、確認テスト10%、提出物10%											
準備学習 学習への アドバイス	上記に挙げている疾患については、ヴィジュランクラウド「リハビリテーション医学」で確認のこと。復習が大切です。											
教科書	1)脳卒中の機能評価SIASとFIM[基礎編](金原出版株式会社) 2)PT・OTビジュアルテキストADL(羊土社)											
参考書												

科目名	義肢・装具学					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専 門	学 期	前・後期	単位数	2 单位	時間数	60 時間			
講師氏名	遠藤 正英 ・ 田代 耕一					実務経験	遠藤:理学療法士として臨床経験18年					
授業概要	講義を主体に進行するが、随所にディスカッション形式を取り入れ、参加型授業をしていきたい。											
到達目標	義肢装具の使用目的、種類、構造について理解し、患者の疾患に応じた適応を判断できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の障害から義肢装具の必要性を学ぶ</li> <li>・義肢装具の定義と目的を理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義肢装具クリニックの必要性と意味を理解する</li> <li>・義肢装具の支給体系を理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義肢装具の作製過程を理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材の違いを理解する</li> <li>・義肢装具のバイオメカニクスを理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切断と断端の定義と社会的背景を理解する</li> <li>・切断の目的と原因を理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切断手技について理解する</li> <li>・断端管理について理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾性包帯を巻いてみる</li> <li>・切断の合併症を理解する</li> </ul>								講義 演習 遠藤 正英			
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義足の構造を理解する</li> <li>・義足の異常歩行を理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・装飾用義手の使用目的を理解する</li> <li>・能動用義手の構造と使用目的を理解する</li> </ul>								講義 田代 耕一			
第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業用義手の構造と使用目的を理解する</li> <li>・筋電義手の構造と使用目的を理解する</li> </ul>								講義 田代 耕一			
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・装具の定義と目的を理解する</li> <li>・三点固定の原理を理解する</li> <li>・素材の違いを理解する</li> </ul>								講義 田代 耕一			
第12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・装具の機能(遊動、制限、制動、補助)を理解する</li> <li>・装具の種類と構造を理解する</li> </ul>								講義 田代 耕一			
第13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上肢装具の分類を理解する</li> <li>・指装具の使用目的と種類を理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第14回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対立装具の使用目的と種類を理解する</li> <li>・把持装具の使用目的と種類を理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			
第15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肘装具の使用目的と種類を理解する</li> <li>・肩装具の使用目的と種類を理解する</li> </ul>								講義 遠藤 正英			

第16回	・下肢装具の分類を理解する ・下肢装具を使用する目的を理解する	講義 遠藤 正英
第17回	・下肢装具の適応を理解する ・下肢装具の部品を理解する ・下肢装具の継手の位置を理解する	講義 遠藤 正英
第18回	・長下肢装具の構造を理解する ・短下肢装具の構造を理解する ・膝装具の構造を理解する	講義 遠藤 正英
第19回	・体幹装具の目的と分類を理解する ・頸椎装具、頸胸椎装具、胸腰仙椎装具、腰仙椎装具、仙腸装具の使用目的と構造を理解する	講義 遠藤 正英
第20回	・脳卒中患者の特徴を理解する ・脳卒中患者の歩行と下肢装具での対応を理解する	講義 田代 耕一
第21回	・脳卒中患者の下肢装具の構造を理解する	講義 田代 耕一
第22回	・脳卒中患者の上肢の特徴を理解する ・脳卒中患者の肩装具の使用目的と種類を理解する	講義 田代 耕一
第23回	・脳卒中患者の手関節装具、指装具、肘装具の使用目的と種類を理解する ・三角巾の装着方法を理解する	講義 演習 田代 耕一
第24回	・脊髄損傷患者の上肢の特徴を理解する ・脊髄損傷患者の上肢装具の使用目的と種類を理解する	講義 遠藤 正英
第25回	・骨関節疾患(脱臼、骨折、腱板断裂、関節拘縮、リウマチ)患者の上肢の特徴を理解する ・骨関節疾患(脱臼、骨折、腱板断裂、関節拘縮、リウマチ)患者の上肢装具の使用目的と種類を理解する	講義 遠藤 正英
第26回	・小児疾患(ペルテス病、先天性股関節亜脱臼)患者の特徴を理解する ・小児疾患(ペルテス病、先天性股関節亜脱臼)患者に対する下肢装具の種類と使用目的を理解する	講義 遠藤 正英
第27回	・側弯症患者の特徴を理解する ・側弯症患者に対する体幹装具の構造と使用目的を理解する ・側弯症患者に対する体幹装具の種類を理解する	講義 遠藤 正英
第28回	・靴型装具の定義を理解する ・靴型装具の基本構造と分類を理解する ・靴型装具の各種補正方法について理解する	講義 遠藤 正英
第29回	・アーチの障害による靴型装具の対応を理解する ・糖尿病足の靴型装具での対応を理解する ・リウマチの靴型装具での対応を理解する	講義 遠藤 正英
第30回	最近の義肢装具	講義 遠藤 正英
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験100%	
準備学習 学習への アドバイス	・講義資料をその都度事前に配布するが、可能な限り予習しておくこと。 ・授業中、質問受け付け時間を設けることがある。理解が及ばなかった箇所は質問すること。	
教科書	千住 秀明(監修):理学療法テキストVI 痛肢装具学 第2版,:神陵文庫,2015 松田 雅弘(編集):脳卒中の装具のミカタ:医学書院,2021	
参考書		

科目名	神経系理学療法学 I					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専 門	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	長野 毅					実務経験	理学療法士として臨床経験10年 リハビリテーション養成校にて授業経験15年		
授業概要	・脳血管障害によって生じる様々な身体構造障害・活動制限・参加制限を理解するために、教科書や資料を利用し、説明を行う。								
到達目標	・中枢神経の機能について学び、随意運動の発現を理解する。 ・脳血管障害によって生じる機能障害について学び、それによって起こる障害を理解する。 ・脳血管障害患者に対する評価及び基本的治療法を修得する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	大脑の構造と機能を述べることができる。 随意運動の発現について述べることができる。								グループ学習 長野 毅
第2回	感覚の種類と上行線維を述べることができる。 大脑皮質における感覚と運動の機能局在を述べることができる。								講義 長野 毅
第3回	MRI、CT画像を見て、解剖学的名称を列挙することができる。 連合線維、交連線維、投射線維の機能について述べることができる。								講義 長野 毅
第4回	脳動脈の走行を述べることができる。 脳動脈が支配する領域を述べることができる。								講義 長野 毅
第5回	失行の種類と特徴を述べることができる。 失認の種類と特徴を述べることができる。								講義 長野 毅
第6回	失行と失認の基本的な理学療法について述べることができる。 失行と半側空間無視の検査方法を列挙することができる。								グループ学習 長野 毅
第7回	脳血管障害の種類を述べることができる。 脳血管障害が生じる原因について述べることができる。								講義 長野 毅
第8回	被殼、視床、脳幹など各部出血により生じる特徴を述べることができる。 脳梗塞の種類と特徴を述べることができる。								講義 長野 毅
第9回	脳卒中片麻痺患者の背臥位、座位の特徴を述べることができる。								講義 長野 毅
第10回	脳卒中片麻痺患者の立位の特徴を述べることができる。								講義 長野 毅
第11回	脳卒中片麻痺患者の寝返り、起き上がり動作の特徴を述べることができる。								講義 長野 毅
第12回	脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作の特徴を述べることができる。								講義 長野 毅
第13回	脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作の特徴を述べることができる。								講義 長野 毅
第14回	脳卒中片麻痺患者の歩行の特徴を述べることができる。								講義 長野 毅
第15回	脳卒中片麻痺患者の歩行の特徴を述べることができる。								PBL 長野 毅

第16回	脳血管障害後片麻痺患者に生じる機能障害の検査・測定方法を述べることができる。 脳血管障害後片麻痺患者に生じるactivity limitationの検査・測定方法を述べることができる。	演習 長野 毅
第17回	Brunnstrom test、バランス検査を実施できる。	講義 長野 毅
第18回	急性期のリハビリテーションについて述べることができる。 リスク管理について述べることができる。 脳卒中治療ガイドライン2015での取り扱いについて述べることができる。	講義 長野 毅
第19回	脳卒中片麻痺に随伴する症状を列挙できる 肩手症候群、排尿障害の特徴を述べることができる	講義 長野 毅
第20回	回復期のリハビリテーションについて述べることができる。 リスク管理について述べることができる。 脳卒中治療ガイドライン2015での取り扱いについて述べることができる。	講義 演習 長野 毅
第21回	維持期のリハビリテーションについて述べることができる。 リスク管理について述べることができる。 脳卒中治療ガイドライン2015での取り扱いについて述べることができる。	講義 演習 長野 毅
第22回	下肢装具の種類と機能について述べることができる。 歩行補助具の種類と機能について述べることができる。	講義 演習 長野 毅
第23回	脳卒中片麻痺患者の寝返り動作の特徴を踏まえた上で、介入方法を実施できる。	グループ学習 演習 長野 毅
第24回	脳卒中片麻痺患者の起き上がり動作の特徴を踏まえた上で、介入方法を実施できる。	講義 演習 長野 毅
第25回	脳卒中片麻痺立ち上がり動作の特徴を踏まえた上で、介入方法を実施できる。	講義 演習 長野 毅
第26回	脳卒中片麻痺患者の歩行動作の特徴を踏まえた上で、介入方法を実施できる。	講義 演習 長野 毅
第27回	脳卒中片麻痺患者の歩行動作の特徴を踏まえた上で、介入方法を実施できる。	講義 演習 長野 毅
第28回	ADL動作の特徴を踏まえた上で、介入方法を実施できる。	講義 演習 長野 毅
第29回	症例提示し、必要な介入方法を述べることができる。	PBL 長野 毅
第30回	症例提示し、必要な介入方法を述べることができる。	PBL 長野 毅
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験(100%)	
準備学習 学習への アドバイス	前回の授業で指示された部分の予習をしておくこと ・ビジュラントラウド：神経1中枢神経・高次脳・運動系、脳卒中(急性期)のリハビリテーション、脳卒中の回復期、高次脳機能障害、脳血管障害	
教科書	病気がみえる脳・神経(MEDICMEDIA)、標準理学療法学専門分野神經理学療法学(医学書院)、その他配布資料	
参考書		

科目名	神経系理学療法学Ⅱ					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	村上 淳也、北野 晃祐(村上華林堂病院)、木原 理恵(高木病院)					実務経験	村上:理学療法士として臨床経験12年 リハビリテーション養成校にて授業経験2年		
授業概要	神経内科領域の各種疾患の身体構造障害、活動制限、参加制限を理解するために、教科書や資料を利用し説明を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中枢神経の機能について学び、非随意運動の発現を理解する。</li> <li>・神経内科領域の各種疾患区別を理解する。</li> <li>・神経内科領域の各種疾患に対する評価方法及び基本的治療を修得する。</li> </ul>								
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回 9/7	基底核の機能を述べることが出来る。 隨意運動と非随意運動の違いを述べることが出来る。 基底核の障害から生じる機能障害を述べることが出来る。								講義 村上 淳也
第2回 9/14	小脳の機能を述べることが出来る。 小脳障害から生じる機能障害を述べることが出来る。								講義 村上 淳也
第3回 9/21	運動学習について述べることができる。 運動学習段階、戦略について述べることができる。								講義 村上 淳也
第4回 9/28	運動失調の病態を述べることができる。 運動失調症に関する理学療法アプローチの述べが出来る。 運動失調症に関する検査方法を述べが出来る。								講義 村上 淳也
第5回 10/5	バランス能力に含まれる機能を述べが出来る。 バランス能力を評価する方法を述べが出来る。 バランス能力の評価を実践し、結果を記録する事が出来る。								講義 村上 淳也
第6回 10/12	基底核、小脳機能、運動学習、運動失調、バランス能力のまとめ								演習 村上 淳也
第7回 10/19	中間の振り返り 実施と解説								演習 村上 淳也
第8回 10/26	大脳基底核の構造と機能について説明できる。 パーキンソン病の病態について説明できる。 パーキンソン病の主要症状である振戦・固縮・無動・姿勢反射障害について説明できる。								講義 村上 淳也
第9回 11/2	パーキンソン病の薬物療法における作用・副作用について説明できる。 パーキンソン病の予後と経過を重症度分類を使用して説明できる。 パーキンソニズムの原因による分類を理解し、パーキンソニズムを呈する疾患について説明できる。								講義 村上 淳也
第10回 11/9	パーキンソン病に対する理学療法評価を列挙できる。 パーキンソン病の各病期に適応する基本的理学療法を選択できる。 合併症に配慮し、各病期に応じた評価・運動療法について説明できる。								グループ学習 村上 淳也
第11回 11/16	多発性硬化症の病態を述べが出来る。 多発性硬化症の評価法を述べが出来る。 多発性硬化症の理学療法介入を述べが出来る。								講義 村上 淳也
第12回 11/30	筋萎縮性硬化症の病態を述べが出来る。 筋萎縮性硬化症の評価方法を述べが出来る。 筋萎縮性硬化症の理学療法介入を述べが出来る。								講義 北野 晃祐
第13回 12/7	末梢神経障害の分類、局所病変について説明できる。 ギラン・パレー症候群の病態と経過、予後、リスクについて説明できる。 ギラン・パレー症候群の回復過程に応じた運動の方法や運動の負荷量を説明できる。								講義 村上 淳也
第14回 12/14	慢性腫瘍の病態を述べが出来る。 慢性腫瘍の各種症状に対する理学療法を述べが出来る。 ターミナルケアの実際を述べが出来る。								講義 木原 理恵
第15回 12/21	筋疾患の分類を述べが出来る。 進行性筋ジストロフィー症の病態を述べが出来る。 進行性筋ジストロフィー症の評価方法を述べが出来る。								講義 村上 淳也
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	・中間試験(40%)定期試験(60%)								
準備学習 学習への アドバイス	・前回の授業で指示された部分の予習をしておくこと								
教科書	病気がみえる脳・神経(MEDICMEDIA)、標準理学療法学専門分野神經理学療法学(医学書院)、その他配布資料								
参考書									

科目名	運動系理学療法学 I					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前・後期	単位数	2 单位	時間数	60 時間			
講師氏名	村上 淳也 ・ 蓮本 礼佳					実務経験	村上:理学療法士として臨床経験12年 リハビリテーション養成校にて授業経験2年 蓮本:理学療法士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	代表的な骨・関節疾患について病態や症状などについて学習し、その上で理学療法に必要な評価や基本的理学療法技術について講義・演習を行う。また、それらに関する機能解剖や各疾患のリスク管理についても学習する。											
到達目標	骨・関節疾患の病態と解剖を理解した上で、その評価・リスク管理・基本的理学療法について学習し、技術を修得する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	【整形外科疾患における理学療法の注意点】 ・下肢アライメントと姿勢の関係 ・患者への触れたや触診方法、及び形態測定とROM測定の振り返り								講義 演習 村上 淳也			
第2回	【組織の再生・修復】 ・組織の再生、修復過程とそれを阻害する因子 ・炎症についての基本的な評価技術の実践								講義 演習 村上 淳也			
第3回	【骨折と脱臼】 ・骨折と脱臼の病態、様々な分類 ・骨折患者の理学療法の流れ、及び下肢骨折後などの部分荷重								講義 演習 村上 淳也			
第4回	【大腿骨頸部骨折の病態と整形外科的治療】 ・股関節周囲の解剖学的特徴、及び大腿骨頸部骨折の病態 ・Garden分類とEvans分類、及び大腿骨頸部骨折に対する整形外科的治療(手術)								講義 演習 村上 淳也			
第5回	【大腿骨頸部骨折に対する基本的理学療法】 ・大腿骨頸部骨折の合併症 ・大腿骨頸部骨折後の理学療法評価、基本的理学療法、及び後療法における基本的手技								講義 演習 村上 淳也			
第6回	【大腿骨頸部骨折の病状に合わせた基本的理学療法手技】 ・基本的な筋力増強運動 ・基本動作、ADL指導、歩行練習(主に杖を使用した)の指導								講義 演習 村上 淳也			
第7回	【変形性股関節症の疾患理解】 ・変形性関節症の病態 ・変形性股関節症の病期分類と発症性差								講義 村上 淳也			
第8回	【変形性股関節症に対する一般的な治療】 ・変形性股関節症に対する整形外科的治療の種類と特徴 ・変形性股関節症に対する薬物療法、及び整形外科的治療後の合併症								講義 演習 村上 淳也			
第9回	【変形性股関節症に対する理学療法評価①】 ・股関節のX線所見と読影方法 ・理学療法評価の項目								講義 演習 村上 淳也			
第10回	【変形性股関節症に対する理学療法評価②】 ・理学療法評価実施上の留意点 ・理学療法評価結果の解釈								講義 演習 村上 淳也			
第11回	【変形性股関節症に対する理学療法①】 ・変形性股関節症に対する運動療法の種類と目的 ・リスク管理								講義 演習 江頭 陽介			
第12回	【変形性股関節症に対する理学療法②】 ・患者を通したTHA後の理学療法について ・術後の生活指導・福祉用具の種類と選定								講義 演習 江頭 陽介			
第13回	【変形性膝関節症の疾患概念】 ・膝関節の解剖学的特徴と変形性膝関節症の病態 ・一般的な非観血的な治療と臨床症状、及びX線分類								講義 演習 村上 淳也			
第14回	【変形性膝関節症に対する理学療法】 ・変形性膝関節症に対する評価項目、及び変形により生じるアライメントの異常 ・凹凸の法則を考慮したROMexと重症度に合わせた筋力増強運動								講義 村上 淳也			
第15回	【人工膝関節置換術(TKA)】 ・変形性膝関節症に行われる手術療法 ・TKAとTKA後の理学療法								講義 村上 淳也			

第16回	【肩関節周囲炎の疾患概念および評価】 ・肩関節周囲の骨、筋の触診、及び正常な肩のX線写真 ・肩関節複合体	講義 演習 蓮本 礼佳
第17回	【肩関節周囲炎の疾患概念と病因、症状】 ・肩関節周囲炎の疾患概念と病因、症状 ・肩関節の一般的なスクリーニングテスト	講義 演習 蓮本 礼佳
第18回	【肩関節周囲炎に対する理学療法①】 ・肩関節周囲炎に対する理学療法評価と一般的な運動療法 ・コッドマン体操、Cuff-Y exercise	講義 演習 蓮本 礼佳
第19回	【肩関節周囲炎に対する理学療法②】 ・運動学を考慮した肩関節ROM ex ・腱板トレーニングと肩甲骨周囲筋に対する筋力増強運動	講義 演習 蓮本 礼佳
第20回	【肩関節周囲の疾患】 ・腱板損傷 ・肩関節脱臼、上腕骨近位端骨折	講義 演習 蓮本 礼佳
第21回	【肩関節周辺疾患の振り返り】 ・国家試験過去問題の解説 ・肩関節周辺疾患に対する理学療法の再確認	講義 演習 蓮本 礼佳
第22回	【橈骨遠位端骨折の病態と治療、およびその基本的理学療法①】 ・手指、手関節の機能解剖 ・手指、手関節周辺の外傷や変性疾患	講義 演習 蓮本 礼佳
第23回	【橈骨遠位端骨折の病態と治療、およびその基本的理学療法②】 ・橈骨遠位端骨折の原因と症状、及び整形外科的治療 ・橈骨遠位端骨折に対する基本的理学療法	講義 演習 蓮本 礼佳
第24回	【橈骨遠位端骨折の振り返り】 ・国家試験過去問題の解説 ・橈骨遠位端骨折に対する理学療法の再確認	講義 演習 蓮本 礼佳
第25回	【腰部疾患①】 ・腰椎の基本的機能解剖 ・代表的な腰部疾患の病態と臨床症状、及び一般的な脊椎手術	講義 演習 蓮本 礼佳
第26回	【腰部疾患②】 ・腰痛症に対する理学療法評価 ・腰痛症に対する一般的な理学療法、及びADL指導	講義 演習 蓮本 礼佳
第27回	【腰部疾患③】 ・腰部疾患に対する神経学的検査	講義 演習 蓮本 礼佳
第28回	【腰痛症に対する理学療法のまとめ】 ・国家試験過去問題の解説	講義 演習 蓮本 礼佳
第29回	【国試対策】	講義 蓮本 礼佳
第30回	【国試対策】	講義 蓮本 礼佳
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	期末試験(100%)	
準備学習 学習への アドバイス	次回予定分の疾患について、教科書を読み予習をして授業に臨んで下さい。また、各疾患ごとにまとめ、見直しが出来るようにファイリングしておいて下さい。講義と演習を両方行う事が多いので、動きやすい服装で参加して下さい。	
教科書	1)標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 2)内田淳正(監) : 標準整形外科学. 医学書院	
参考書	【ビジュランクラウド視聴】 1)医学教育シリーズ、臨床診断推論入門、腰痛 2)医学教育シリーズ、リハビリテーション医学、疼痛 3)医学教育シリーズ、リハビリテーション医学、運動器のリハビリテーション1、2 3)看護教育シリーズ、医療チームに必要な 画像医学の知識と技術、X線検査・CT検査・MRI検査・超音波検査	

科目名	運動系理学療法学Ⅱ					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	2 单位	時間数	60 時間			
講師氏名	宮崎 至恵 ・ 榊 英一					実務経験	宮崎:理学療法士として臨床経験17年 リハビリテーション養成校等にて授業経験18年 榊:理学療法士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校等にて授業経験12年					
授業概要	・脊髄損傷の理学療法および障害者スポーツ ・関節リウマチ、末梢神経、熱傷、切断の理学療法											
到達目標	脊髄損傷、関節リウマチ、末梢神経損傷、熱傷、切断の病態を理解した上で、理学療法評価、リスク管理、基本的理学療法について理解し、技術を修得する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	脊髄の解剖と生理(P1~3) 脊髄損傷の原因、脊髄損傷者の死亡率と死因(P3~6)								講義 宮崎 至恵			
第2回	脊髄損傷の病態、一般的な医学的治療(手術療法、装具療法含む)と経過 理学療法評価(P7~30)								講義 宮崎 至恵			
第3回	<b>確認テスト①5点分 皮筋・筋筋</b> 高位診断と横断診断(P31~36)、合併症(P38~48)								講義 宮崎 至恵			
第4回	代表的な評価表:Frankel分類、Zancolli分類、ASIA PBL:C6損傷 Case study <b>課題①5点分:初期評価項目列挙</b>								講義 PBL 宮崎 至恵			
第5回	【C6頸髄損傷の治療】 急性期の理学療法 回復期の理学療法								PBL 演習 宮崎 至恵			
第6回	【C6頸髄損傷の治療】 基本動作(寝返り、起き上がり、移乗動作、車いす駆動)、ADLに対するアプローチ								PBL 演習 宮崎 至恵			
第7回	PBL:C6損傷 Case study(問題点の整理、短期長期目標の設定、治療プログラムの立案) <b>課題②5点分:Case study 問題点の整理、短期長期目標の設定、治療プログラムの立案</b>								PBL 宮崎 至恵			
第8回	【グループワーク】C4、C5、C7、C8、T6、T12、L2、L4 損傷レベル別の問題点の整理、短期・長期目標の設定、理学療法プログラムの立案 <b>課題③5点分:グループ発表</b>								グループ学習 宮崎 至恵			
第9回	【グループ発表】C4、C5、C7、C8、T6、T12、L2、L4 問題点の整理、短期・長期目標の設定、理学療法プログラムの立案								グループ学習 宮崎 至恵			
第10回	【グループ発表】C4、C5、C7、C8、T6、T12、L2、L4 問題点の整理、短期・長期目標の設定、理学療法プログラムの立案								グループ学習 宮崎 至恵			
第11回	脊髄損傷治療の最前線 国家試験対策								講義 宮崎 至恵			
第12回	障害者スポーツ ・ボッチャ								演習 榊 英一			
第13回	障害者スポーツ ・ボッチャ								演習 榊 英一			
第14回	【関節リウマチ①】 ・病態								講義 榊 英一			
第15回	【関節リウマチ②】 ・診断基準、手術療法、薬物療法								講義 榊 英一			

第16回	【関節リウマチ③】 ・理学療法、運動療法	講義 演習 榎 英一
第17回	【関節リウマチ④】 ・PBL	グループ学習  榎 英一
第18回	【関節リウマチ⑤】 ・PBL	グループ学習  榎 英一
第19回	【関節リウマチ⑥】 ・装具療法、生活指導	講義 演習 榎 英一
第20回	【関節リウマチ⑦】 ・関節リウマチの確認、まとめ	講義  榎 英一
第21回	【末梢神経損傷①】 ・総論	講義  榎 英一
第22回	【末梢神経損傷②】 ・上肢の末梢神経損傷(1)	講義 演習 榎 英一
第23回	【末梢神経損傷③】 ・上肢の末梢神経損傷(2)	講義 演習 榎 英一
第24回	【末梢神経損傷④】 ・下肢の末梢神経損傷	講義 演習 榎 英一
第25回	【末梢神経損傷⑤】 ・PBL	グループ学習  榎 英一
第26回	【熱傷】 ・病態、分類、理学療法	講義 演習 榎 英一
第27回	【切断①】 ・切断の原因と切断レベル	講義 演習 榎 英一
第28回	【切断②】 ・切断患者への理学療法	講義 演習 榎 英一
第29回	【末梢神経損傷、熱傷、切断】 確認、まとめ	講義  榎 英一
第30回	【関節リウマチ、末梢神経損傷、熱傷、切断】 ・国家試験対策	講義  榎 英一
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	【脊髄損傷:40点】レポート提出:15点、確認テスト:5点、定期試験:20点 【関節リウマチ、末梢神経損傷、熱傷、切断:60点】中間テスト:関節リウマチ30点 定期試験:末梢神経損傷、熱傷、切断30点	
準備学習 学習への アドバイス	【脊髄損傷】復習が大切です。ビジュランクラウド「リハビリテーション医学 Vol.6 脊髄損傷」を参照のこと 【関節リウマチ、末梢神経損傷、熱傷、切断】各疾患の特徴を理解すること。国家試験の過去問を理解しましょう。	
教科書	【脊髄損傷】PTマニュアル脊髄損傷の理学療法第3版、PT・OTビジュアルテキストADL 【関節リウマチ、末梢神経損傷、熱傷、切断】標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学、crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学	
参考書	【関節リウマチ、末梢神経損傷、熱傷、切断】標準整形外科学(第14版)	

科目名	循環器系理学療法学					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	平田 大勝					実務経験	理学療法士として臨床経験9年 リハビリテーション養成校にて教育経験5年					
授業概要	心疾患、糖尿病、腎疾患、脈管系疾患の病態とリハビリテーション、心電図、1次救命およびバイタル評価実技											
到達目標	虚血性心疾患、心不全、糖尿病、腎疾患、脈管系疾患の病態および運動療法を理解する。心電図を理解し、異常波形を見分けることができる。ベッドサイドでのバイタル評価のリスク管理を理解し、演習を通して実践する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	【虚血性心疾患】次週小テスト 虚血性心疾患の病態								講義 平田 大勝			
第2回	【虚血性心疾患】次週小テスト 虚血性心疾患の運動療法・リハビリテーション								講義 平田 大勝			
第3回	【心不全】次週小テスト 心不全の病態								講義 平田 大勝			
第4回	【心不全】次週小テスト 心不全の運動療法・リハビリテーション								講義 平田 大勝			
第5回	【不整脈】次週小テスト 心筋収縮のメカニズムと心電図モニター、心音								講義 平田 大勝			
第6回	【不整脈】次週小テスト 正常洞調律 徐脈と頻脈								講義 平田 大勝			
第7回	【不整脈】次週小テスト 上室性不整脈								講義 平田 大勝			
第8回	【不整脈】次週小テスト 心室性不整脈								講義 平田 大勝			
第9回	【不整脈】 心電図およびバイタル(血圧・脈拍)の評価実技								演習 グループ学習 平田 大勝			
第10回	【不整脈】 心電図およびバイタル(血圧・脈拍)の評価実技、不整脈の判別、1次救命の実技 シミュレーションセンターにて実技試験を行う								演習 平田 大勝			
第11回	【脈管系疾患】次週小テスト 脈管系疾患の病態とリハビリテーション								講義 平田 大勝			
第12回	【糖尿病】次週小テスト 糖尿病の病態と診断、治療								講義 平田 大勝			
第13回	【糖尿病】次週小テスト 糖尿病の合併症と運動療法、薬物療法、食事療法								講義 森田 義満			
第14回	【腎不全】次週小テスト 腎不全の病態および透析 腎疾患および透析患者に対するリハビリテーション								講義 平田 大勝			
第15回	【まとめ】 第1回～第14回までのまとめ								演習 グループ学習 平田 大勝			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	小テスト 復習テスト39点(各3点×13回) 実技試験10点 定期テスト(全範囲)51点											
準備学習 学習への アドバイス	授業の内容を教科書および配布資料でしっかりと復習して下さい。 ビジュランクラウド「目で見る病気 第2版 循環器の疾患」「病気の基礎知識 病気の成因・病態と治療 循環の領域」「リハビリテーション 医学 第2版 心臓リハビリテーション、内部障害のリハビリテーション」「目で見る臨床検査 第2版 生理機能検査 II」を閲覧し、理解を深めてください。											
教科書	病気がみえる循環器疾患 第4版(メディックメディア) 標準PT・OT学 専門分野 運動療法学 各論 第4版(医学書院)											
参考書												

科目名	呼吸器系理学療法学					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	横尾 正博					実務経験	理学療法士として臨床経験10年 リハビリテーション養成校等にて授業経験23年					
授業概要	呼吸理学療法に関する、解剖・生理・運動学の知識の整理。評価、治療アプローチの修得。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸リハビリテーションという広い視野で呼吸器疾患を理解できる。</li> <li>呼吸理学療法を行ううえで必要な基礎知識・評価を修得する。</li> <li>基本的な呼吸理学療法技術(急性期～維持期)を修得する。</li> </ul>											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	<p>【呼吸器の構造としくみ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸器系の解剖</li> </ul>								講義 横尾 正博			
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸器系の生理</li> </ul>								講義 横尾 正博			
第3回	<p>【慢性閉塞性肺疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>疾患の病態</li> <li>症候・障害</li> <li>医師による治療</li> </ol> <p>呼吸器・解剖生理学確認テスト①</p>								講義 横尾 正博			
第4回	<ol style="list-style-type: none"> <li>理学療法評価(問診、フィジカルアセスメント)</li> </ol>								演習 横尾 正博			
第5回	<ol style="list-style-type: none"> <li>4-②. 理学療法評価(呼吸困難感、筋力、フィールド歩行試験、ADL評価)</li> </ol>								演習 横尾 正博			
第6回	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 理学療法士による治療(プログラム構成、コンディショニング)</li> </ol>								演習 横尾 正博			
第7回	<ol style="list-style-type: none"> <li>5-②理学療法士による治療(全身持久性トレーニング、上下肢筋トレーニング、呼吸筋トレーニング、</li> </ol>								演習 横尾 正博			
第8回	<ol style="list-style-type: none"> <li>5-③理学療法士による治療(パニックコントロール、ADLトレーニング・指導)</li> </ol> <p>慢性閉塞性肺疾患のまとめ</p>								演習 横尾 正博			
第9回	<p>【周術期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>疾患の病態</li> <li>症候・障害</li> <li>医学的検査</li> </ol> <p>慢性閉塞性肺疾患確認テスト②</p>								講義 横尾 正博			
第10回	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 理学療法評価(バイタルサイン、呼吸・酸素化の状態、疼痛、関節可動域、筋力、基本動作・ADL)</li> </ol>								演習 横尾 正博			
第11回	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 理学療法士による治療(治療戦略の立案、ROM運動、筋力トレーニング、早期離床運動)</li> </ol>								演習 横尾 正博			
第12回	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 人工呼吸器</li> </ol> <p>周術期のまとめ</p> <p>周術期確認テスト③</p>								講義 横尾 正博			
第13回	<p>【喀痰等の吸引】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>吸引の定義と目的</li> <li>吸引の適応と禁忌</li> <li>感染対策:標準予防策(スタンダードプリコーション)</li> <li>吸引の実際①:アセスメント</li> <li>吸引の実際②:吸引の手順</li> <li>合併症とその対応</li> </ol>								講義 横尾 正博			
第14回	<p>高木病院SIMセンター</p> <p>聴診、喀痰吸引</p>								演習 横尾 正博			
第15回	<p>まとめ</p> <p>人工呼吸器・吸引確認テスト④</p>								講義 横尾 正博			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)			
成績評価基準	確認テスト①～④(35点)、期末試験(60点)、レポート(提出必須5点)											
準備学習 学習への アドバイス	復習が重要です。ビジュランクラウド:リハビリテーション医学、Vol.5呼吸器のリハビリテーション、目で見る解剖と生理、Vol.6呼吸、目で見る病気、Vol.5呼吸器の病気、目で見る臨床検査、Vol.10生理機能検査 II											
教科書	1)解良武士・他:Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 2)医療情報科学研究所:病気がみえる呼吸器、メディクメディア											
参考書												

科目名	小児理学療法学					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	漆川 沙弥香					実務経験	理学療法士として臨床経験9年 リハビリテーション養成校等にて授業経験11年					
授業概要	人間発達学で学んだ各発達時期の内容を踏まえ、理学療法の基礎となる正常発達について学ぶ。 また、脳性麻痺や二分脊椎、ダウン症候群などの代表的な疾患に関する理学療法について説明を行う。											
到達目標	1. 小児理学療法の対象を知り、運動障害が発達に及ぼす影響について理解する。 2. 脳性麻痺の定義と分類を学び、その理学療法評価と理学療法介入の概要を理解する。 3. 小児期におこる代表的な疾患の病態と臨床像、理学療法について理解する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	原始反射の意義を説明できる。 立ち直り反応の意義を説明できる。 平衡反応の意義を説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第2回	各原始反射を説明できる。 各立ち直り反応を説明できる。 各平衡反応を説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第3回	代表的な運動発達検査法を説明できる。 新生児・生後3ヶ月・6ヶ月・9ヶ月・12ヶ月の特徴を説明できる。 歩行能力の獲得について概説できる。								講義 漆川 沙弥香			
第4回	脳性まひの定義を述べる。 脳性まひの疫学的動向について説明できる。 脳性まひの原因・病態・機能障害について説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第5回	米国脳性麻痺学会における脳性まひのタイプを列挙できる。 脳性麻痺で起こりうる麻痺のタイプを列挙できる。 痙直型とアトーティゼ型の相違点を説明できる								講義 漆川 沙弥香			
第6回	痙直型四肢麻痺児の特徴を列挙できる。 各肢位における特徴を説明できる。 股関節が脱臼しやすい原因を説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第7回	痙直型両麻痺児の特徴を列挙できる。 各肢位における特徴を説明できる。 移動方法(特に四つ這い移動・歩行)について説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第8回	痙直型片麻痺児の特徴を列挙できる。 各肢位における特徴を説明できる。 将来的に起こりやすい変形・拘縮について説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第9回	アトーティゼ型四肢麻痺児の新生児期の特徴について説明できる。 各肢位における特徴および移動方法(歩行)を説明できる。 上肢機能の特徴について目と手の協調性の観点から説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第10回	発達検査を列挙できる。 運動発達検査を列挙できる。 日常生活および能力障害の評価を列挙できる。								講義 漆川 沙弥香			
第11回	アトーティゼ型四肢麻痺者の理学療法を行うにあたり必要な検査測定項目を列挙できる。								臨床経験 漆川 沙弥香			
第12回	重症心身障害の定義と臨床像、成長に伴う臨床像の変化について説明できる。 重症心身障害に対する理学療法評価とアプローチについて説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第13回	二分脊椎症の病態と臨床像について説明できる。 二分脊椎症に対する理学療法評価と治療アプローチについて説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第14回	ダウン症候群の病態と臨床像について説明できる。 ダウン症候群に対する理学療法評価と治療アプローチについて説明できる。 発達障害について説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
第15回	低出生体重児・ハイリスク児の理学療法評価と治療アプローチについて説明できる。								講義 漆川 沙弥香			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	定期試験(100%)											
準備学習 学習への アドバイス	・人間発達学で学んだ正常運動発達について復習しておくこと。 ・小児科学で学んだ疾患について復習しておくこと。											
教科書	・細田多穂監修:小児理学療法学テキスト改訂第3版,南江堂											
参考書	なし											

科目名	生活環境学					学 科	理学療法学科					
年 次	2年次	分 野	専 門	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	高嶋 美和 他					実務経験	理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校等にて授業経験8年					
授業概要	障害者や高齢者が在宅で快適に生活するための住環境整備を中心に、現在の住宅事情をふまえた住宅改修の方法、および生活行為や疾患別の住宅改修の実際について学ぶ。											
到達目標	医療専門職として生活環境整備に関する助言ができるようになることを全体の目標とする。 ・バリアフリー・ユニバーサルデザインの概念を説明できる。 ・障害特性からとらえた生活環境整備の例を理解し、個々のニーズに即した適切なアドバイスができる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )											
第1回	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備① 脳血管疾患・廐用症候群・骨折・認知症の特徴と福祉住環境整備について学ぶ。											
第2回	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備② 関節リウマチ・パーキンソン病・糖尿病・心筋梗塞の特徴と福祉住環境整備について学ぶ。											
第3回	障害別に見た福祉住環境整備① 肢体不自由(脊髄損傷、筋ジストロフィー、脊髄小脳変性症、ALS、脳性麻痺、切断)の特徴と福祉住環境整備について学ぶ。											
第4回	障害別に見た福祉住環境整備② 内部障害(心臓機能障害、呼吸器機能障害、腎臓機能障害、膀胱・直腸・小腸機能障害、HIV、肝臓機能障害)の特徴と福祉住環境整備について学ぶ。											
第5回	福祉住環境整備の共通基本技術① 段差の解消、床材の選択、手すりの取り付けについて学ぶ。											
第6回	福祉住環境整備の共通基本技術② 建具への配慮、スペースへの配慮、家具・収納、色彩・照明計画、インテリアへの配慮について学ぶ。											
第7回	生活行為別福祉住環境整備の手法① 外出、屋内移動における住環境整備への配慮と注意点について学ぶ。											
第8回	生活行為別福祉住環境整備の手法② 排泄、入浴、更衣における住環境整備への配慮と注意点について学ぶ。											
第9回	事例を通じて住宅改修のプロセスと方法について学ぶ。											
第10回	生活行為別福祉住環境整備の手法③ 調理と食事、団らん、就寝への配慮と注意点について学ぶ。											
第11回	障害別に見た福祉住環境整備③ 視覚・聴覚・言語障害の特徴と福祉住環境整備について学ぶ。											
第12回	「太陽の家」見学											
第13回	「太陽の家」見学											
第14回	「太陽の家」見学											
第15回	「太陽の家」見学											
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	定期試験(80%)、レポート(20%)											
準備学習 学習への アドバイス	福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト(第3章、第4章、第5章)を読み込むこと。 高齢者を取り巻く環境は年々変化しているため、内閣府ホームページ(高齢社会白書)で最新情報にも目を通すこと。											
教科書	毎回: 福祉住環境コーディネーター検定試験2級 公式テキスト 適宜: 福祉住環境コーディネーター検定試験2級過去問題集											
参考書	なし											

科目名	地域理学療法学					学科	理学療法学科		
年次	2年次	分野	専門	学期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	榎 英一・他外来講師					実務経験	理学療法士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校等にて授業経験12年		
授業概要	介護保険制度や地域包括ケアシステムについて学ぶ。								
到達目標	地域生活を基盤として行われるリハビリテーション領域の様々な活動形態を知り、その背景となる制度や仕組みについて理解することができる。また、各機関における理学療法士や関連職種が果たす役割について理解する。								
回数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	【地域における理学療法士の役割】 ・社会保障制度 ・地域理学療法と理学療法士の役割								講義 榎 英一
第2回	【介護保険制度】 ・対象者、および申請からサービス利用までの流れ ・保険給付								講義 榎 英一
第3回	【国家試験対策】 ・国家試験に出題される単語の理解								グループ学習 榎 英一
第4回	【地域理学療法に求められる医学的管理】 ・リスク管理								講義 演習 榎 英一
第5回	【地域理学療法に求められる医学的管理】 ・リスク管理								講義 演習 榎 英一
第6回	【地域での理学療法評価】 ・活動と参加に対する評価								講義 演習 榎 英一
第7回	【地域での理学療法評価】 ・活動と参加に対する評価								講義 演習 榎 英一
第8回	【訪問理学療法】 ・訪問リハビリテーションの実際								講義 外来講師
第9回	【通所リハビリテーション】 ・通所リハビリテーションの実際								講義 外来講師
第10回	【通所介護】 ・デイサービスの実際								講義 外来講師
第11回	【通所介護】 ・デイサービスの実際								講義 外来講師
第12回	【地域包括ケアシステム】 ・地域包括支援センターの役割								講義 演習 外来講師
第13回	【介護予防】 ・介護予防やパワーリハビリテーションについて理解する								講義 演習 山本 俊就
第14回	【機能特化型デイサービス りはらいふ・演習】 ・介護予防やパワーリハビリテーションを体験する								講義 演習 山本 俊就
第15回	【機能特化型デイサービス りはらいふ・演習】 ・介護予防やパワーリハビリテーションを体験する								講義 演習 山本 俊就
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	期末試験(90%)、デイリーレポート(10%)								
準備学習 学習への アドバイス	前期に2コマの学外演習あり(りはらいふ)。後期に教科書を使用して講義を行う。また地域で活躍している理学療法士や他職種の方々からの講義あり。他職種連携についても意識して学習すること。								
教科書	牧迫飛雄馬、吉松竜貴(編):最新 理学療法講座 地域理学療法学, 医歯薬出版								
参考書									

科目名	福祉援助工学概論					学 科	理学療法学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時 間 数	30 時間
講師氏名	高嶋 美和 他					実務経験	理学療法士として臨床経験8年 リハビリテーション養成校等にて授業経験8年		
授業概要	運動機能に障害をもつ方や高齢者を対象として、バリアフリーやユニバーサルデザインの概念や介護保険法等の法制度の仕組みと福祉用具の位置付けについて学ぶ。								
到達目標	身体機能の評価に合わせた福祉用具の選択と使用に関する助言ができるようになることを全体の目標とする。 ・生活行為や疾患別の福祉用具について説明でき、個々のニーズに即した適切な助言ができる。 ・介護実習普及センターの見学を通じ、実践的な視点を持つことができる。								
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	高齢を取り巻く社会状況と住環境を学ぶ。 介護保険制度導入までの高齢者保健福祉施策の変遷を理解する。 介護保険制度の目的・理念と基本的なしくみを理解する。								高嶋 美和 1章 1節
第2回	障がい者を取り巻く社会状況と住環境を学ぶ。 障害者福祉施策の概要と障害者総合支援法の概要について理解する。 社会が求める福祉住環境コーディネーターの役割と機能を理解する。								高嶋 美和 1章 2・3節
第3回	障がいの捉え方と自立支援のあり方を学ぶ。 リハビリテーションと自立支援について整理し、理解する。 高齢者の心身特性を理解する。								高嶋 美和 2章 1・2・3節
第4回	障がい者の心身の特性を理解する。 在宅介護での自立支援のあり方について理解する。								高嶋 美和 2章 4・5節
第5回	在宅生活における福祉用具の活用について学ぶ。 福祉用具の意味と適用について理解する。 福祉用具の選択・適用のプロセスについて学ぶ。								高嶋 美和 6章 1節
第6回	生活行為別にみた福祉用具の活用① 起居・就寝(特殊寝台、体位変換器)、移動(手すり、歩行補助つえ、歩行器・歩行車、シルバーカー)の種類と適応について学ぶ。								高嶋 美和 6章 2節 AB
第7回	生活行為別にみた福祉用具の活用② 移動(車いす、車椅子用クッション、スロープ、段差解消機、階段昇降機、リフト・吊り具)の種類と適応について学ぶ。								高嶋 美和 6章 2節 B
第8回	生活行為別にみた福祉用具の活用③ 車椅子の操作についての指導法について学ぶ 松葉杖の操作についての指導法について学ぶ。								高嶋 美和 6章 2節 B
第9回	生活行為別にみた福祉用具の活用④ 排泄(腰かけ便座、トイレ用手すり、トイレ用車いす、収尿器)の種類と適応について学ぶ。								高嶋 美和 6章 2節 C
第10回	生活行為別にみた福祉用具の活用⑤ 入浴(入浴補助用具、入浴用リフト、シャワー用車いす)の種類と適応について学ぶ。								高嶋 美和 6章 2節 D
第11回	生活行為別にみた福祉用具の活用⑥ 自助具・認知症老人徘徊感知機器・環境制御装置の種類と適応について学ぶ。								高嶋 美和 6章 2節 E
第12回	「介護実習普及センター見学」 各福祉用具についてテーマ別に適応、用途を学ぶ。								演習
第13回	「介護実習普及センター見学」 各福祉用具についてテーマ別に適応、用途を学ぶ。								演習
第14回	「介護実習普及センター見学」 各福祉用具についてテーマ別に適応、用途を学ぶ。								演習
第15回	「介護実習普及センター見学」を終えて 各福祉用具についてテーマ別に適応、用途、使用感などをまとめる。								演習
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	介護実習普及センター見学レポート(20%)、定期試験(80%)								
準備学習 学習への アドバイス	福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト(第1章、第2章、第6章)を読み込むこと。 高齢者を取り巻く環境は年々変化しているため、内閣府ホームページ(高齢社会白書)で最新情報にも目を通すこと。								
教科書	毎回: 福祉住環境コーディネーター検定試験2級 公式テキスト 適宜: 福祉住環境コーディネーター検定試験2級過去問題集								
参考書	なし								

科目名	臨床実習Ⅱ(評価実習)					学 科	理学療法学科										
年 次	2年次	分 野	専 門	学 期	後 期	単位数	4 单位	時間数	180 時間								
講師氏名	村上 淳也					実務経験	理学療法士として臨床経験12年、リハビリテーション養成校にて授業経験2年										
授業概要	実習前に認知スキル、運動スキルの修得を確認する。実習施設において、現場の理学療法士の指導を受けながら、実際の患者さんに対して検査・測定を実施する。検査・測定によって得られた結果を統合的に解釈し、問題点の抽出と目標の設定を行う。実習後認知・運動スキルを再評価する。																
到達目標	1. 実習施設における理学療法、及び理学療法士の役割、機能を知る。 2. 対象者を全体的に把握するために必要な評価法(情報収集、観察、面接、検査・測定など)を身につける。 3. 評価に基づき、問題点の抽出と目標の設定を行う。 4. 医療者としての基本的な態度を習得する。																
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名								
15時間	【実習前評価】 認知スキル評価 CBT	2年生で学習した専門基礎、専門の知識の修得を確認する。 (運動系理学療法学、神経系理学療法学、呼吸器系理学療法学 循環器系理学療法学、理学療法評価学Ⅲ) テストに向けた事前学習。															
15時間	【実習前評価】 運動スキル評価 OSCE	臨床実習で求められる評価技術の確認。 認知、運動、情意面を症例を通して実技試験から評価する。 ※ループリックに基づく 実技試験に向けた練習。															
1/24  2/16 (9時間×15)	理学療法を実行するための評価を行う。	医療人としての身だしなみ・態度・挨拶がきちんとできる。 実習病院・施設の規則を守ることができる。 実習施設内の整理整頓をこころがけることができる。 実習施設の職員に対して実習生として節度ある対応ができる。 対象者に対して節度ある言葉を使い、礼儀を尽くして接することができる。 物事に対する向上心・探究心を發揮し、行動することができる。 指導者に対して、適切な報告・連絡・相談ができる。 対象者の人間性を尊重し、プライバシーを配慮することができる。 悩みを抱え込まず、自発的に援助を求めることができる。 指導されたことを素直に受け止めて修正する努力ができる。 対象者の疾患に対する基礎知識を確認し、説明できる。 対象者へのリスク管理ができる。 検査・測定に関するオリエンテーションができる。 面接および他部門からの情報収集ができる。 対象者に即した検査・測定項目、検査・測定方法を選択できる。 対象者のそれぞれの検査・測定結果の意味が理解できる。 得られた情報を統合・解釈し、問題点を挙げることができる。 ケースノートを適宜報告できる。															
	理学療法の記録・報告を行う。	ケースノートが作成できる。 対象者の経過を適宜、報告できる。文献および書籍の活用ができる。															
	理学療法を実行するための評価技術を実施する。	情報収集ができる。全身状態(バイタルサイン)の把握ができる。 意識精神状態の把握ができる。感覚・知覚検査ができる。 各種反射検査ができる。筋緊張(筋トーネス)検査ができる。 形態測定ができる。関節可動域測定ができる。 片麻痺運動機能検査ができる。徒手筋力検査ができる。 疼痛検査ができる。姿勢・アライメント観察ができる。 バランス検査ができる。ADL検査ができる。															
15時間	【実習前評価】 総合評価 実習で経験した症例について凝縮ポートフォリオを作成し、口頭試問を行う。	経験した症例についての凝縮ポートフォリオが作成できる。 経験した症例についての口頭試問に適切に応えられる。 ※ループリックに基づく															
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (CBT, OSCE, 評価実習経過報告書および提出課題内容、学内での口頭試問)																
成績評価基準	実習経過報告書、提出課題、症例報告会、ならびに基礎・専門基礎・専門の知識を総合的に評価する。																
準備学習 学習への アドバイス	・パソコン操作や表の作成方法については事前に確認し、独力で実践できるようになっておくこと。 ・実習で必要となる基礎知識・検査測定技術に関して、自己学習を進めておくこと。 ・理学療法実践や理学療法プロセスなどの科目は評価実習における実践に類似した内容を多く含むため記録方法や理学療法の思考過程など整理しながら授業に臨むこと。																
教科書	・なし																
参考書	・学内の講義で使用した教科書および配布資料																

令和5年度

# 授業計画（シラバス）集



専門学校

柳川リハビリテーション学院

理学療法学科 3年

2023

## 目 次

### 理学療法学科

第3学年	【専門基礎分野】	頁
	リハビリテーション科学Ⅱ	1
	社会保障論	2
	多職種連携論	3
【専門分野】		
	理学療法特論Ⅰ	4
	理学療法特論Ⅱ	5
	理学療法特論Ⅲ	6
	理学療法研究法	7
	臨床実習Ⅲ(総合臨床実習)	8

科目名	リハビリテーション科学Ⅱ					学 科	理学療法学科					
年 次	3年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	横尾 正博 ・ 他					実務経験	理学療法士として臨床経験10年 リハビリテーション養成校等にて授業経験23年					
授業概要	高度化する医療ニーズに対応するため ①臨床薬学、②画像診断学 の基礎を学ぶ。画像診断については、国家試験過去問を振り返り解剖の知識を定着させるとともに、そこから得られた情報をもとに治療方法を検討する。											
到達目標	1. 国家試験の内容に含まれる臨床薬学の基礎を理解する 2. 国家試験の内容に含まれる画像診断学の基礎を理解するとともに理学療法技術の向上を図る											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	理学療法に必要な画像のみかた 運動器疾患①								講義 榎 英一			
第2回	理学療法に必要な画像のみかた 運動器疾患②								講義 榎 英一			
第3回	理学療法に必要な画像のみかた 運動器疾患③								講義 榎 英一			
第4回	理学療法に必要な画像のみかた 運動器疾患④								講義 榎 英一			
第5回	理学療法に必要な画像のみかた 脳血管疾患①								平田 大勝			
第6回	理学療法に必要な画像のみかた 脳血管疾患②								平田 大勝			
第7回	理学療法に必要な画像のみかた 脳血管疾患③								平田 大勝			
第8回	理学療法に必要な画像のみかた 脳血管疾患④								平田 大勝			
第9回	理学療法に必要な画像のみかた 内部障害①								講義 横尾 正博			
第10回	理学療法に必要な画像のみかた 内部障害②								講義 横尾 正博			
第11回	理学療法に必要な画像のみかた 内部障害③								講義 横尾 正博			
第12回	理学療法士に必要な薬理の基礎								講義 福田 光良			
第13回	理学療法士に必要な薬理の基礎								講義 福田 光良			
第14回	国家試験 画像問題についての試験								講義 平田 大勝			
第15回	国家試験 画像問題・薬剤についての試験								講義 平田 大勝			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	筆記試験(100点)											
準備学習 学習への アドバイス	定期試験は国家試験の画像問題および実地問題をベースにします。解剖学の理解が重要です。											
教科書	1・2年次の教科書											
参考書	筆記試験に向けた参考書は、国家試験対策Guideを参考のこと											

科目名	社会保障論					学 科	理学療法学科		
年 次	3年次	分 野	専門基礎	学 期	前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
講師氏名	各担当講師					実務経験			
授業概要	理学療法士・作業療法士に必要な社会保障制度、特に医療関連法規に基づく制度について講義形式で説明する。								
到達目標	理学療法士・作業療法士に必要な社会保障制度、特に医療関連法規に基づく制度について理解する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	リハビリテーションと社会保障制度について理解する 日本の社会保障の成り立ち リハビリテーションと社会保障制度の関係								講義 榎 英一
第2回	理学療法士および作業療法士法について理解する 理学療法士および作業療法士に関連する医療法について 欧米における資格制度とその理解								講義 中満 篤子
第3回	日本の医療制度について理解する 医療制度の変遷、現在の医療制度								講義 村上 武士
第4回	医療保険について理解する 医療保険の成り立ち 診療報酬の内容、カルテの記載項目について								講義 村上 武士
第5回	精神保健福祉法、医療観察法について理解する 精神保健福祉法の特徴 医療観察法の特徴								講義 奈良 直貴
第6回	老人福祉法、老人保健法、介護保険法について理解する 老年期障がい領域の主な制度化の流れ 高齢期の保健、福祉、介護予防に関する施策								講義 伊賀 信也
第7回	障がい者総合支援法について理解する 障がい者総合支援法の成り立ち、特徴 障がい福祉サービスについて								講義 中満 篤子
第8回	社会保障についてのまとめ(レポート作成)								演習 蓮本 礼佳 石原 浩二
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	レポート課題(100点)								
準備学習 学習への アドバイス	日頃からニュースや新聞等で社会保障、特に医療関連分野の記事に目を向け、制度の理解、今後の進むべき方向に关心を寄せること								
教科書	配布資料								
参考書									

科目名	多職種連携					学 科	理学療法学科					
年 次	3年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	15 時間			
講師氏名	榎 英一・他学科教員					実務経験	理学療法士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校等にて授業経験12年					
授業概要	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として模擬患者の情報を整理し、問題点、目標、治療プログラムを検討する、その後、職種間で情報を共有(模擬カンファレンス)し、医療チームとしての多職種連携を学ぶとともに患者の理解を深める。											
到達目標	医療チームとしての他職種連携を学び患者の理解を深める											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	模擬患者の診療情報提供書から必要な情報を収集する								グループ学習 榎 英一 蓮本 礼佳			
第2回	初期評価結果をもとに、多職種へ情報提供を行う								グループ学習 榎 英一 蓮本 礼佳			
第3回	多職種との情報共有を深める								グループ学習 榎 英一 蓮本 礼佳			
第4回	多職種との情報共有を深める								グループ学習 榎 英一 蓮本 礼佳			
第5回	多職種と連携し、模擬患者の問題点、目標、治療プログラムを検討する								グループ学習 榎 英一 蓮本 礼佳			
第6回	多職種と連携し、模擬患者の問題点、目標、治療プログラムを検討する								グループ学習 榎 英一 蓮本 礼佳			
第7回	模擬カンファレンスを通して多職種連携の理解を深める								グループ学習 榎 英一 蓮本 礼佳			
第8回	模擬カンファレンスを通して多職種連携の理解を深める								グループ学習 榎 英一 蓮本 礼佳			
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	レポート(100点)											
準備学習 学習への アドバイス	リハビリテーション医療はチーム医療です。臨床実習および就職後を想定しながら学習をすすめてください。											
教科書	教科書なし											
参考書												

科目名	理学療法特論 I					学 科	理学療法学科				
年 次	3年次	分 野	専門	学 期	前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間		
講師氏名	各担当講師					実務経験					
授業概要	臨床実習Ⅲに必要な知識・技術・思考過程・リスク管理を臨床の理学療法士等から学ぶ										
到達目標	臨床実習Ⅲに必要な実践的な知識・技術・思考過程・リスク管理を修得する										
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )							授業形態 講師氏名			
第1回	感染対策 感染予防のための衛生管理							演習 境 めぐみ			
第2回	喀痰吸引の実技 モデルを使った喀痰吸引の実際							演習 演習 境 めぐみ			
第3回	画像の見方① 理学療法に必要な運動器疾患、脳血管疾患の画像所見							演習 小出 佳典			
第4回	画像の見方② 理学療法に必要な運動器疾患、脳血管疾患の画像所見							演習 小出 佳典			
第5回	運動器理学療法の思考過程と実際①							演習 小ヶ倉 悠太			
第6回	運動器理学療法の思考過程と実際②							演習 小ヶ倉 悠太			
第7回	自己管理・リスク管理の実際①							講義 蓮本 礼佳			
第8回	自己管理・リスク管理の実際②							講義 蓮本 礼佳			
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )										
成績評価基準	講義に対するレポート提出(100%)										
準備学習 学習への アドバイス	臨床実習に向けた実践的な内容になっています。十分な準備をして実習にのぞみましょう。										
教科書	1.2年時の教科書										
参考書											

科目名	理学療法特論Ⅱ					学 科	理学療法学科		
年 次	3年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	蓮本 礼佳・他					実務経験	理学療法士として臨床経験5年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	国家試験過去問10年分を振り返り、理学療法士に必要な知識・技術をグループ学習を通して修得する								
到達目標	国家試験合格を目指す								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	解剖学・運動学のまとめ								グループ学習 蓮本 礼佳
第2回	生理学のまとめ								グループ学習 蓮本 礼佳
第3回	一般臨床医学のまとめ								グループ学習 蓮本 礼佳
第4回	専門科目のまとめ 運動器								グループ学習 蓮本 礼佳
第5回	専門科目のまとめ 脳血管								グループ学習 蓮本 礼佳
第6回	専門科目のまとめ 内部障害								グループ学習 蓮本 礼佳
第7回	専門科目のまとめ 小児								グループ学習 蓮本 礼佳
第8回	専門科目のまとめ 義肢装具								グループ学習 蓮本 礼佳
第9回	専門科目のまとめ 物理療法								グループ学習 蓮本 礼佳
第10回	全体のまとめ 過去問10年分								グループ学習 蓮本 礼佳
第11回	全体のまとめ 過去問10年分								グループ学習 蓮本 礼佳
第12回	全体のまとめ 過去問10年分								グループ学習 蓮本 礼佳
第13回	全体のまとめ 過去問10年分								グループ学習 蓮本 礼佳
第14回	全体のまとめ 過去問10年分								グループ学習 蓮本 礼佳
第15回	全体のまとめ 過去10年分								グループ学習 蓮本 礼佳
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	筆記試験(100点)								
準備学習 学習への アドバイス	国家試験過去問の徹底的な理解が合格につながります								
教科書	1・2年次の教科書								
参考書	筆記試験に向けた参考書は、国家試験対策Guideを参考のこと								

科目名	理学療法特論Ⅲ					学 科	理学療法学科		
年 次	3年次	分 野	専門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	蓮本 礼佳・他					実務経験	理学療法士として臨床経験5年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	講義を通して、理学療法士に必要な基礎分野(解剖・生理・運動学、一般臨床医学)の知識を定着させる。								
到達目標	理学療法専門基礎分野の知識の定着を図り、国家試験合格を目指す。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								講義
第2回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								各担当講師
第3回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								講義
第4回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								各担当講師
第5回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								講義
第6回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								各担当講師
第7回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								講義
第8回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								各担当講師
第9回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								講義
第10回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								各担当講師
第11回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								講義
第12回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								各担当講師
第13回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								講義
第14回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								各担当講師
第15回	解剖・運動・生理学、一般臨床医学のまとめ								講義
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 講義ノート提出 )								
成績評価基準	講義板書のノート内容を評価する								
準備学習 学習への アドバイス	集中し講義を受けること。復習を心がけること。講義ノートを繰り返し確認し有効に活用すること。								
教科書	1.2年次に使用したもの								
参考書	国家試験対策Guideを参考のこと								

科目名	理学療法研究法					学 科	理学療法学科		
年 次	3年次	分 野	専 閔	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	蓮本 礼佳					実務経験	理学療法士として臨床経験5年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	国家試験形式の試験(業者模試、学内模試、卒業試験)を通じ、理学療法士に必要な知識・治療技術の修得度を測りながら、理解を深める。								
到達目標	理学療法士に必要な知識・治療技術を修得し、国家試験合格を目指す								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	第2回 医歯薬出版模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第2回	第2回 医歯薬出版模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第3回	第2回 医歯薬出版模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第4回	第1回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第5回	第1回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第6回	第1回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第7回	第2回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第8回	第2回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第9回	第2回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第10回	学内卒業試験								グループ学習 蓮本 礼佳
第11回	学内卒業試験								グループ学習 蓮本 礼佳
第12回	学内卒業試験								グループ学習 蓮本 礼佳
第13回	第3回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第14回	第3回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
第15回	第3回 アイベック模試 実施と復習								グループ学習 蓮本 礼佳
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	4回の卒業試験で60%以上の得点が、少なくとも1回以上達成できた場合に単位修得とする								
準備学習 学習への アドバイス	試験内容は解剖・生理・運動学などの基礎分野、神経内科、整形外科、精神科などの臨床医学、運動器、脳血管系、内部障害系、小児などの専門分野と幅広い範囲から出題されるため早めの準備が大切です。リハ科学Ⅱ、特論Ⅱ・Ⅲを含めて学習を進めてください。								
教科書									
参考書	国家試験対策Guideを参考のこと								

科目名	臨床実習Ⅲ(総合臨床実習)					学 科	理学療法学科					
年 次	3年次	分 野	専門	学 期	前 期	単位数	18 単位	時間数	810 時間			
講師氏名	蓮本 礼佳					実務経験	理学療法士として臨床経験5年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	臨床実習施設において臨床実習指導者の指導を受けながら、対象者の評価、治療方針の立案、具体的治療の実施、適宜再評価、治療の検討という一連の理学療法について学ぶ。											
到達目標	1. 実習指導者の指導のもと、できる限り多くの対象者の理学療法評価および理学療法方針の立案・具体的治療の実施・記録を経験する。結果を踏まえて仮説を検証する一連の理学療法の流れを学ぶ。 2. 理学療法士が日常業務で行うスケジュールの組み方やその管理・運営方法を学ぶ。 3. チーム医療法重要性を学ぶ。 4. 対象者との関わりの中で、理学療法の意義を考え、理学療法士の社会的役割を学ぶ。 5. 実習施設の特色を理解し、専門性を学ぶ。 6. 医療従事者としての振舞い・責任・健康管理など、社会的態度を身につける。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
I 期 5/8~7/1	<b>【専門職への適性およびふさわしい態度】</b> -医療人としての身だしなみ・態度・挨拶 -実習施設、病院規則の理解 -実習施設内の整理整頓、清掃 -実習施設職員に対する実習生としての対応 -対象者への節度ある言葉使いや礼儀 -向上心と探求心 -指導者に対する適切な報告・連絡・相談 -対象者のプライバシーおよび個人情報保護 -悩みを抱え込まず自発的な援助要請 -指導されたことを素直に受け止めて修正する努力											
実習後評価 7/3~	<b>【理学療法を実行するための情報収集、検査・測定】</b> -対象者の面接の中で必要な情報収集 -他部門からの情報を収集して対象者の状態を多面的に捉える -対象者に即した検査・測定の選択および正確な実施 -面接、検査、測定結果の正確な記録 -得られた情報の統合と解釈、的確な問題点の列挙											
II 期 7/18~9/9	<b>【理学療法の治療計画の立案】</b> -治療目標の設定 -治療法の適応を提示した具体的な方法 -必要に応じた治療計画の変更											
実習後評価 9/11~	<b>【理学療法の実施】</b> -オリエンテーション(対象者への丁寧な説明と同意を得ることを含む) -安全性、リスク等への配慮 -対象者に即した基本的な理学療法治療の実施 -対象者の変化に応じた治療の変更 -ケースノート等を用いた報告											
<b>実習後評価</b> <b>【ポートフォリオの作成と口頭試問】</b> -ポートフォリオの提出期限の遵守 -実習で経験した症例の口頭試問(ポートフォリオ採点用ループリックを使用) -ゼミ間での症例情報の共有												
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( ポートフォリオ提出、口頭試問 )											
成績評価基準	臨床実習経過報告書、提出課題(ポートフォリオ等)、各期実習後の口頭試問											
準備学習 学習への アドバイス	基礎分野、専門基礎分野、専門分野の内容を十分理解しておくこと。実習中はパソコンを使用するため操作方法を習得しておくこと。基本的な検査測定について復習し、各評価チャートなども準備しておくこと。											
教科書	なし											
参考書												